

2020

サステナビリティレポート

スクレッティングサステナビリティ活動報告



目次

はじめに	3
主要なパートナー	13
ロードマップ 2025 の紹介	17
動物の健康と福祉	20
気候と循環	25
良き市民として	38
養魚とエビの生産に用いられる飼料原料	45
スクレッティングについて	55



はじめに CEO からのご挨拶



スクレッチングのサステナビリティレポート 2020 へようこそ。このレポートは、私たちの多くが未曾有の試練に直面した 2020 年の 1 年間にスクレッチングが取り組んだ最新の報告書です。コロナ禍の中困難と不安に苦しむ人は今も多く、様々な側面において世界は苦しい状態にありますが、この厳しい状況にあってもポジティブで重要な変化は起きています。

それはスクレッチングも同様です。コロナ禍の試練に直面しながらも、スクレッチングの工場が 1 社も閉鎖せず、激動する市場の需要を満たすのに必要不可欠な水産飼料の製造とソリューションの提供を続けられたことは、私にとって誇りとなりましたし、これからもずっとそうでしょう。昨年 1 日当たり 2100 万食の魚介類を生産することができたのは、こうした努力の結果です。

私たちのこのしなやかさは従業員やチームのコミットメントの証であると同時に、足元を見直すことに価値を見出し、スクレッチングが事業の基盤とする安全文化の重要性を示しています。それと同時に多様性と包括性、温室効果ガスの排出量削減、薬剤耐性の向上に継続的な努力をし、さらに多くの新たなイニシアティブが進行中です。

また、スクレッチングは昨年ステークホルダーとのパートナーシップでも数多くの前進を遂げました。

今も、そしてこれからも、私たちは常に高い意欲を持つ会社です。世界の水産養殖業界において、食糧安全保障を提供する側として、その能力を最大限に発揮する原動力となろうと考えています。しかし、これを独力で成し遂げることが、私たちを含め誰にもできません。協働することが必要で、同じ産業で連携すれば、単独で行うよりもはるかに強い力が生まれます。私たちは共通の行動責任を負っているのです。

今も、そしてこれからも、私たちは常に高い意欲を持つ会社です。世界の水産養殖業界において、食糧安全保障を提供する側として、その能力を最大限に発揮する原動力となろうと考えています。

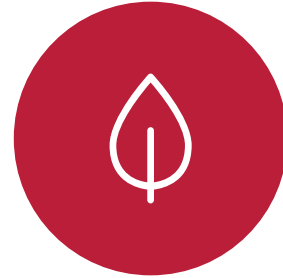
2020 年末を迎えるにあたり、他の何よりも重要な、今後数年間にわたってサステナビリティの目標を定義する [ニューテレコ サステナビリティ ロードマップ 2025](#) が完成しました。その基盤になるのはいわゆるサステナビリティの 3 つの柱である「健康と福祉」、「気候と循環」、「良き市民」です。スクレッチングの進歩とコミットメントの具体的な目標を定めた、新たな戦略についてはこのレポート全体にわたっていくつかご紹介しています。ただ強調しておきたいのは、このロードマップを策定するため行われた作業が、私たちの日々のオペレーションの中核にあるサス

テナビリティの重要性を強めるものとなったことです。すべての従業員の懸念や関心に応えていけるよう、私たちは歩みを止めることなく努力を続けていきます。

当レポートで伝えているように、サステナビリティはスクレッチングの DNA の一部です。複数の主要な分野で長い時間をかけて改善すべき部分が多くあることを、私たちは明確に意識しています。それでも現在、私たちが歩んでいるこの道は、将来の地球のニーズにつながるものです。世界中の私たちのパートナーをサポートし、水産養殖産業のサステナブルな成長を加速するうえで、私たちが今いる場所が今まさに役に立つときです。私たちはだからこそ、「Feeding the Future」というパーパスの実現に専念することができるのです。

Therese Log Bergjord、スクレッチングCEO

この報告書について



私たちのアプローチ

スクレッチングが長きに渡り真摯に取り組み続けていることの1つが、サステナビリティを目指す取り組みの進捗報告です。サステナビリティレポートは1999年から発行しています。当初はスクレッチング ノルウェーが中心となっていました。2013年からはグローバルビジネス活動も報告に含まれています。スクレッチングのサステナビリティイニシアティブはその営業活動と優先事項に密接に関連しています。



レポートの構成

スクレッチングのグローバル サステナビリティレポートでは、スクレッチングとは何なのか、2020年のサステナビリティに関連する活動の実績を報告しています。本レポートは紙媒体でもウェブサイトからも入手できます。私たちのステークホルダーは従業員、顧客、消費者、サプライヤー、政府など多岐に渡るため、それぞれが最も関心を持つ情報を見つけやすいよう編集しています。各国のスクレッチングにおいても国に特化したサステナビリティレポートを公表し、その国の課題をより掘り下げて報告しています。



レポートの範囲

本レポートに掲載した量的データは、別途の記載がなければ2020年1月1日から12月31日までの1年間における、ニュートレコのスクレッチング部門に所属する全社の活動に関するものです。スクレッチング部門はニュートレコの養殖栄養とサービスに関する取り組みを担っています。ニュートレコの株主はオランダの企業SHVで、すべての公的な財務情報はSHVから報告されたものです。このレポートに掲載している財務情報はその一部に過ぎません。



レポートの枠組み

本レポートは、GRIスタンダードの中核オプションに沿って作成しています。また国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）に関しても、当社がSDGsに沿った目標を設定し、またSDGsの達成を支援していることを、本レポート全体で示して説明しています。



開示の保証

スクレッチングでは、本レポートで開示した情報の外部検証を行っていませんが、ニュートレコは外部企業と協力してニュートレコ サステナビリティレポートで開示した情報を検証しています。その過程で本レポートの開示情報の検証が行われている場合は、その旨を本書に記載しています。



他のレポート

ニュートレコ サステナビリティレポートを検証する中で、外部検証機関が3か所のスクレッチングの事業所を視察し、サステナビリティデータの質、およびニュートレコのサステナビリティ指標の一部を評価しました。このサステナビリティデータの詳細は、ニュートレコ サステナビリティレポートおよび外部機関の報告書をご参照ください。



外部リンク

この報告書では外部サイトのリンクを多く記載し、私たちのプロジェクトやパートナー、目標についてより詳しく理解していただけるよう工夫しています。なお、記載外部リンクは、参照用としてご利用ください。

私たちの目標

Trygve Berg Lea

1981年のスクレッシング入社から水産養殖の仕事に従事してきましたが、2021年は私がこのグループで働く最後の年になります。年次発行のサステナビリティレポートの発行に携わるのも今回が最後ですが、多くの仲間たちがこの仕事を引き継いでくれるはずで

スクレッシングはこの40年、取引先が小規模な家族経営の養殖場だけであった時代から、国際的サプライチェーンに不可欠なハイテク産業にまで成長するという素晴らしい旅をしてきました。



私たちの比類ないこの役割については、多国籍企業群の主要な一部であるとも認識されています。

世界人口が2050年までに100億人に達すると予測される今、世界の人々に食糧を供給するという課題は、私たちのパーパス「Feeding the Future」の基盤になっています。世界人口の急増によって魚やエビなどの水産物の需要が増大するにつれ、サステナブルな方法による水産養殖の生産を増やすことが課題になります。このパーパスは、バリューチェーン全体が同じ方向を目指すことで達成できるという私の確信は変わりません。

スクレッシングが掲げるサステナビリティの大きな目標は以下のとおりです。

- スクレッシングは、飼料の製造を通じてクライメイトニュートラル（気候中立）の促進に貢献します
- スクレッシングは、資源増加と養分効率によりサステナブルな水産養殖の成長を促進します
- スクレッシングは、責任ある原料調達を促進します
- スクレッシングは、養殖魚と養殖エビの健康の向上に貢献します
- 従来の飼料原料に比べ環境的・社会的負荷の低い飼料原料のイノベーションと開発を支援します
- オープンな精神を持ってサステナビリティのジレンマのソリューションを見出します

Trygve Berg Lea、スクレッシング、サステナビリティ マネージャー





スクレッチングは、飼料製造を通じてクライメイトニュートラル（気候中立）の促進に貢献します

スクレッチングは 2009 年以降、私たちのオペレーションによる温室効果ガス（GHG）の環境負荷を報告しています。2025 年を見据え、私たちの原料購入による GHG および炭素の排出量を減らし、オペレーションによるエネルギー使用量を大幅に削減するためのコミットメントを先導していきます。また、飼料製造による環境負荷を最小限に抑えられるよう飼料配合に LCA（ライフサイクル アセスメント）方法論を採用する予定です。



スクレッチングは、原料の多様化と栄養の効率化によりサステナブルな水産養殖の成長を促進します

製造する飼料を与えられる魚とエビに必要な栄養素の知識は、スクレッチングが誇る高い能力の中でも特に重要なものです。その知識をもとに貴重な栄養素を損なうことなく、飼料効率の良い飼料製造を行うことができます。また、食用と直接競合しない原料を活用することで、循環型経済の発展にも寄与します。



従来の飼料原料に比べ環境的・社会的負荷の低い飼料原料のイノベーションと開発を支援します

従来とは異なる植物性あるいは動物性原料の飼料として広く知られる新規原料技術に関しては、現在、微生物と昆虫由来のタンパク質や脂質を含む飼料が評価されつつあります。実際、スクレッチングが昨年顧客の協力を得て開発した、昆虫由来の EPA および DHA と高品質なタンパク質を含む藻類油を使った飼料は、今後も他の市場で販売される予定です。

現在、私たちは歴史的に森林破壊が慣行し温室効果ガスの排出が高いブラジルから、森林破壊ゼロの大豆を購入していきます。しかしその温室効果ガスの排出は、森林破壊が起きた地域からの大豆のそれと変わらないため、森林破壊ゼロの大豆購入によって私たちが得られるインセンティブはありません。

責任ある大豆調達に対する私たちの基準は高く、バリューチェーンに与える私たちの影響も大きなものです。よって重要なのは、私たちがバリューチェーン内の環境状況をみながら、いつまでそこから購入するか、私たちの影響力を使って望ましい開発を促すのか、またはその影響力の行使をやめるのかという点です。



スクレッチングは、養殖魚と養殖エビの健康の向上に貢献します

スクレッチングは顧客に寄り添い、抗生物質削減に向けた彼らの取り組みを支援するために取り組んでいます。優良事例に基づいたやり方をご提案し、不要な抗生物質への依存を減らすために飼料添加物というソリューションを提供することで達成すると考えています。また、抗生物質の使用に関する優良事例を確立するため、その他のステークホルダーや非顧客との協働も視野に入れています。これらの措置を合わせて行うことで、総合的に薬剤耐性（AMR）が人体に及ぼしうるリスクを低減できます。AMR のリスク低減のため、スクレッチングは 2025 年までに、世界保健機関（WHO）が人体の健康に対する有害リストに挙げた抗生物質の販売を停止します。



スクレッチングは、責任ある原料調達を促進します

世界には、大豆やパームなどの作物の生産拡大によって生物多様性が損なわれ、気候変動が加速している地域があります。地域によっては、魚粉や魚油などの海産由来原料の使用が魚の乱獲を引き起こしています。スクレッチングは昨年、大豆とパーム原料の調達方針を打ち出しました。2025 年までに、森林破壊の危険性の高い地域から購入しているすべての大豆とパーム原料を、森林破壊ゼロ由来にすることを宣誓しました。そして現在、海産由来原料の 2/3 以上は責任ある方法で調達されたもので、国連食糧農業機関（FAO）の責任ある漁業のための行動規範の原則に沿って行われている漁業によってまかなわれています。さらに、責任ある漁業方法の改善を目指すプロジェクトや漁業認証の獲得の支援活動も、私たちは積極的に行っています。



オープンマインドでサステナビリティのジレンマに取り組めます

温室効果ガスの算出は、いまや多くの企業が取り組んでいます。私たちは「温室効果ガス=負荷」だけを考える傾向があります。はたしてそうでしょうか。温室効果ガスに焦点を当てるだけではいくつかのジレンマが生じてしまいます。水産飼料に関して私たちが目指してきたのは、天然魚由来の魚粉の含有量を抑えた飼料の配合です。さらには天然魚をホールで使うのではなく、副産物や加工残渣から作られる魚粉の使用量を増やすよう取り組んでいます。温室効果ガス全体の削減のみを目標にすると天然魚をそのまま使った魚粉の使用量は増加しかねず、正しい方向性を伴った開発にはなりません。

スクレッチングはこのジレンマに対してオープンに話し合い、サステナビリティ面におけるバランス調整の必要性を踏まえたソリューションを見出すべく奮闘しなければなりません。私たちが目指しているものの多くは、畜産飼料においても一致することでしょう。

私がこの業界で過ごした過去 40 年を振り返ると、スクレッチングをはじめとする養殖業界全体が、サステナビリティ実現のための取り組みに一貫性と積極性をもって打ち込んできたことは、明白です。サステナビリティを目指す私たちの旅と、積み重ねてきた一連の努力が、飼料産業の他の分野の手本になり私たちの後続くことを願うばかりです。

背景

多様な海産物を提供する今日の水産サプライチェーンは、世界各地の数十億人に主要な栄養を供給しています。海産物は、人体の健康と発育の中核をなすオメガ3脂肪酸の主な供給源であるだけでなくカルシウム、リン、亜鉛、鉄、セレン、ヨウ素などのきわめて重要なミネラルや、ビタミンA・D・B、リジンやメチオニンといった必須アミノ酸も供給しています。これについては当リポートで後ほど詳しく説明します。

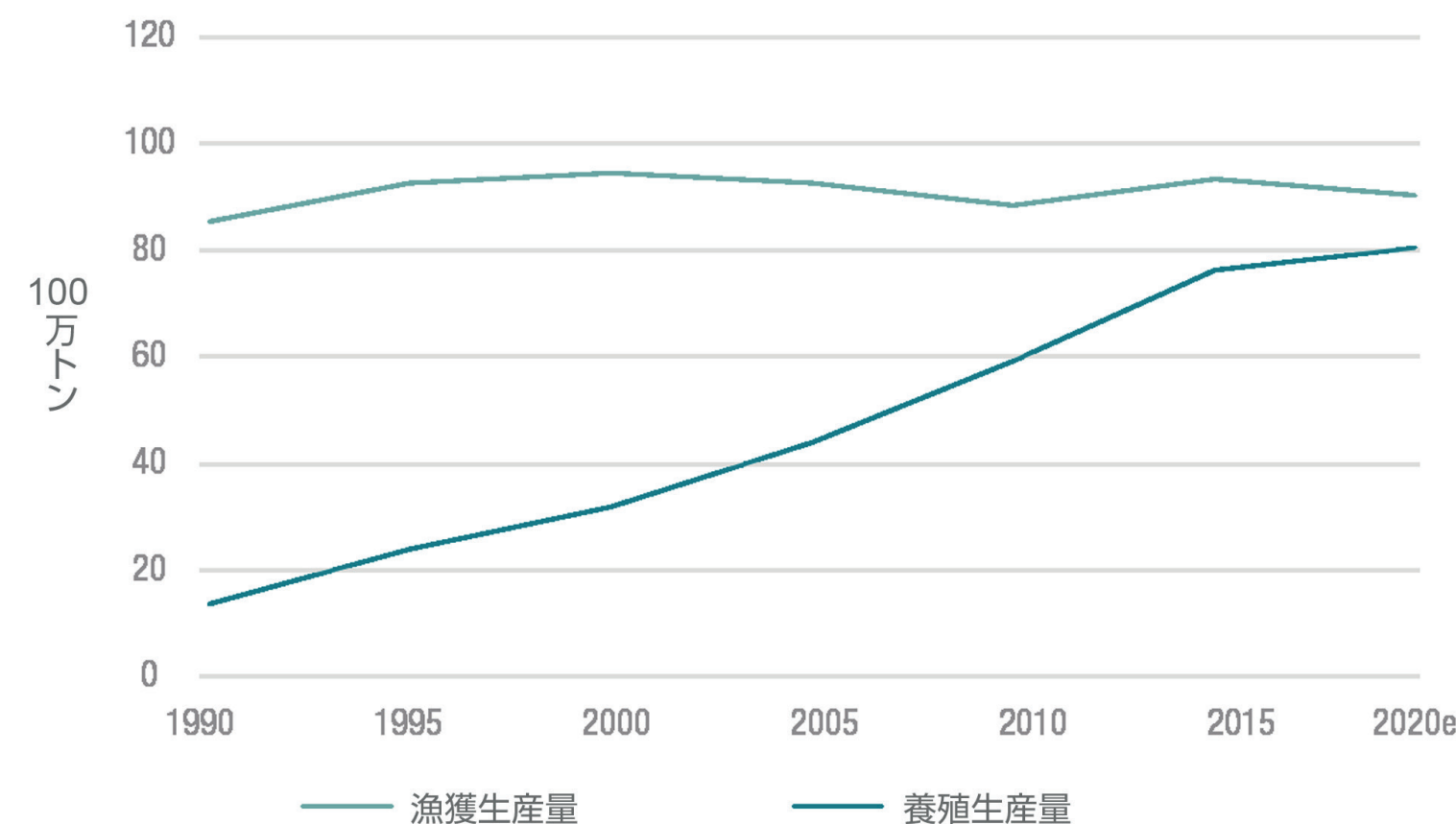
たとえ少量でも海産物を摂取することで、あらゆる世代において栄養の面で目覚ましい効果を発揮することが期待されます。人口増加や所得向上、都市化と相まって、こうした健康効果は世界的な消費動向に強い影響を与えています。国連食糧農業機関（FAO）によると、今日ほど人々が多くの魚を消費した例は過去にありません。[FAOの最新レポートのデータ](#)を見ると、2017年の消費量は1人当たり約20.5キログラムで1960年代から倍増し、過去40年間は毎年、人口増加率の2倍のペースで消費量が増加しています。

天然漁獲漁業が頭打ち状態にあることで、養殖産業には海産物の市場需要拡大の大部分を担うという重い責務が課せられています。

この困難に養殖産業が立ち向かい、その他の主要な食物生産分野に比べて速いスピードで成長していることが、FAOによって実証されました。実際、養殖魚や養殖エビの消費量は天然魚の消費量をすでに上回っており、世界の漁獲量合計を1億1千万トンのとして、2030年までに私たちが消費する海産物の60%が養殖になると予測されています。

海洋保全分野の政府ハイレベル会合「持続可能な海洋経済」が2020年に発行したリポート「[人・自然・経済に利益をもたらす海洋ソリューション](#)」により、2050年までに6倍量の水産物を生産可能な海にするための取り組みが始まりました。

養殖魚と天然魚の生産量の比較



出典:FAO

国連グローバル コンパクト「持続可能な海洋原則」の調印者として、スクレッティングは、健康な海が緊急かつ世界規模で重要な課題であると認識し、現在および未来の世代に健やかな海をもたらすよう行動していきます。



養殖場が周囲の生態系に悪影響を及ぼさず、天然漁獲による魚由来の原料を使用した飼料を回避すれば、海面養殖が拡大する可能性が飛躍的に高まります。

[国連グローバル コンパクト「持続可能な海洋原則」](#)の調印者として、スクレッティングは、健康な海が緊急かつ世界規模で重要な課題であると認識し、現在および未来の世代に健やかな海をもたらすよう行動していきます。

持続可能な海洋原則は、海洋部門と地理的条件全体の責任ある事業経営のための枠組みです。これは基本的人権と労働者権利、環境、汚職防止を基盤とする国連グローバル コンパクトの10の原則を補うものとなっています。

スクレッティングでは、もっと多くのことが成し遂げられると考えています。

明らかな成長傾向はみられるものの、世界中で消費されるタンパク質のうち魚や甲殻類が占める割合は7%に過ぎず、一方で私たちが口にしている食物のうち水産物はわずか2%です。地球の表面の70%が海で覆われているにもかかわらずです。2050年に90億人に達する人口に対し、地球上で生産した健全な食料を供給することを課題として見据えたとき、養殖産業というのは人類と地球にとって最も生産的でサステナブルなフードシステムの一つとして、独自に位置づけられるものなのです。

2020年、スクレッティングは230万トンの飼料を生産し、一日当たり21万食以上の水産物をもたらしました。

地球規模の挑戦



私たちが暮らす世界は急速に変化しています。急増し続ける人口は、ますます人の移動や都市化を加速させ、かつてないスピードで地球を変貌させ重大な消費にまつわる問題を生み出しています。食糧、水、エネルギー需要の増加は既に、従来我々が消費してきた限りある資源に負荷をかけており、2050年までに世界の人口が91億人を超えると予想される中、国連食糧農業機関（FAO）は、現在の農業システムではすべての人に十分な食糧を供給することができなくなると予測しています。

同時に、人間の活動の増加は地球温暖化を加速させています。実際、2019年は観測史上非常に暑かったと言われる年の一つ

で、この10年間は過去150年の中で最も暑い10年間でした。さらに科学者たちは、最近の二酸化炭素のレベルがこの何百年において最高レベルである事をデータで

示しています。私たちは周囲の至る所で、特に自然界で地球温暖化と気候変動の影響を目の当たりにしています。気温の上昇と異常気象は、作物の収穫量に影響を与え、その結果食糧価格の高騰につながり、貧しい人々の暮らしに影響を及ぼす可能性があります。また、海面の上昇で、沿岸地域は、洪水被害や土地浸食の影響を受けることになります。

資源の使用量を減らしながら生産性を高めることの必要性を理解しているからこそ、費用対効果が高く持続可能な新技術を導入した製造は私たちの誇りです。

スクレッチングは責任あるグローバル企業として、水産養殖業と水産物サプライチェーンが、可能な限り環境に配慮した方法で絶滅危惧種や脆弱な生態系の保護も含め、将来の食糧需要を満たせるようにイノベーションを推進し続けなければならないと認識しています。少ない資源でより高い生産性を実現する必要があることを理解した上で、私たちは、費用対効果が高く持続可能な新しいテクノロジーを製品に展開していくことに誇りを持って取り組んでいます。

資源の使用量を減らしながら生産性を高めることの必要性を理解しているからこそ、費用対効果が高くサステナブルな新技術を導入した製造に私たちは誇りをもっています。

自然界への影響をさらに減らすため、私たちは排出ガスを削減し、エネルギーをより効率的に活用することにも力を入れています。さらに、真の意味

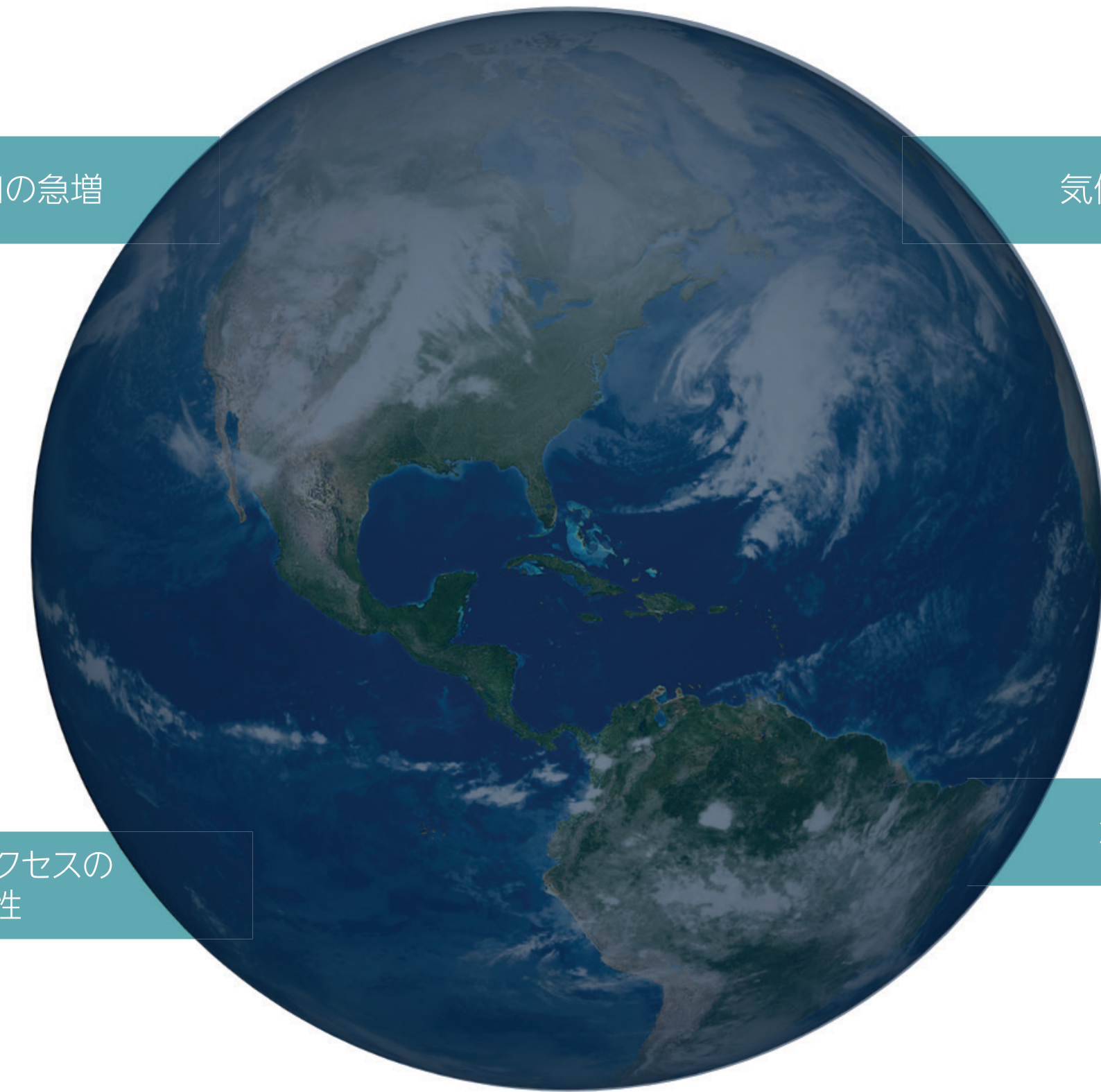
で社会に貢献するため、十分な機運を高められるよう、スクレッチングは、サプライヤーや顧客、また、さらに広範囲に渡る養殖業界の様々なステークホルダーの方々にも、我々と同じような積極的なアプローチを採用していく事を呼びかけ、協力し合っています。

人口の急増

気候変動

食物へのアクセスの流動性

洪水と浸食



森林破壊

スクレッチングでは、森林破壊に関与していない一次生産者によって作られた植物原料のみを仕入れ、脆弱な生態系や絶滅危惧種の保護に貢献したいと考えています。具体的に、当社の調達チームには、どのように植物原料が生産されたのかについての基準を含む、明確な「調達ガイドライン」が求められています。

このような基準をまとめるのは簡単ではありませんし、実際に、森林とは何か、森林破壊とは何かを定義することも、複雑性を孕んでいます。なぜなら、森林には様々な形態があり、構成要素、生物物理的特性、動植物の多様性など、様々な特性を持つものだからです。

「森林」や「森林破壊」の定義は右記のように様々です。森林を定義する要因：

構成



生物物理学的特徴



動植物



また、「森林破壊ゼロ」と一口にいても、「ゼロ デフォレステーション」と「ゼロ ネット デフォレステーション」の2つの考え方があります。「ゼロ デフォレステーション」とは、森林地帯の開拓や転換を一切行わないことを意味し、「ゼロ ネット デフォレステーション」とは、森林を同じ面積の別の場所に植え替える場合に限り森林開拓や転換が認められることを意味しています。

多くの企業が森林破壊の問題に向き合っていますが、これら企業の企業方針で示されているのは、森林伐採に対するアクション以上の取り組みです。森林破壊以外の生産活動に関わる重要な要素についても言及しています。例えば、保全価値の高い (HCV) 地域の伐採を行わないこと、先住民族の土地の権利を尊重すること、地元コミュニティに事前の状況説明をきちんと行い、金銭を絡めない形で同意を得ること、強制労働や奴隷労働を行わないこと、生産プロセスや実践について透明性を担保することなどが挙げられます。

多くの場合、一定の条件の下での森林伐採は政府によって法律で認められています。このような場合、企業としては「調達ガイドライン」を法的な基準よりも高く設定すべきか、また、設定する場合にはどのように基準を定義すべきか、という問題が生じます。さらに問題を悪化させているのは、数限りない現実的な問題で、これは加工バリューチェーンが様々な基準を満たすことを阻んでいます。

もう一つ検討すべき点は、バリューチェーンのどこまでスクレッチングは責任を持ち、要求事項の遵守を求めていけるのか、いくべきなのか、という点です。



他に方策があるにもかかわらず森林伐採を続けることは、今の社会において正当化できません。何世紀にも渡って森林伐採を積極的に行ってきた先進国が、今経済を発展させようとしている新興国に対しそれを止めるように求める資格があるのか。非常に真っ当な倫理的議論で、簡単に答えの出ない問題です。

スクレッチングが支援を提供している団体



海洋への取り組み

海は地球の心臓部です。世界の気候、気温、気象パターンを調整するだけでなく、私たちが呼吸する酸素の70%を生産し、人為的な炭素排出量の30%以上を吸収しており、地球上のほぼすべての生命の手綱を握っています。既知の多くの海洋動植物に豊かな生息地を提供していることに加え、まだ未発見の多くの新種生物が生息していることを考えると、海洋の保護に細心の注意が求められます。そのためには、人間の直接的あるいは間接的消費のために水揚げされる魚種について、明確に定義された持続可能な制限の範囲内で、責任を持った漁獲を行うことが不可欠です。

健康的な魚介類タンパク質の世界需要は急速に増加し続ける一方、天然漁業でさらに担保できる供給量はわずかです。急速に成長している食糧生産分野の一つの水産養殖業が市場で増加するニーズの大部分を満たしていく必要があります。国連食糧農業機関（FAO）の予想によれば、魚の総生産量は2016年の1億7,100万トンから、2030年までに2億100万トンに達するとされています。

海は、世界の気候、気温、気象パターンを調整するだけでなく、私たちが呼吸する酸素の70%を生産し、人為的な炭素排出量の30%以上を吸収しています。

この生産量増加において、養殖の生産量は8,000万トンから約1億1,000万トンに増加するものの、天然漁業の生産量は約9,100万トン程度のまま変動しないと予想されます。

スクレッチングは、魚やエビの養殖生産者が最も責任ある方法で生産量を増やすことができるプラットフォームを提供することで食糧安全保障と経済的保障の両方を向上させることを目指しています。海にこれ以上の環境負荷をかけないようにするため、スクレッチングは代替飼料原料の開発と活用に多大な研究開発投資を続けています。

同時に、既に存在する成功事例の実践で環境負荷の極めて少ない養殖が可能であるという理解のもと、養殖生産者をはじめとするステークホルダーの皆様とより一層緊密に連携し、グローバルな養殖システムの改善と海洋環境の健全性を守るための取り組みを行ってまいります。

持続可能な海洋に関する 国連グローバル・コンパクトに署名

2019年10月、スクレッチングは国連グローバルコンパクト「持続可能な海洋原則」の初期メンバーとなり、以来、世界中の企業に対して健全で生産性の高い海洋環境の確保にコミットすることを呼びかけています。このコンパクトの9つの中核原則に署名することで、海洋汚染を防ぐための行動を取ること、長期的なサステナビリティを確保できる形で海洋資源の利用を管理すること、海洋関連の活動や影響を透明性のあるものにする、を約束しています。

親会社であるニュートレコは、2015年から国連グローバルコンパクトに加盟しています。



私たちの試みと大志は、その多くが複数のステークホルダーとのコラボレーションによって実現する事業を包含するものですが、ワールドベンチマーキングアライアンス（WBA）にも評価されています。WBAの新しい年次シーフードスチュワードシップインデックスにおいて、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を実践するコミットメント透明性パフォーマンスといった要件において、スクレッチングが最も影響力のある水産関連ビジネス30社の1つに選ばれました。


業界のイノベーションをさらに推進し、増加する世界の人口がよりサステナブルで、より健康的で、より安全な水産物を容易に入手できるよう新たにキーとなるアクションを見つけ顧客・サプライヤー・パートナーとの緊密な連携に努めていきます。

持続可能な開発目標に対する企業の影響力

スクレッチングと国連・持続可能な開発目標 (SDGs)

2015年、国連は新しい持続可能な開発アジェンダの一環として、貧困に終止符を打つことや環境の保護、人々の豊かな生活の促進などを含めた全17項目の持続可能な開発目標 (SDGs) を発表しました。それぞれの目標には、2030年までに達成すべきゴールが設けられています。政府や民間企業、市民社会、当りレポートを読む関係者など、その達成を目指すために、すべての人々が果たすべき役割があります。人と地球をつなぐ重要な存在である持続可能なフードシステムは、単に飢餓をなくすためだけのものではありません。私たちが解決すべき問題は、地球が直面している広範囲で重要な問題であり、食品産業はSDGsの17項目すべてに直接的にかかわり大きな進歩を達成するほどに強い影響力を持っていると言えます。

国際協力開発機構 (OECD) によると、食の安全保障はSDG2 (飢餓をゼロに) とSDG3 (すべての人に健康と福祉を) にリンクしています。生活や農村開発の問題はSDG1 (貧困をなくそう) とSDG6 (安全な水とトイレを世界中に)、SDG10 (人や国の不平等をなくそう) に盛り込まれています。持続可能な資源利用と気候変動の緩和に関連するのはSDG12 (つくる責任つかう責任)、SDG13 (気候変動に具体的な対策を)、SDG14 (海の豊かさを守ろう) とSDG15 (陸の豊かさを守ろう) です。教育や設備、ジェンダー平等など上記以外のSDGsも、食物システムに掲げられた課題をクリアするうえで重要となります。

目標	ランク	優先度	目標	ランク	優先度
 8. 働きがいも経済成長も	1	65%	 11. 住み続けられるまちづくりを	10	34%
 3. すべての人に健康と福祉を	2	55%	 10. 人や国の不平等をなくそう	11	33%
 13. 気候変動に具体的な対策を	3	54%	 6. 安全な水とトイレを世界中に	12	28%
 12. つくる責任つかう責任	4	54%	 16. 平和と公正をすべての人に	13	24%
 5. ジェンダー平等を実現しよう	5	53%	 1. 貧困をなくそう	14	22%
 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	6	49%	 15. 陸の豊かさを守ろう	15	21%
 17. パートナリシップで目標を達成しよう	7	42%	 2. 飢餓をゼロに	16	18%
 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8	40%	 14. 海の豊かさを守ろう	17	13%
 4. 質の高い教育をみんなに	9	38%			

資料：国連グローバル コンパクト、Uniting Business in the Decade of Action (「行動の10年」企業団)

公的機関と民間企業が密に連携してきたことにより大きな進歩が成し遂げられていますが、[国連グローバル コンパクト](#)の報告によると、大半の企業の会社目的とガバナンス、戦略の統一の点では未だ不十分です。過去数十年間の取り組みをもとに、未達成の課題に注目して各産業固有の目標を定めた「行動の10年 (Decade of Action)」として、持続可能な開発目標の達成までに残されたわずか10年間にいっそう注力する必要があります。

このイニシアティブに関わっている会社の84%はSDGsを促進する行動に取り組んでいますが、2030年までにSDGsの達成が可能だと答えたのは、わずか29%の企業です。

SDGsを優先課題と位置付けている企業をみると、SDGsの項目に優先順位を設けることと実際の活動に相関関係があります。下記の目標を優先事項とする会社は今も少数のままで、貧困や生活水準に関わる1:「貧困をなくそう」や2:「飢餓をゼロに」、6:「安全な水とトイレを世界中に」や、環境負荷に関する14:「海の豊かさを守ろう」15:「陸の豊かさを守ろう」などがあります。

私たちのサステナビリティ プログラムは、多くの地域でSDGsに沿って行われています。しかし「Feeding the Future」という私たちのミッションや水産物産業におけるポジションからも、今日の企業の目標としては最も優先度が低い「飢餓をなくそう」「海の豊かさを守ろう」の2項目の達成という快挙を成し遂げる機会と責任は、私たちスクレッチングにあるのです。

透明性と信頼

より簡単で迅速な情報アクセスへと消費者の要求が変化することで、透明性を高めることの重要性に拍車がかかっています。

自社で行っている業務に関してオープンであるよう、様々なセクターの会社がステークホルダーによる一定の圧力下であり、原料や食品偽装、動物の福祉、基本的人権、児童労働問題など、食品業界が開示すべき情報は数多くあります。今日の消費者は製品の産地だけでなく、その製造が行われた背景にも関心を持っています。

最新の[世界水産養殖業 FAO と国連グローバル コンパクト海洋スチュワードシップ 2030](#) 報告書によれば、サステナブルな水産物製造は、環境的および社会的な悪影響を防ぐ産業の透明性に依存しています。また同時に、バリューチェーン内の異なるプレーヤー間の信頼の強化への取り組みが非常に重要であることも、それらの中で指摘されています。

こうした背景を後ろ盾として、スクレジットは透明性と信頼を私たちの新しい柱に決めました。これにより、スクレジットの水産物バリューチェーンでの態度と可能な貢献が、さらに明確になっています。また、私たちがサステナビリティに対してできることや、具体的な透明性を持った信頼できる企業としてスクレジットを位置付けている、私たちの根幹の概念である2つの強力な社内プログラム、ニュートラとニュートレースにより原料から飼料までの品質と安全を守るために寄与できることのメッセージがより簡素化されています。

これにより、規律ある会社として誠実な経営を行っていることが示されるだけでなく、透明性の高さによって風評被害のリスクを減らし、スクレジットの[サステナビリティレポート](#)でも宣言しているように、よりサステナブルな業界を目指す先導的なパートナーとしての信頼を得ることになります。さらに、透明性と信頼にコミットすることで、環境的にも社会的にも良い影響を与えようと努める、責任ある企業を志望する優れた人材に魅力をアピールすることができるのです。

2020年の成果



2020年、顧客の暮らしの向上へのコミットメントを原動力とするスクレジットは、目標に焦点を当てながらも現実に即した経営ができている限り、何事も不可能ではないことを証明しました。リスクを減らし規格を遵守する共通のシステムによって工程の確実性と効率を高めながら、品質と安全のレベルをさらに高めるべく、各部署で優良事例を共有しながらイノベーションを実現することができたのです。



2020年、社内の協調と優良事例の実施を確実にするため、私たちはニュートレコとトラウニュートリションと共同で Nutreco Quality Committee (ニュートレコ品質委員会) を発足しました。これにより、ニュートレースの基準が改正・更新され、そこに含まれるコンプライアンスの基準もより明確になりました。同時に、事業継続プランニング、クレーム処理、不適切物質のモニタリング、HACCP、製品技術、追跡調査、原料評価というように分野ごとの各チームで研修を実施することができました。



改訂版の監査書類と連動し、スクレジットの75%のグローバルサプライヤーの監査にサステナビリティ要求事項を含めた、新たな不適合モデルをニュートレコが発表しました。それに加え、計画に沿って一部の工場をニュートレース基準に認証しました。社内オペレーションと顧客から必要とされる一貫性を保ちながら、監査業務をリモートで行えるようにもなりました。



私たちのチームが学んだ中で重要なことは、彼らの目標を達成させられるソリューションを共同で生み出すため、そこでの問題対処の方法に耳を傾け、彼らの需要にさらに寄り添うことです。これにより、トレーサビリティが重要であることの正当性を立証したうえでシステムを改善し、必要に応じて監査書類と分析結果を提供することに重点を置きました。この協働によって、スクレジットは透明で信頼に足るパートナーというポジションを保持しているのです。

主要なパートナー

国連グローバル コンパクト「持続可能な海洋原則」

スクレッチングはニュートレコを通して、国連グローバル コンパクトプログラムのメンバーです。このプログラムは、人権や労働、環境、腐敗防止など10の原則に沿った戦略と事業を行う企業を支援するものです。さらに国連グローバル コンパクトは、協働とイノベーションを強く打ち出しながら、国連の持続可能な開発目標など広く社会的な意義のあるゴールを目指す企業の戦略的行動のサポートも行っています。

国連グローバル コンパクトには持続可能な海洋ビジネス アクション プラットフォームがあり、企業や学会、政府機関などのリーダーを招集し、海洋産業における持続可能な開発目標 (SDGs) の達成を目指す取り組みを決定します。このアクション プラットフォームは全世界の300以上のステークホルダーたちの協議により、持続可能な海洋原則における健全で資源豊かな海の保護に必要な企業の行動責任を打ち出すべく発展させたものです。

10の原則の署名人として、スクレッチングは健全な海と持続可能な水産養殖産業が世界規模で重要であり、直面する問題は緊急の課題であると認識しており、現在および未来の世代に健全な海をもたらすよう行動していきます。

「持続可能な海洋原則」は、責任あるビジネスを行うための枠組みを提供し、海の分野や地域を超えて、海洋の持続可能性に関する共通の基準となるものです。これらの原則は、国連グローバル コンパクトの10の原則を補うものであり、「海洋の健全性及び生産性」「ガバナンスとエンゲージメント」、「データと透明性」を網羅しています。

海は人間の健康と繁栄に欠かせないものです。

持続可能な開発目標に謳われている共同体としての世界の大きな目標を達成するには、食物やエネルギー、原料、輸送手段などの海洋生産量を増やさなくてはなりません。持続可能な手段によってこれらの事業活動を行えば、地球温暖化や環境悪化を緩和し、ビジネスと世界経済の成長の大きな機会をもたらす健全な海を手に入れることができるでしょう。

持続可能な開発目標の14「海の豊かさを守ろう」で唱えられているとおり、水温上昇と酸性化、天然資源の枯渇、陸や海の汚染などによって急速に破壊されつつある海の健全性の保護と復元が緊急の課題です。

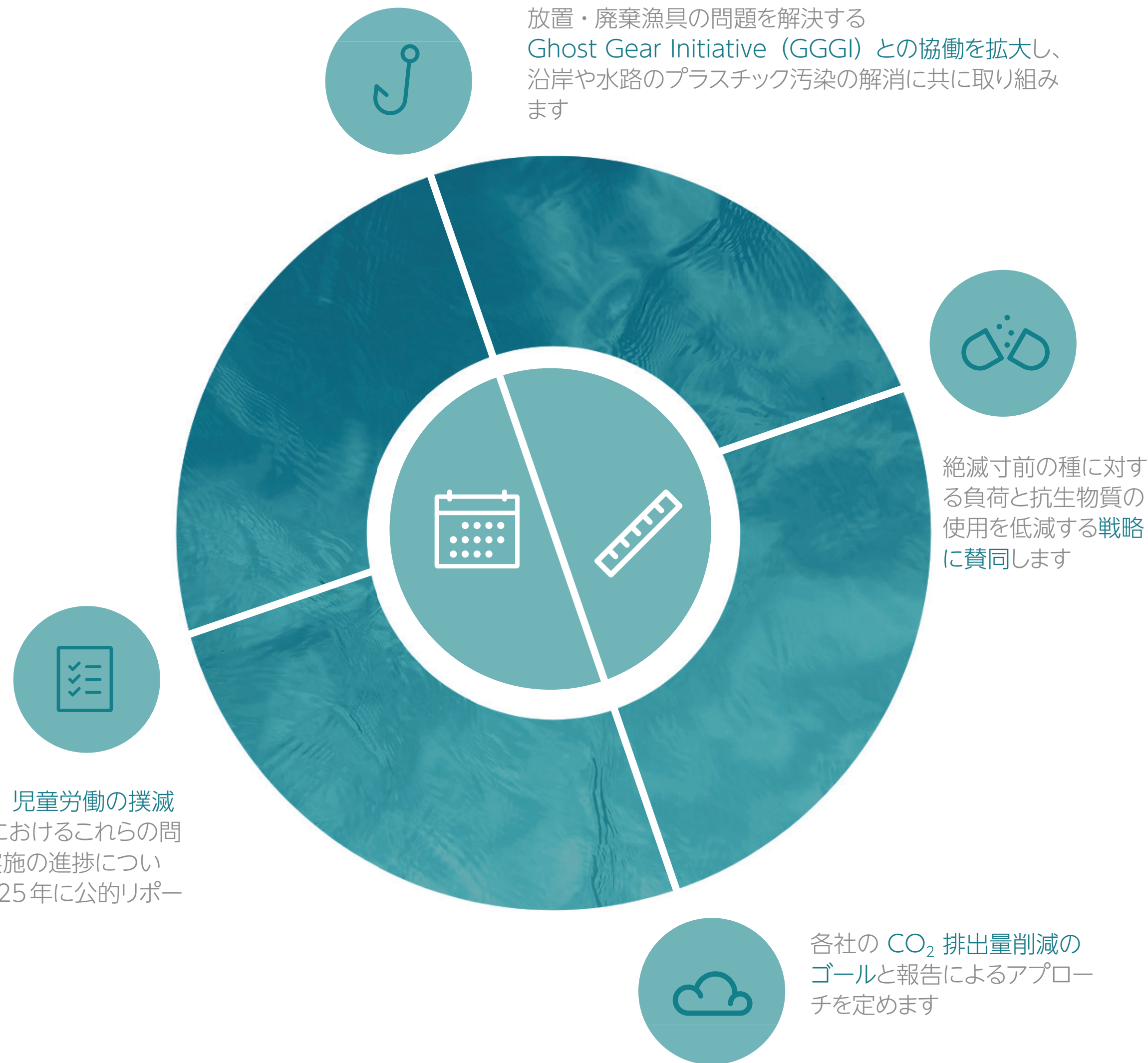
企業は、政府や社会とともに健全な海を守るための必要な行動を起こす責任を負っています。



期限を設定し測定可能なサステナビリティ目標に取り組むSeaBOS

スクレッチングは、ユニークな科学産業イニシアティブの SeaBOS (Seafood Business for Ocean Stewardship) の創立メンバーです。メンバーは、世界最大手の 10 社の水産会社で、世界で生産される水産製品の 10%以上を占めており、サステナブルな水産物と健全な海を目指すミッションに従っています。

2020 年、4 年間の対話を経て、SeaBOS はよりサステナブルな水産物産業を実現するため、目標に期限を設け測定可能なものに設定しました。2016 年当初からのコミットメントに従い、会員の各社 CEO は 2021 年末までに以下の目標を達成することに同意しています。



これらの目標は、この先 SeaBOS の活動を指南するもので、具体的な活動のツールが用意されています。

気候変動が水産物の生産に多大な影響を及ぼしていることを SeaBOS の会員は認識し、個々の排出量削減目標やパリ協定の実施を提唱することで、この課題に対処する役割を担っていることを確認しました。

さらに、気候変動のリスクと影響を緩和し、気候に適した「クライメート スマート」な水産物を提供するには、サステナブルな漁業と養殖の管理を支援する政府規制が必要であることを認識しています。



SeaBOS の活動は、持続可能な海洋経済に向けて機運を高め、自国の水域の 100%をサステナブルな方法で管理することを約束した 14 人の世界のリーダーがイニシアティブをとった、持続可能な海洋経済のためのハイレベル パネルが最近立ち上げた海洋行動のアジェンダを反映し、支援しています。



スクレッチング / ニュートレコと共に SeaBOS に名を連ねる会員企業：

- マルハニチロ株式会社
- 日本水産株式会社
- タイ ユニオン グループ
- モウイ
- ドンウォン インダストリーズ
- セルマック
- カーギル アクア ニュートリション
- チャローンポーカパンフーズ
- 株式会社極洋



主要な科学パートナー：

- スウェーデン王立科学アカデミーのバイヤー インスティテュート フォー エコロジカル エコノミクス が援助するストックホルム レジリアンス センター
- ウォルトンファミリー財団、デイヴィッド アンド ルシール パッカード財団、ゴードン アンド ベティムーア財団の援助によるランカスター大学とスタンフォード大学の海洋ソリューションセンター

「SeaBOS の CEO 全員による大胆なコミットメントは、大きな前進をもたらします。それは、SeaBOS の加盟企業とサプライチェーン全体そしてその先まで、水産業界全体での取り組みが促進されるでしょう。それは大変なことですが、必要な取り組みです。それを実現するための科学を開発することを仲間たちとともに楽しみにしています。オーシャン スチュワードシップを推進する中で、進捗状況をモニタリングし、多くを学びたいと大いに意欲を燃やしています。」



Henrik Österblom、ストックホルム レジリアンスセンター、科学副ディレクター
資料:Azote images

グローバル サーモン イニシアティブ—業界内パートナーシップによる目標達成

グローバル サーモン イニシアティブ (GSI) は、世界中のサーモン養殖会社の CEO が構成するリーダーシップ プログラムです。増加する人口に健康的でサステナブルなタンパク源を提供する一方、環境負荷を最小限に抑制し、各社の社会的・経済的貢献度を継続的に高めていくというビジョンを共有しています。

GSI の準会員であるスクレッチングは、サーモン養殖業界の継続的発展と繁栄に共通の関心を持ち、また業界の持続可能性の改善も共通の責任と考えています。準会員は特定のプロジェクトにおいて GSI 会員と密接に協力し、知識を共有し助け合うことで、さらなる前進を加速させていきます。

魚の健康と成長の最大化に必要なタンパク質と必須栄養分を供給し、さらにはサーモンを食べる人の健康向上にも寄与する飼料原料は、サーモン養殖の効率性の点で重要な役割を果たします。私たちは、専門である栄養の領域を維持しながら環境負荷の低減においても有益な業界となることを目指しています。これを実現する方法は数多く存在します。



魚の飼料の天然魚に対する依存の低減



魚の加工副産物の最大利用



オメガ 3 脂肪酸の代替資源の発見

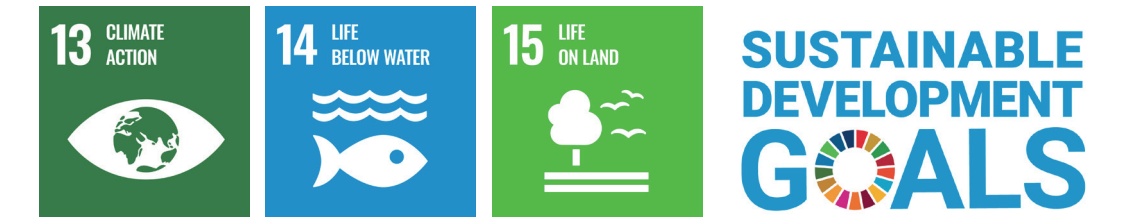


天然魚依存率 (FFDR) と飼料効率 (FCR) の改善

Climate Impact Project (気候変動影響プロジェクト)

スクレッチングは 2020 年、世界自然保護基金 (WWF) とのパートナーシップにより、新たな気候変動影響プロジェクトの会員として GSI に加わりました。同プロジェクトは現在のカーボン フットプリントのあらゆる報告方法のレビューと評価を行い、データ収集と気候負荷の報告、緩和の努力の強化などを行う GSI メンバーの取り組みを支援するガイダンスの文書作成を目的としています。サーモン チリや Norwegian Centre of Expertise Aquaculture などの組織もこのプロジェクトに参画し、業界内連携の一部を担っています。

「業界として飛躍的に進歩するためにはサプライチェーン全体の変革が必要であると GSI の会員は理解しています。だからこそ GSI の準会員であり正しい知識と専門性を備えたスクレッチングの積極的な取り組みにより、原料から気候負荷、魚の健康に至るまで、責任あるサーモン養殖の中心的なすべての要因でイノベーションを起こし、業界全体をよりサステナブルな未来へと誘導していけるはずです。」



「GSI の一員になったことで、バリューチェーン内のスクレッチングのように意欲的で同じ志を持った会社と手を組み、競争する前の協働として取り組めます。水産養殖飼料部における世界トップレベルの専門知識にアクセス可能なプラットフォームを使って、サーモン養殖と水産養殖の世界規模の進歩を加速することができるのです。私たちの責務は、バイオセキュリティ問題やサステナブルな健康支援飼料の開発、トレーサビリティや第三者機関による認証の推進など業界全体の優先事項に焦点を当て、水産物とより良い明日のためのサステナブルな未来を約束することです。」

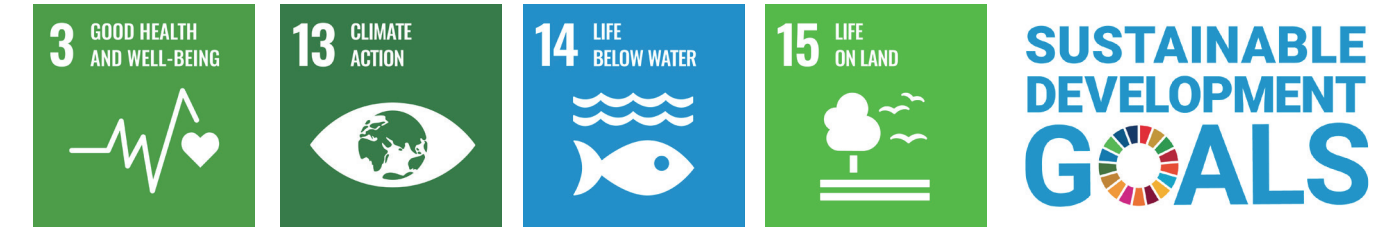
Mark Ryan,
Tassal マネージング ディレクター兼 CEO
資料: Tassal



Sophi Ryan, GSI
資料: GSI



ロードマップ 2025 の紹介



サステナビリティに関するスクレッシングの大きな目標は、2020年に新たなロードマップ 2025の発展という形で重大な節目を迎えました。

SDGsへの貢献を目的として親会社のニュートレコの指導のもとに構築されたロードマップ 2025は2018年に物質的評価を伴ってスタートした事業活動の集大成で、バリューチェーンでのスクレッシングのポジションに関する環境的・社会的・経済的影響を特定するのに適した顧客やサプライヤー、NGO、内部スタッフなど300人近くの内外のステークホルダーが参加しています。

私たちはロードマップ 2025の中で、スクレッシングの差別化の機会があると考える重要なポイントを定義しました。これらのポイントは、これまでのビジネスの在り方を超えるもので、バリューチェーンにおいて今後グローバル企業が事業を行っていく資格となります。私たちの5年計画による戦略を見直し、業務の指針となるように測定可能な目標を、サステナビリティの3本の柱（健康と福祉、気候と循環、良き市民）として定め、あらゆるオペレーションにおいて差別化を図ることができる領域と、目標までの途中経過で出てくるソフトターゲットに、明確に焦点を当てています。



健康と福祉

健康と福祉は、スクレッシングという会社のすべての行動の軸であり、顧客やバリューチェーン内のステークホルダーとのパートナーシップにとって大きな差別化要因となる領域です。最大限の栄養と守られた動物福祉を提供するうえで役立つ役割は私たちのパーパス「Feeding the Future」の実現に不可欠であり、人間の健康にも多大な影響を及ぼす可能性のある要素です。

私たちは、タンパク質を作り出す養殖業者が抗生物質への依存を緩和できる栄養のソリューションを提供することにより、バリューチェーン内の私たちのポジションに応じて大きな責任を果たしてきました。

気候と循環

世界中の人々が、食品製造や食に関わる自分たちの選択が環境にどのような影響を与えるのかより意識するようになってきました。国連FAOの報告では、家畜製品の炭素負荷の45%は世界で行われる食品製造に由来しています。環境負荷の大部分が私たちのような供給者側のビジネスモデルの在り方と活動から発生していますから、バリューチェーンのあらゆる場面でパートナー同士が協力することで環境負荷は軽減できるはずです。私たちはニュートレコのもとでスコープ1～3の領域に分かれるサイエンス ベースド ターゲットを定め、カーボン フットプリント全体の低減にも取り組んできました。2021年度の第1四半期、これらの目標への同意を発表しています。

良き市民

スクレッシングは責任ある会社として良き市民でありたいと願い、主要なステークホルダーのグループに対して好影響を与えてきました。私たちのオペレーションの影響下にあるすべての人々の権利を尊重する経営も、そのうちの1つです。その経営とは、安全と安心、従業員がキャリア発展の可能性を実感できる職場を提供することを意味します。従業員はみんなの生活の向上を目指して共に働くのがスクレッシングのコミュニティなのです。



広範で複雑なバリューチェーンの一端を担うスクレッシングは、ロードマップ 2025 の実現には困難な課題があるのも分かっています。過去のレポート同様に、スクレッシングのサステナビリティの旅は私たちが成し遂げてきた進歩や、よりサステナブルな水産養殖業界にするために私たちが寄与した行動について透明性を保ちながら報告しています。

ロードマップ2025の詳しい内容は
ここから読むことができます。

<https://www.skretting.com/globalassets/shared-documents/sustainability/20210308-roadmap-2025-brochure-final.pdf?v=493c4a>



	健康と福祉	気候と循環	良き市民
焦点	薬剤耐性菌 (AMR)	温室効果ガス (GHG) の排出量削減	多様性と包括性
方法	畜産の抗生物質使用依存を直接的に削減する新製品とサービスのイノベーション 顧客のビジネスの機会創出により抗生物質の使用量を大幅に下げることの5段階目標の採用	エネルギー効率プログラムとサステナブルな原料調達により温室効果ガス排出量の削減目標を定めるサイエンス ベースド ターゲットの採用とともにライフサイクル アセスメント手法と新規原料を導入 飼料原料の配合に天然資源、生物多様性、エコシステムの責任ある使用	従業員の多様性と包括性を重視 持続可能な養殖方法と適切な優良事例テクノロジーの採用と、地域コミュニティの極貧の状態からの脱出支援
ソフトターゲット	動物の福祉	包装 水 廃棄物	ステークホルダーとの約束
他部署による対応			従業員の能力開発 労働上の安全と衛生 基本的人権と労働者の権利



私たちの目標までの進捗を計測するため、ニュートレコ サステナビリティ プラットフォームは 2020 年末、部分的到達も含めた目標達成の過程で生じる特定の質問に対してすべての OpCo のGMおよびファンクショナル ディレクター部が回答するオンラインツール、ロードマップ 2025 進捗評価 (Roadmap 2025 Progress Assessment) を立ち上げました。

進捗評価のツールで最初に行う「予行演習」では、2025 年 12 月までに目標達成できるよう、改善すべき領域を特定して基本データの出発点を定めます。この最初の演習の結果分析は、2021 年上半期に行う予定です。2021 年および来年から 5 年間の進捗評価とモニタリングを行うため、評価システムを開発しました。

	健康と福祉	気候と循環	良き市民
焦点	薬剤耐性菌 (AMR)	温室効果ガス (GHG) の排出量削減	多様性と包括性
目標の概要	<ul style="list-style-type: none"> 飼料に使う病気予防の抗生物質をゼロに 成長のための抗生物質とコクシジウム剤の使用をゼロに 「人体の健康に重大な影響を与える」物質リストにある抗生物質をゼロに 	<ul style="list-style-type: none"> 2030 年までのサイエンス ベースド ターゲット イノベーションの際の LCA とサステナビリティのフィルタリング 100%森林破壊ゼロに 水産原料はすべて認証済み製品に 原料の 5 ~ 10%を新規原料 * に 包装資材をすべてリサイクル品やリユースブル、コンポストブル (堆肥化可能) に 2030 年までに石炭および石油の使用をゼロに 埋め立てゴミを 0%に 	<ul style="list-style-type: none"> 地域開発と地域の取り組み拡大によって 12,000 人の生活に変化を リスクの高いサプライヤーの評定と監査 級管理職の 25% (スクレッチングでは 30%) を女性に



* 新規原料の定義とは、従来とは異なる食物や動物、無機物由来の (従来の飼料製造者は使用しない) 原料です。広範囲に及ぶ研究開発と量的拡大を経て商業ベースに乗る量の製造に至れば、従来の原料に替わるものとなります。

動物の健康と福祉

養殖場、飼料、健康管理ベースの包括的なアプローチ

世界保健機関（WHO）は世界の健康を脅かす重大問題として拡大が懸念される薬剤耐性菌（AMR）を取り上げ、この脅威の緩和に向けて全社会的レベルで実施すべき対策アクションプランを打ち出しています。

動物製品における抗生物質の過剰使用が薬剤耐性菌を生じさせるので、スクレッチングでは顧客からの要望と然るべき獣医師による文書がない限りは飼料に抗生物質を使用せず、養殖の抗生物質への依存率の大幅な低減を提唱しています。抗生物質の使用量を世界的規模で大きく減らす手段として、

養殖場と飼料、健康管理に基づくホリスティックなアプローチを採用しています。

スクレッチングはこうした積極的なアプローチが動物の福祉を向上するだけでなく、生産性をも高めるということを証明してきたのです。

一般的な栄養に加えて機能性原料を使用した水産養殖飼料には、魚やエビの病気やストレスに対する耐性を高めるという健康的メリットがあります。このような飼料は、水産養殖の健康管理と抗生物質薬剤の使用量の抑制において中心的な役割を果たしています。

スクレッチングは養殖健康飼料の分野で比類のない実績を持っています。飼料による予防措置は、過去30年間のスクレッチング ARC の健康研究開発が最も重視してきたテーマです。1989年にこのテーマに着手し、1992年には世界初の魚用健康飼料を発売しました。この画期的な飼料により、特定の原料を使うことで病気になりにくい丈夫な動物が育つことが証明されました。研究開発に投資した結果、世界の水産養殖業界に革新的な健康ソリューションの流れが生まれたのです。

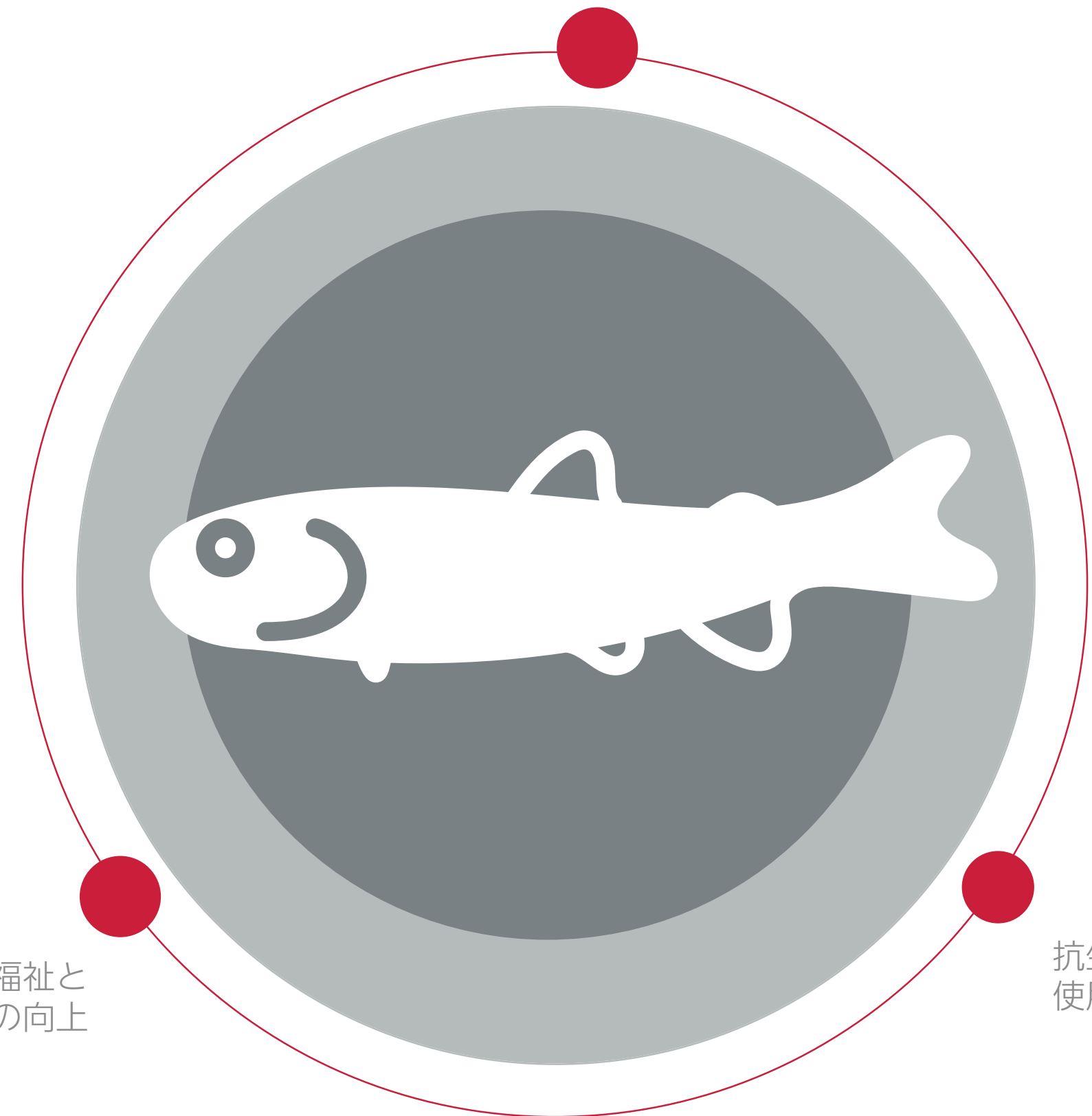
スクレッチングは養殖健康飼料の分野で比類のない実績を持っています。

機能的健康は相当な改善を示しましたが、ヒトの健康や動物の健康と福祉においては未だに抗生物質

の使用量が問題になっていることを見落としてはなりません。遺伝子やワクチン、バイオセキュリティ、病害防除、ストレス対処、機能性飼料などの各種戦略を包括した広範な健康管理が不可欠です。



包括的なアプローチ



動物の福祉と生産性の向上

抗生物質の使用量削減





抗生物質の責任ある使用

養殖において予防は治療に勝る優良事例との考えから、スクレッチングでは魚の健康に包括的なアプローチをしていますが、病気のリスク低減を目的とするすべての予防的手段を講じていても、養殖種の魚が様々な健康上の問題を抱えていることに注目する必要があります。この場合でも、行き届いた管理のもと、安全で福祉を重視した効果的な動物治療を円滑にする医薬用飼料は、最も侵襲性の低いものになります。

スクレッチングの医薬用飼料に使用される薬品は、特定の資格を有する獣医師が処方し、他の飼料への薬品混入を防ぐため製造ラインを分離して管理状態のもと製造された医薬品です。また、動物に早急な治療が行えるよう、リードタイムを特に重視しています。

抗生物質も含めて獣医師が処方する薬品を水産養殖飼料に使うことは、特定の法律や規則に関わる問題です。この規則は地域ごとに異なります。登録された獣医師が特定の診断疾病の治療のために処方したものでない限り、スクレッチングの飼料に抗生物質は使用しません。

スクレッチングは顧客に寄り添い、抗生物質削減に向けた彼らの取り組みを支援しています。

従って、スクレッチングの飼料に抗生物質を使う目的は予防ではなく治療です。抗生物質の使用を最小限に抑え、業界全体で抗生物質を可能な限り使用しない、しかし使用する場合は厳しい医学的管理のもとで必要な量だけを使うという私たちの立場を維持します。

ロードマップ2025からも分かる通り、養殖において、スクレッチングの革新的な新製品とサービスは、直接的に抗生物質への依存を軽減すると考えています。実際、具体的に畜産分野の抗生物質依存の大幅な削減を目指すための戦略がロードマップに含まれています。

スクレッチングは顧客に寄り添い、抗生物質削減に向けた彼らの取り組みを支援しています。優良事例手順をアシストするサービスを提供しつつ、不要な抗生物質への依存を減らすために飼料添加物スペクトルというソリューションを提供します。また、抗生物質の使用に関する優良事例を確立するため、その他のステークホルダーや非顧客との協働も視野に入れていきます。これらの措置を合わせて行うことで、総合的に薬剤耐性菌（AMR）が人体に及ぼしうるリスクを低減できます。

包括的なアプローチ

予防は治療に勝る

抗生物質の医学的使用

「養殖の優良事例をアドバイスしたり、病気のリスクを最小化するワクチンや健康飼料を推奨したりと、スクレッチングは水産養殖における抗生物質の使用量削減に大きく注力しています。ただし養殖動物が細菌性の病気にかかった場合、食の安全やヒトの健康に深く関わる動物の長期的健康と福祉を保障するため、抗生物質を慎重に配合した飼料が重要なツールとなります。」

Tra-My Le、スクレッチング Pharmafeed グローバル プロダクト マネージャー





動物の健康支援を目指す研究開発：The Bubble

生物科学の進歩とコンピュータ技術の発展により、データ処理能力と人工知能という技術革新の新たな波が、水産養殖を含む各分野に影響を及ぼしています。この発展を後押しするため、スクレッチングは2020年、スクレッチング水産養殖研究センター（ARC）の重要な部分となる研究施設、The Bubble を設立しました。

この新しい研究所では、スクレッチング ARC の科学者チームが、乳がんや新型コロナウイルスといった病原体の発見にも使われる同じ技術を使って人間の健康分野の技術を用いて、水産養殖種の複雑な生理学的相互作用の理解を深め知見を集めます。

「この研究所では必要不可欠な「なぜ (why)」を見出し、結果の背後にあるメカニズムを解明しましょう」スクレッチングの研究開発ディレクターを務める Alex Obach はこのように語ります。「変化を見守るだけでなく、私たちの理解はかつてないほどに広がるはずです。一部の魚の成長が良かったり、トラブルに強かったりするのなぜなのか？その理由を解明できれば、さらに進んだイノベーションも可能になります。これらのテクノロジーが、スクレッチングと水産養殖業界にどれほど素晴らしい機会をもたらしてくれるのでしょうか。」

The Bubble の科学者チームのリーダーを務めるのは、トランスクリプトミクス（転写学）、生物科学、細胞培養学の専門家である Delphine Crappe です。「ユニークな知識の宝庫である The Bubble で、日常的に知識を共有し、相互作用の比較ができるのは大きな利点です。この研究所のねらいは成長し続けること、新しい課題や市場に出ている実用可能なテクノロジーに適応するため絶えず進化していくことです。」 Delphine はこのように述べています。

研究者チームはマイクロアレイ、qPCR、オミクス、細胞培養、迅速分析、定量的組織学などを駆使し、健康上の課題や水生動物のリスクの根本的原因についてより深い掘り下げを行います。

細胞培養などの技術により、チームはよりサステナブルな研究を行うことができます。



協働による進歩

ピンコイ プロジェクトは世界の養殖業界（あるいはすべての業界）にとって新しいアプローチを採用し、チリのアトランティックサーモンの養殖の抗生物質使用量を減らすために5年前に始まった7か国共同のイニシアティブです。パートナーとのあらゆる共同作業を通じ、丈夫で健康な魚を育てるための養殖戦略を打ちだしています。最新の知識と経験、イノベーションを共有し、チリの抗生物質の使用量を50%まで減らすことがこのイニシアティブの最大の目標です。

チリの風土病であるピシリケツチア症（SRS）は、一度流行し始めたら抗生物質を使う以外に打つ手はありません。しかしピンコイは、包括的な予防対策と疾病管理戦略に重点を置いています。遺伝子上SRS耐性を持つ魚、最適なワクチン戦略、機能性が高くハイパフォーマンスな飼料、養殖環境の整備徹底、魚の福祉の充実、適切に必要な処置のみの提供などは、この病気を治すためには1つとして欠かせない要素です。

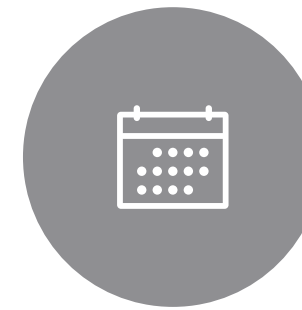
ピンコイの養殖場は、「最小限で最適」の原則を踏まえながら23件以上の魚の健康要件を満たし、動物の福祉基準のフォローアップについても万全を期しています。

最新の知識と経験、イノベーションを共有し、チリの抗生物質の使用量を50%まで減らすことがこのイニシアティブの最大の目標です。

ピンコイ 1.0 以降、サーモン養殖の新たな開発とともにこれらの要件も展開があり、目標を達成する方法の講習などの改善を重ねてきました。ピンコイ 2.0 の養殖場は先ごろ出荷が行われ、次の段階への移行に向けて必要な客観的情報を得るため、生産性と衛生状態のデータを現在分析中です。現在、2つの養殖場でSRS耐性のあるホモ接合体のサーモンを対象に、当プロジェクト用に独自で開発した試験が行われています。この新たなグループは前述の要件にすべて適合し、さらに淡水養殖の段階にその動物福祉が実行に移される初めての取り組みとなります。

2020年10月に公開ウェビナーで始動したベストプラクティスマニュアル（Best Practice Manual）で、過去5年間に行ったピンコイプロジェクトの仕事が公開されました。このマニュアルはその後、ステークホルダーにも共有されています。現在、希望者はウェブサイト www.proyectopincoy.com 上で閲覧することができます。

このプロジェクトは、共通の業界内でプロジェクトのファクトやLinkedInによるニュースなどを共有しています。さらに同プロジェクトはメディアやインタビューに登場し、主だった業界セミナーでも取り上げられています。



構想に5年



協力会社は7社



抗生物質を50%減





アクアケア (AquaCare) – 魚とエビ養殖の水質改善

世界の一部の地域では、養殖業者が安全で清潔な水を確保することが益々困難になっています。業界のサステナビリティ向上へのコミットメントを主要な役割とするスクレッチングは、サステナブルな最先端飼料の供給という枠を超え、魚とエビの養殖システムの水質を改善する新製品ライン「アクアケア」が誕生しました。

アクアケアは使いやすいプロバイオティクス細菌で、養殖池システムの水に有益なバクテリアを添加することで有害なバクテリアが水中で増殖するのを防ぐ効果があります。また、この有益なバクテリアは、濃度が増すと魚の脅威となるアンモニアを積極的に消費することで水質が改善され、その結果として水を入れ替える頻度が減らせます。有機物や糞尿、少量の残餌もアクアケアを使わなければ汚泥になるため、この有益なバクテリアが消費した結果、短時間のうちに次生産サイクルに向けた環境が整います。



「アクアケア (ベトナムでは「AO ケア」) は、近代的な養殖を行うベトナムのための優れた新製品です。私たちは養殖業者の水質サポートを通じて業界の発展に大いに貢献できると確信しています。

同時に、スクレッチングのテクニカル チームではベトナム全土の養殖業者の水質モニタリングのサポートにあたり、水質を含めた問題について養殖業者とスクレッチングの技術者が情報交換できる SNS プラットフォームも運営しています。アクアケアは 2021 年、インドとインドネシアでも発売される予定です。」



Arjen Roem、
マーケティング ディレクター、ニュートレコ東南アジア



気候と循環

科学的根拠に基づく目標の設定

各国政府は2015年のパリ協定で、世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて少なくとも2℃以下に保ち、1.5℃以内に抑える努力をするという目標を制定しました。これを達成するためには、2030年までに温室効果ガス排出量（GHGe）を半分に、2050年には実質ゼロにまで減らす必要があります。世界の気温上昇を産業革命以前のレベルと比べて2℃以内に保つ削減規模に合わせた開発が行われている排出量削減目標は「科学的根拠に基づいている」とされます。

ニュートレコは2020年3月、科学的根拠に基づく目標（SBT）の原則に沿った炭素排出量目標を設定しました。この [科学的根拠に基づく目標イニシアティブ](#) は2015年末を期限とし、[カーボン ディスクロージャー プロジェクト \(CDP\)](#) と [国連グローバル コンパクト \(UNGC\)](#)、[世界資源研究所 \(WRI\)](#)、[世界自然保護基金 \(WWF\)](#) と共同で立ち上げられたものです。



オペレーションからのGHGe削減

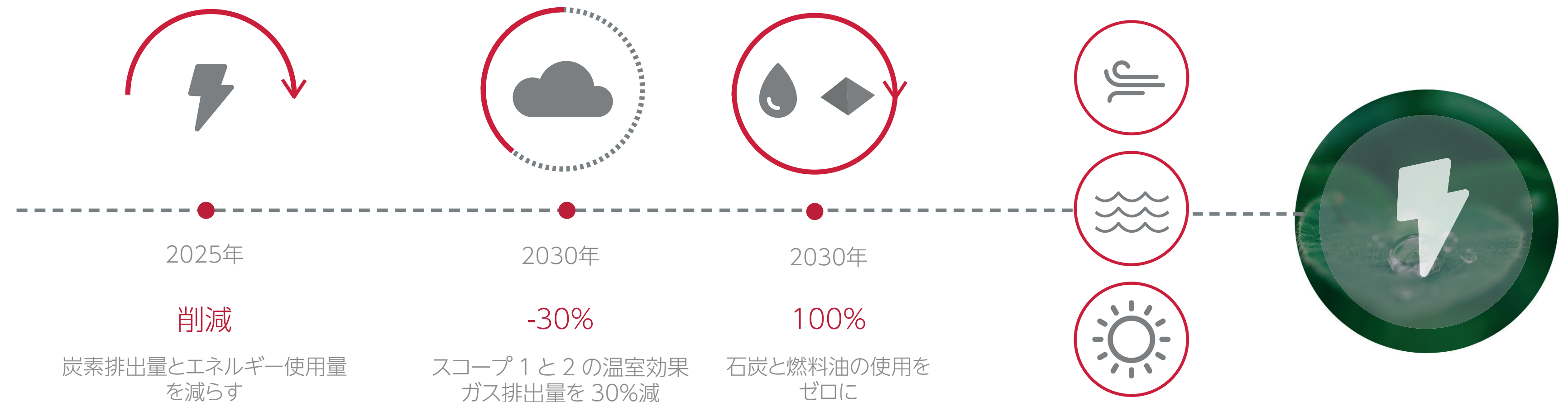
スクレッチングは、2009年からオペレーションによって発生するGHGeのフットプリントを報告しています。サステナビリティに関する過去の目標（ビジョン2020）では、2020年までに飼料製造工程由来のフットプリントを半減するという思い切った数字を掲げました。炭素排出量の削減と炭素クレジットの購入と使用も、この大きな目標の一部でした。スクレッチングは2025年を視野に入れ、私たちの炭素排出量の削減と飼料製造工程内のエネルギー使用量の大幅カットを実現する強固なコミットメントを先導します。

私たちの目標

スクレッチングの大きな目標は、2030年までに2018年基準値に沿って、スコープ1と2の排出量から温室効果ガスを30%削減することです。スコープ1はスクレッチングが所有ないし管理する資源を使用することにより発生するGHGeで、石油やガスを使う工場内の機械や設備がその代表です。スコープ2は電気や熱、蒸気など購入したエネルギーの使用により間接的に発生する温室効果ガスを指します。この場合のエネルギーは外部で作られ、スクレッチングの工場に送られます。

目標を達成するために

スクレッチングはエネルギー使用量を減らし、再生エネルギーの使用量を増やすことに重点を置くことで、この目標の達成を目指しています。グリーン電力が入手できればそれを購入します。「グリーン電力」とは、風力発電や太陽光発電、水力発電などによる再生可能な資源です。さらに、飼料製造時のエネルギー使用量の大幅削減もスクレッチングの大きな目標です。私たちはエネルギー資源の利用の変更を進めようとしています。ニュートレコは2025年までに、石炭は2%未満、燃料油は5%未満まで使用量を削減することを目指しています。2030年までに石炭と燃料油の使用をゼロにすることが目標です。





原料由来のGHGeの削減

スクレッチングで最大の排出量となるスコープ3は、飼料製造時のものです。工場渡しの合計排出量では、スコープ3が製品による排出量の90%以上に相当するという調査結果が出ています。これまでスクレッチングは、よりダイレクトな管理下にあるスコープ1と2に注力してきました。

しかし気候変動の問題を解決するためには、関連する全ての範囲においてGHGeを削減することが必要です。つまり、スコープ3の排出量（バリューチェーン内排出量）を減らさなくてはなりません。スコープ3排出量は、スクレッチングの直接の管理や所有の範囲外にあります。したがってスコープ3のデータ収集は難しく、それらの削減を目指そうとした場合、固有の規制や業界構造の点で困難になることがあります。

私たちの目標

SBTプログラムでは、2030年までに、2018年基準値に沿ってサプライチェーン内のGHGeの付加価値単位ごとに58%の削減という目標を掲げています。スコープ3排出量は原料の購入や外部のサービス利用によって間接的に発生するものです。その排出量の大部分は、作物生産や土地利用の変化の負荷が占めています。

目標を達成するために

スクレッチングは、私たちのようにSBTsを定めているサプライヤーとかかわりを持っていきます。サプライヤーにも独自のSBTの制定を推奨する、サプライヤーはGHGe削減を行うことに協力するなど、サプライヤーとの関わりを通じてスコープ3の目標達成を目指します。

従来の原料からGHGeがより少ない代替物への置換えと、新規原料開発の継続的支援も行っています。森林破壊や土地利用の変化を引き起こすGHGeを最小限に抑えられるよう努力します。

この場合の排出量削減は、資源の購入先を森林破壊率の高い地域から低い地域に転換することで実現します。スクレッチングが森林破壊率の高い地域から資源調達するのは、例えば大豆のように森林破壊ゼロの材料を購入する場合です。

スクレッチングは、移動や廃棄などに関わるスコープ3排出量の削減にも努めていきます。



サプライヤーのGHGe削減に関与



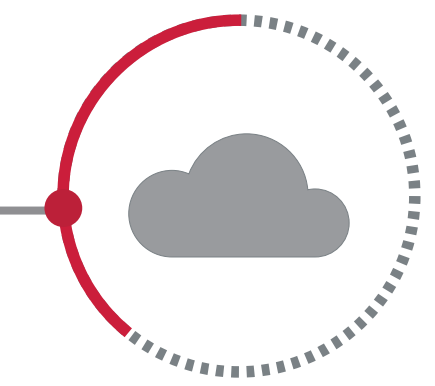
GHGeが低い新原料



森林破壊率が低い地域からの購入



移動と排気による排出量の削減



2030年

-58%

サプライチェーンによる温室効果ガス排出量を58%減



飼料のカーボン フットプリント

カーボン フットプリントは、製品とサービスのライフサイクルにおける GHG を算出したものです。国際標準化機構 (ISO) によるカーボン フットプリント基準の ISO 14067:2018 の計算法では、製造システム内の温室効果ガス排出量 (GHGs) と (自然環境における) GHG の除去の合計を CO₂e と定義しています。気候変動という単一の影響分類を用いたライフサイクル アセスメント (LCA) が基本となっています。

そのため、カーボン フットプリントでは、資源の採取、製造と使用、廃棄やリサイクルに至るまで、全てのライフサイクルステージが考慮されます。一方、部分的なカーボン フットプリントでは、特定のライフサイクルステージのみを考慮します。

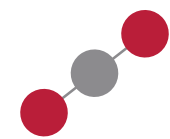
カーボン フットプリントが LCA と異なる主な点は、単一の環境負荷範囲 (地球温暖化係数) で評価し、それ以外の非 GHG や酸性化、河川や湖の富栄養化、毒性、生物多様性といった環境負荷につながりかねない負荷は考慮されないことです。LCAs と同様、カーボン フットプリントは社会的・経済的負荷には触れません。

温室効果ガスは、赤外線放射の吸収と放射によって地球温暖化に影響を与えるガスです。

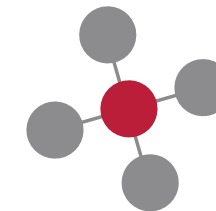
大気中に拡散する際に気候変動を助長する GHGs には、自然界に存在するものと人間の活動によって発生するものなど、様々な種類が存在します。

最も顕著なGHGs

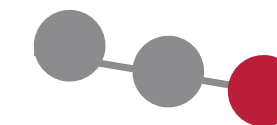
CO₂
二酸化炭素



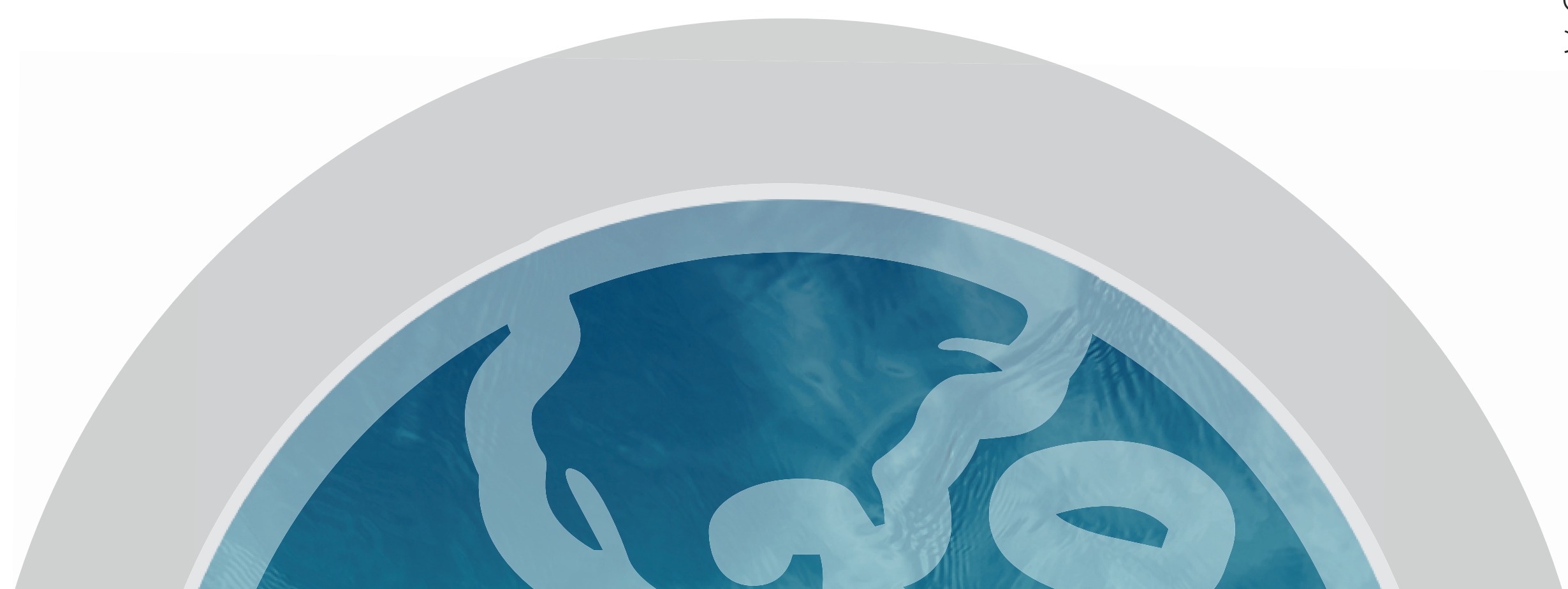
CH₄
メタン



N₂O
亜硝酸窒素



LCAs の考え方では、京都議定書のリストにあるような人的活動によって生じる GHGs を重視します。GHG の合計したパラメータとするカーボン フットプリントの評価単位は二酸化炭素換算 (CO₂e) です。



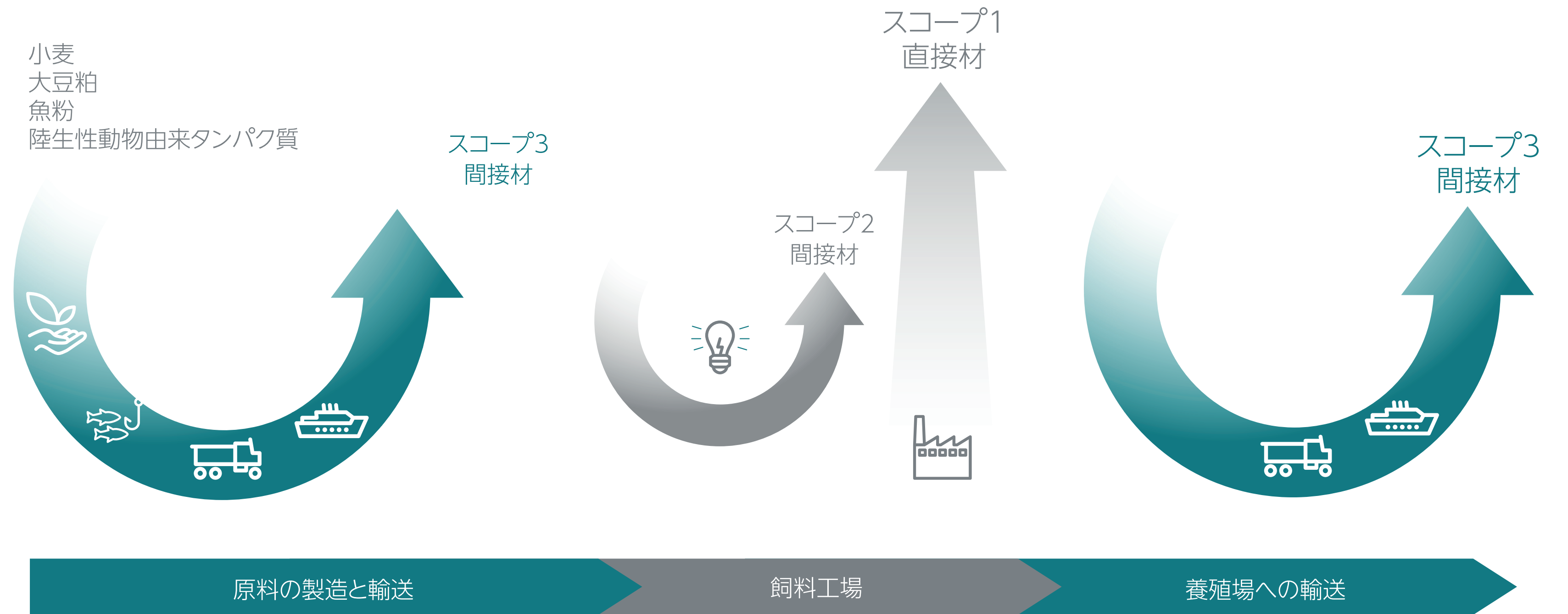
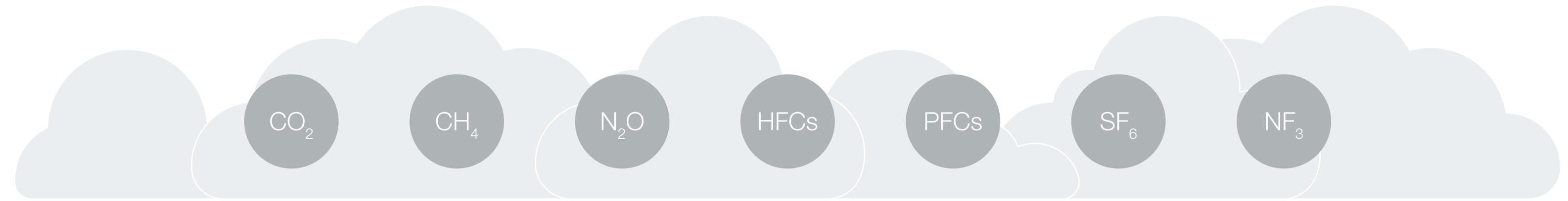


スコープ1、2、3の排出量

スコープ 1: スクレッチングが所有または管理する資源が直接排出する GHGe です。石油やガスを使う工場内の機械や設備などがその代表です。

スコープ 2: 電気や熱、蒸気など購入したエネルギーの使用により間接的に発生する GHGe です。外部で作られたエネルギーがスクレッチングの工場に送られます。

スコープ 3: スコープ 2とは異なる間接的な GHGe で、購入原料や燃料の抽出と製造、スクレッチングが所有または管理していない輸送活動によるものです。当社の事業においては、スコープ 3 の大半を占めるのは飼料の原料の栽培と製造、輸送です。スコープ 3 排出量は製品における排出量全体の中で最も多くなっています。



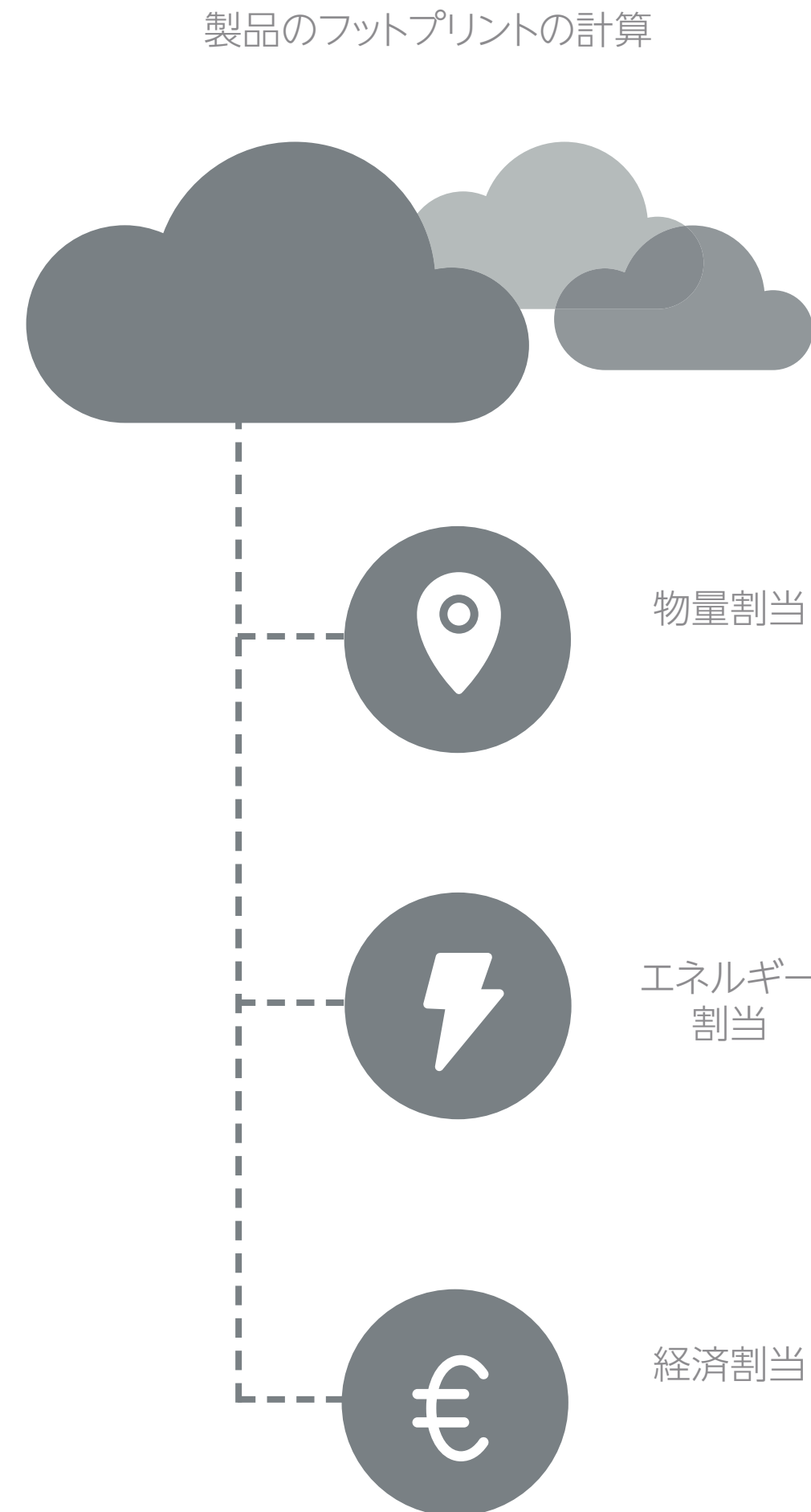


排出枠の割当

製品のカーボン フットプリントは、それぞれ異なるライフサイクルの段階と製造工程を考慮に入れて計算する必要があります。しかし、様々な工程を経て、様々な形や製品に変化していきます。簡単な例としては大豆加工業者による大豆粕や大豆油、濃縮大豆タンパクの製造などがあります。この場合のカーボン フットプリントは工程に投入したもの（大豆など）で、この加工による排出は、別の工程の産物として割当をする必要があります。

これらの割当方法は、例えば物量による割当（多くは生産物の物量占有率による）、エネルギーによる割当（例：生産物のカロリー含有量）、経済的割当（生産物の価値）など異なる原則があり、それぞれに長所と短所があります。LCA 基準によれば、割当が不可避な場合は物量割当が堅実な選択であると推奨されています。

ただし、物量割当を適用すると副産物による排出量のシェアが高くなり、循環経済を強化するために副産物を使用するという本来の意図とは見かけ上の矛盾が生じます。そこで ISO は、正当性が認められれば別の割当方法も選択できるようにしました。経済的割当は EU 製品環境フットプリント (PEF) 基準に沿い、関連業界基準である PEF Category Rules for Feed により、特に飼料原料に対して推奨される方法です。



直接的土地利用の変化

飼料製品のカーボン フットプリントは、国際的に認証されたカーボンフットプリント基準に従い、直接的土地利用変化を考慮して申告しなくてはなりません。直接的土地利用変化のほとんどは、例えば市場での農産物需要の増大などがもたらす、非農地から農地への転換によるものを指します。この土地転換の結果は、短期的にも長期的にも GHGe を生じます（森林バイオマスの損失によるもの、そしておそらく長期的には土壌炭素プール（炭素貯留）が相殺されることによって）。

直接的土地利用の変化に伴う温室効果ガス排出は、その土地利用の変化が、評価の時点から過去 20 年以内のものか考慮しなければなりません。つまり評価の 20 年以上前に農地転換された土地で生産された原料であれば、カーボンフットプリントの調査で直接的土地利用の変化による排出とみなされていません。



評価の 20 年以上前に農地転換された土地の原料は、カーボン フットプリントの調査において直接的土地利用の変化による排出とみなされません。

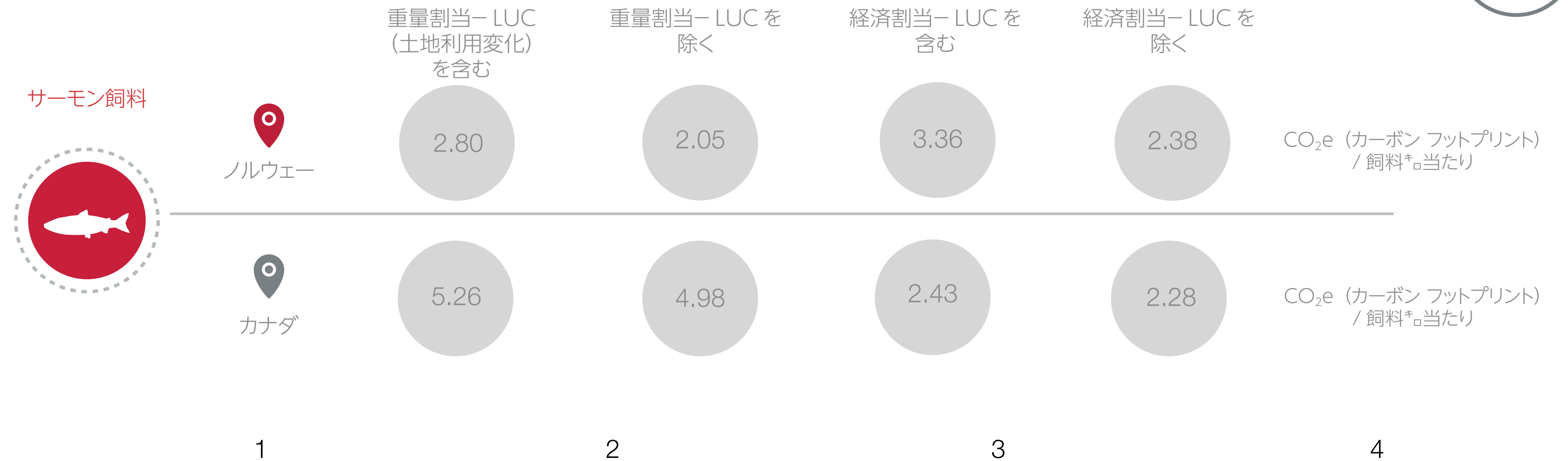




カーボン フットプリントの価値

異なる飼料製品ごとのカーボン フットプリントを知り、それらを比較するには、使用されている方法を十分理解することが重要です。また、受け入れられている業界関連の LCA 基準による主要な条件を満たしているかどうかを検証する必要があります。(例えば、土地利用変化による排出量、選択、データの品質、割り当ての原則などの条件) そうでなければ、同一条件での比較ができないからです。

これらの基準のひとつに [PEFCR Feed for Food-Producing Animals](#) があります。



直接的土地利用の変化 (LUC) を含むということは、例えば過去 20 年間以内の、多くは飼料原料用農産物の生産にともなう森林破壊のような、土地利用の変化で生じた温室効果ガス (GHG) 排出量もカーボン フットプリントに含まれることを意味しています。

GHG 排出量を重量割当によって示すと、カナダではノルウェーよりはるかに高い数値が出ます。厳密に分析すれば、飼料に使用している家禽副産物の影響が大きいことが明らかになるはずですが。

その副産物の経済的価値ははるかに低いものでも主産物に対して副産物の重量が多い場合、重量に基づく割当ではフットプリント内の副産物の占有率が高くなります。また、原料を加工することでエネルギー使用量も増え、GHG 排出量が上昇することがあります。

GHG 排出を経済的割当にすると、カナダの数値はノルウェーよりはるかに低くなります。厳密に分析すれば、飼料に使用している家禽副産物の影響が大きいことが明らかになるはずですが。経済割当では、家禽副産物による値の見積もりは低くなります。

「二酸化炭素換算」を意味する CO₂e/kg (カーボン フットプリント / キロ) は、二酸化炭素だけでなくすべての温室効果ガスの地球温暖化係数を指します。



製造の改善

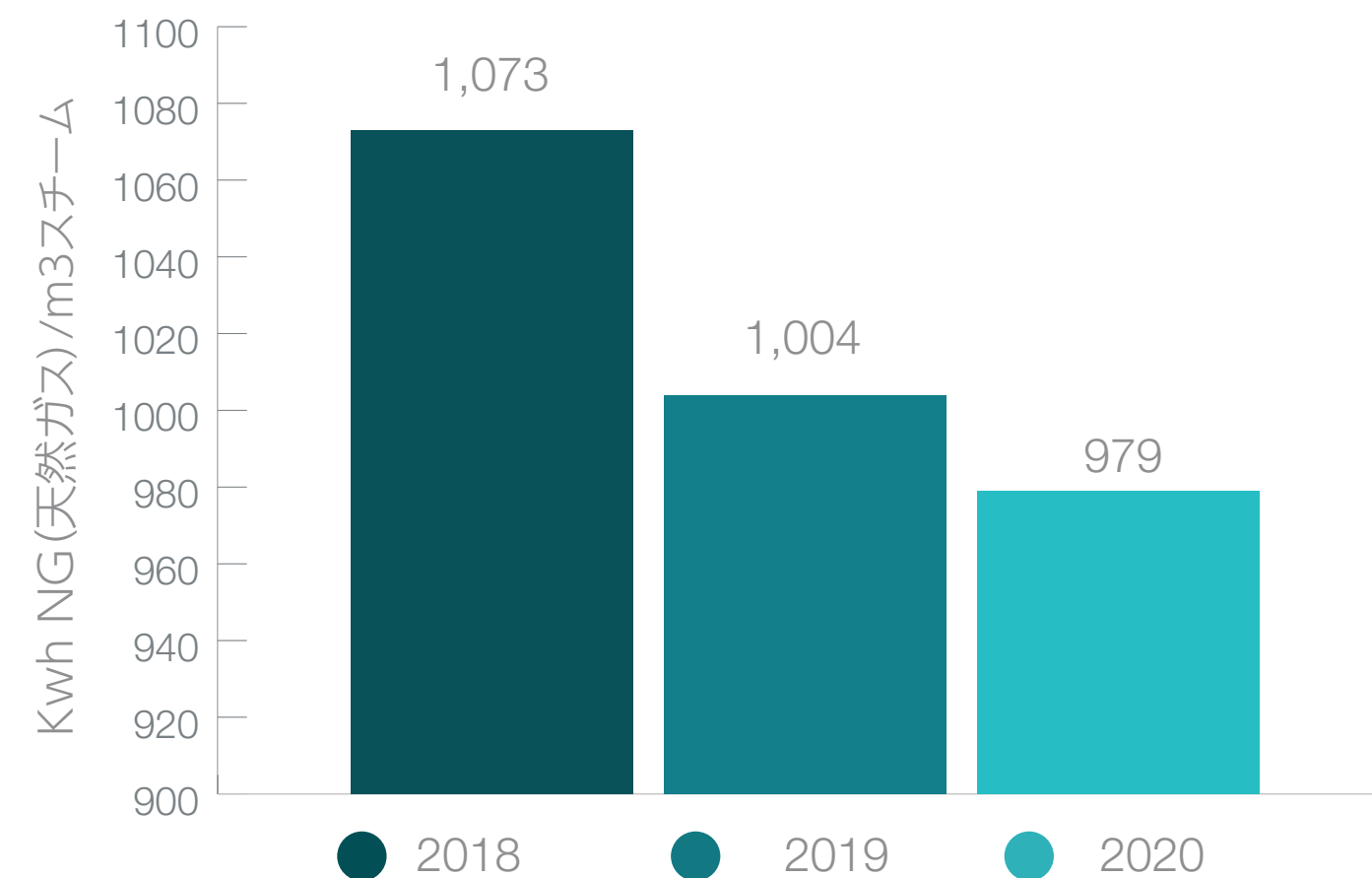
スクレッチングは魚とエビの飼料における世界のリーダーとして、責任ある方法で調達した原料を使用し製造を行うことで業界のサステナビリティに貢献しています。私たちが正しく飼料製造を徹底して行っていくこともそのコミットメントの重要な一部分であり、私たちを世界中の社内オペレーションにおけるエネルギー使用量や温室効果ガス排出量、廃棄物や水の使用量の削減に注力させるのも、この責任によるものです。スクレッチングでの製造（スコープ 1）は、飼料のカーボン フットプリントの 5%程度になります。

世界中の製造の主な目的は、各製造拠点の製造支援を通じ、スクレッチングの工場で働く人々にレベルの高い職能を身に付けてもらうことです。グローバルプロジェクトに参加できるほど高いレベルになれば、製造上の目標を達成でき、魚とエビの飼料製造における世界のリーダーになれるはずで、スクレッチングは常に強固なグローバルネットワークを作り、国によって異なるやり方を超えて協働してきました。各国のチームが共通する多くの課題に取り組んだ結果、全社員において情報や意見の共有がなされ各人の意識の向上につながりました。

大半の地域で新しい製造施設、工場の閉鎖や進行中の拡張工事などがあるため、スクレッチングのフットプリントは常に改善しています。第三者機関が報告プロセスを批判的にチェックすることでデータ品質が常に改良されている 4 つの主な環境 KPIs に関し、私たちは継続的なモニタリングと報告を行っています。

2020 年の 2 大グローバルプロジェクトは、エネルギー削減と KPI 評価でした。スクレッチングの各国のチームは、エネルギー削減を重視した多くのプロジェクトに取り組みました。成功したプロジェクトは、各国で紹介され、必要に応じて他の工場でも採用されることで、その恩恵を受けることができます。今までのところ、エネルギー節約で最大の効果を得た領域はスチームボイラーとドライヤー、熱交換です。これらのプロジェクトはトン当たりの製造 kWh（キロワット時）に対する効果が最も大きくなっています。以下の図表は、スクレッチング スペインの過去 3 年間のガス使用量削減を示しています。

スチームAqua(アクア) (Kwh天然ガス/m3スチーム)



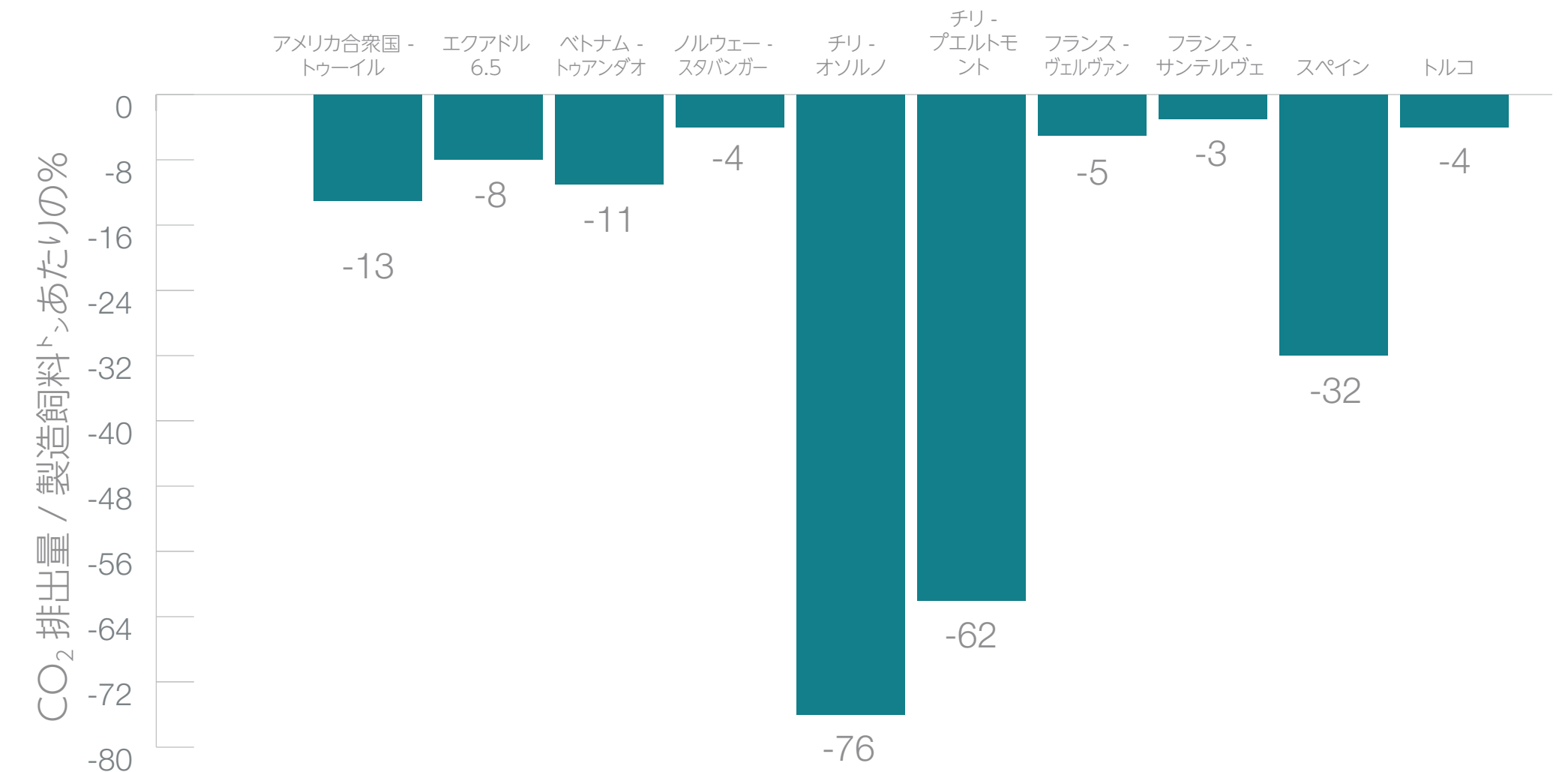
また、数カ所の工場の製造で CO₂e が激減しました。全世界で見るとスクレッチングは昨年、2019 年の排出量から 7.5%減らしています。全体的なエネルギー削減に起因するものもありますが、この減少の主な要因は、よりグリーン（再生可能）なエネルギーを調達したことです。

合計削減量に最も大きく寄与したスクレッチングの工場の結果を、以下に示しました。このような傾向が続けば、市場において、また新しいエネルギー契約交渉でもより良い選択ができるようになることも期待できます。

今後 30 年間の目標は、毎年 1 トン当たりの消費エネルギーを 2%減らし続けながら、スコープ 1 と 2 (2018 年の基準データによる) に沿って 2030 年までに CO₂ 排出量 30%削減を実現することです。



2019 年と比較した 2020 年の CO₂e - CO₂e/ トンの%変化





製造KPIの測定

スクレッチングは 2020 年、グローバル製造 KPI の報告において完全なコンプライアンスを確保するためのプロジェクトを発表しました。私たちの目標は、一貫性のある改善を容易にするプログラムを組み、製造の標準化と文書化を行うことです。

そのための第一歩はデータの精度を保つことですが、すでに私たちのすべての工場が毎月同一の方法で製造 KPI の報告を行っています。現在、このデータを利用して、廃棄物の削減とエネルギー使用の節約をさらに進めています。

2020年 対 2019年

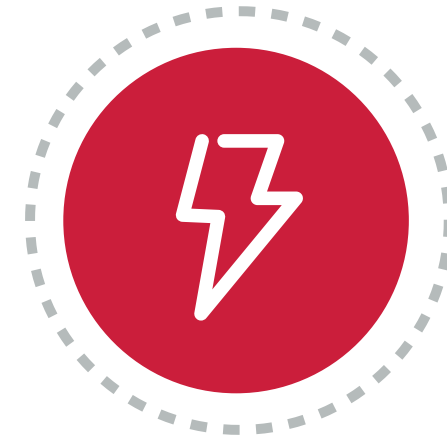
エネルギー
トンあたり
Kwh



6%

2020 年のエネルギー消費量の合計は 2019 年から 6%増加しており、その一部はチリの工場閉鎖によるものです。これに関し、長期的に見れば全体的エネルギー効率は上がるでしょう。製造工程と保守の面に相当な重点を置き、エネルギー使用量を減らした工場も複数あります。サイエンス ベースドターゲットへのコミットメントの一環として、私たちは今後、エネルギー効率のさらなる向上に焦点を当てていきます。

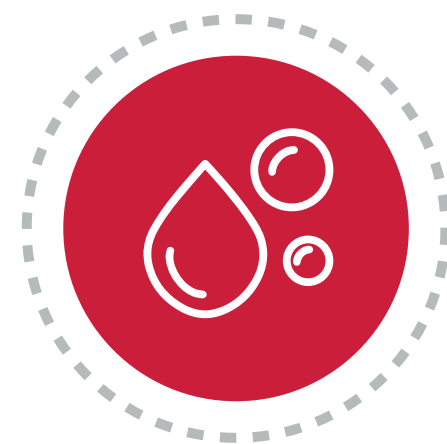
GHG 排出量
トンあたり
CO₂e キロ



-9%

スクレッチングは 2020 年の温室効果ガス排出量を大幅に削減しました。これはエクアドルとスペイン、チリで、グリーンエネルギーの使用量が増えたことが主な要因です。エネルギー節約プロジェクトによって GHG の削減も果たした工場もあります。GHG 排出量に対する意識の高まりが大幅な削減に結び付いたこと、サイエンス ベースドターゲットへのコミットメントの結果がすでに表れていることは、私たちにとって大きな喜びです。

取水
トンあたりリットル



6%

2020 年、スクレッチングの取水は 5%増加しました。大幅に減少した工場もあれば増加した工場もあり、全体の状況はとても複雑です。これについては取水の増量傾向に歯止めをかけられるよう、成功事例を共有していきます。

廃棄物発生量
トンあたりキログラム



19%

例えば工場での建設作業や新しい工場建設など、毎年の廃棄物の発生量に影響する要因は数多くあります。サイロを空洞にして行う定期的なクリーニングのようなその他の活動によっても、報告に上がる廃棄物量は多大な影響を受けます。2020 年の間、私たちは合計廃棄物発生量に対して KPI のガイドが求める十分な重点を置くことができませんでした。今後は埋め立て処分となる一般廃棄物に焦点を当てていきます。スクレッチングのサステナビリティ ロードマップの目標は、2025 年までに廃棄物の 50%をリサイクルし、埋め立て処分となる一般廃棄物量を 15%未満にすることです。2030 年までにはリサイクルされる廃棄物を 60%に、埋め立て処分の一般廃棄物をゼロにしていきます。





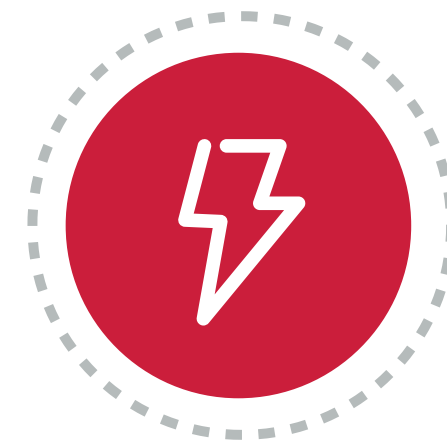
スクレッチングのグローバルチームと各国のチームは密接なチームワークにより、製造の目標達成をもたらすイノベーションと改善を続けます。目標とする範囲は大きくても、同じくらい挑戦しがいがあります。

2020 2019 2018 2017

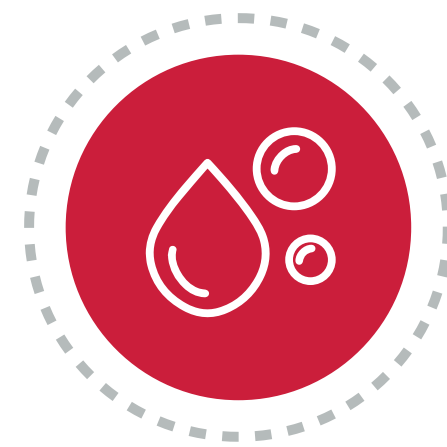
エネルギー
トンあたり
Kwh



GHG 排出量
トンあたり
CO₂e キロ



取水
トンあたり
リットル



廃棄物発生量
トンあたり
キロ





スクレッチング イタリアの カーボン ニュートラルを目指す取り組み

世界の温室効果ガス排出量の約 4 分の 1 が食品製造によって発生していることを考えると、カーボン フットプリントを減らすことは、フードサプライチェーンが気候変動に対処する最も効果的な方法の 1 つです。スクレッチング イタリアは 2020 年、養殖飼料の製造工程や養殖場で発生する CO₂ 排出量を最小限に抑えることが大きな機会であると考え、新しいカーボンニュートラル飼料コンセプト「Feed 4Future」を発表しました。

世界の温室効果ガス排出量の約 4 分の 1 が、食品製造によって発生しています。

この市場初となるコンセプトは、魚種の栄養要件に関するスクレッチングの広範な知識と、厳選

されたサプライヤーから責任を持って供給される、サステナブルで環境負荷の低い飼料原料を組み合わせたものです。スクレッチングの画期的なマイクロバランスの技術を応用し、人間の消費と競合しない革新的な原料と高品質の副産物を取り入れることで、Feed4Future の飼料は標準的な飼料より 10%低いカーボン フットプリントを実現し、残りの CO₂ 排出量はカーボン クレジット* で補うことができます。

*スクレッチングのカーボンバランスのカーボン クレジットのスキームは、ブラジルの Agrocortex REDD+（森林減少と森林劣化からの排出量の削減）プロジェクトに関連しています。

食品製造の影響にスポットライトを当てることで、Feed4Future はイタリアの養殖業のサステナビリティを新しいレベルまで高めています。漁場の二酸化炭素排出量の 80%が飼料に関連しており、このコンセプトを適用している私たちは、今日地球が直面している最も広範な問題に数えられる気候変動に対して効果的な行動を取っているのです。さらに、完全にカーボンニュートラルな漁場でより大きな一歩を踏み出そうとしている生産者のために、生産者の目標達成を支援する新たなプログラムのカーボンバランスを開発しました。

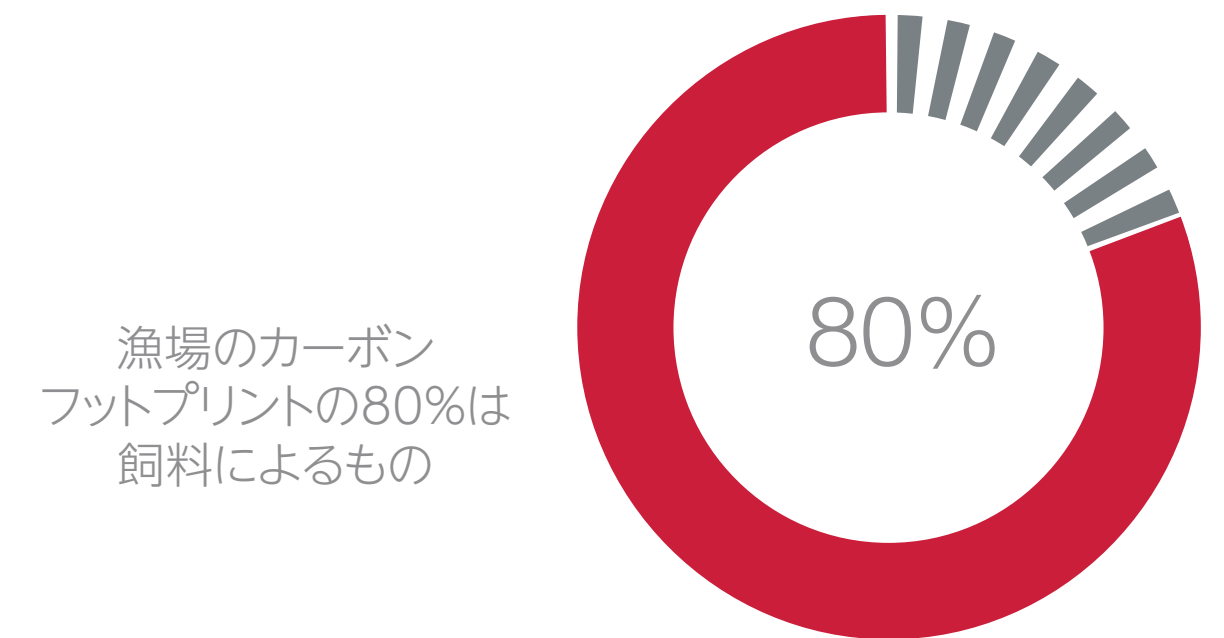
各養殖場の初期評価を行ってからカーボン フットプリントを計算し、それを削減する対策を特定し、顧客と協力して完全なカーボン ニュートラルを達成します。

カーボンバランスはさらに、すでにプログラムに参加している第三者認証機関へつなげ、これらの行動を市場に伝えるためのサポートも提供します。

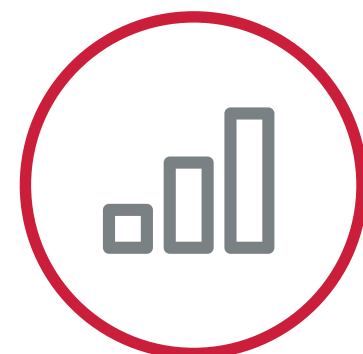
特に、これらの魚をカーボン ニュートラルにしている理由やサステナブルで回復力のあるフードシステムに貢献していることについて、より広い層に説明できるように努めます。全体で見れば、このような地球にやさしいアプローチは、責任ある養殖生産者が自分の製品提供力と競争力を強化するためのベースを提供することになるのです。



スクレッチング イタリアの新しいカーボン ニュートラル製品は、顧客が参画するプロジェクトの「アクアインボッカ!」から生まれたものです。2017 年に発表したこのプロジェクトは、同国の養殖バリューチェーンが市場の期待と要件に叶ったサステナビリティに基づく価値の提案を行えるようサポートするものです。



1. 漁場の初期評価
2. カーボン フットプリントの計算
3. 削減のための対策の特定
4. 顧客と共同でカーボンニュートラルを達成



Feed4Futureは標準飼料よりカーボン フットプリントが10%低い



新たな大豆調達方針

ニュートレコは2020年、スクレッチングと姉妹会社のトラウニュートリションの購買チームの複雑な認証スキームを簡素化する大豆調達方針を発表しました。ニュートレコのサステナビリティロードマップ2025の一部を成すこの方針は、2025年までにサプライチェーンの森林破壊の完全撤廃を促進することも含みます。農業と水産養殖業の両部門において、森林破壊はサステナビリティの主要な課題の一つです。大豆とパームは森林破壊の主要な推進要因であり、これらの作物の生産量拡大のために毎年50万ヘクタール以上の熱帯雨林、泥炭地、サバンナが破壊されています。

良質な大豆タンパクは、畜産動物や魚の成長と健康的な発育を促進する目的で与えられます。多くの養殖魚種の飼料に含まれる魚粉の3分の1ないし半量を大豆粕や濃縮大豆タンパク、その他の植物性のタンパクや油に置き換えれば、天然漁業における海産由来原料の需要を減らすことができます。パーム製品は養殖飼料にほとんど使われていません。

ニュートレコは毎年約150万トンの大豆原料と8万トンのパーム製品を購入しています。数多くの認証制度や基準が、様々な森林破壊フリーの保証を提供しています。

ニュートレコは、認証が天然資源の責任ある利用を徹底するための単なるツールでないことを理解しています。とは言え、独立した認証を選択できる状況ならば、他の方法では情報の追跡が困難な原則に合致するかどうかを特定するツールとして使うことができます。知識や大きな目標のレベルが上がるにつれ、認証も常に進化しています。認証の遵守を確実にするという課題に対処するべく、ニュートレコの購買チームは透明性の高い方針を打ち出し、森林破壊のリスクが低い地域と高い地域の大豆生産地域への重点を強化し、リスクが高い地域での購買要件の概要を示しています。

生物多様性と気候変動に与える負荷を抑えるため、私たちは2025年末までに大豆とパーム原料の調達先を合法・違法の森林破壊ゼロにすることを目指しています。この目標の定義は以下に挙げるとおりです。

クラス A

森林破壊のリスクが低い地域から原料を調達する場合、認証スキームは必要ありません。森林破壊のリスクが高い地域から調達する場合は、指定された期日以降の森林破壊がゼロであることが分かる認証スキームによって購入する必要があります。クラスAの大豆とパーム原料は、クラスB、C、Dの原料とは物理的に分離したサプライチェーンで取引されなければなりません。

クラス B

森林破壊のリスクが高い地域から原料を調達する場合、マスバランスまたはクレジット制度を利用し、指定された期日以降の森林破壊がゼロであることが分かる認証スキームによって購入しなくてはなりません。

クラス C

森林破壊のリスクが高い地域から原料を調達する場合、違法な森林破壊がゼロであることを特定する認証スキームによって購入しなくてはなりません。

クラス D

森林破壊のリスクが高い地域から認証なしで原料を調達。

森林破壊ゼロの大豆とパーム原料調達を達成するため、私たちの方針実施のすべてにあらゆるバリューチェーンが採用されることとなります。ニュートレコのサステナビリティロードマップでは、2025年までに大豆およびパーム原料の森林破壊ゼロにするとしていますが、スクレッチングでも高い目標の中間マイルストーンを定めています。

特定の地域および/または種に関しては、さらに異なるマイルストーンも継続的な評価を受けます。すべての原料調達に対しては、ニュートレコのビジネスパートナー行動規範が適用されます。

「調達とは適切な時に適切な価格、適切な場所で適切な製品を購入することです。大豆やパームについては適切な製品の購入には困難を伴いますが、ニュートレコの購買チームはこの方針のおかげで正しい行動をとりやすくなるツールを手にすることができました。なぜならば森林破壊を終結させることは正しい行いであり、私たちニュートレコの社員は言葉だけでなく、実際に行動しているからです。」

Robert van den Breemer、スクレッチング 購買ディレクター





より良い新規原料の調達・活用方針にむけて

スクレッチングは2020年も魚とエビの飼料における新しいタンパク源と、オメガ3の代替源に対して強まっている業界の関心と需要を満たし続け、養殖における新規原料の開発と活用の先駆者という役割を果たしました。

従来使われてこなかった植物や動物を使うことで広く認識されている新規原料の技術は、現在、微生物や昆虫を原料とするタンパク質や油脂も含め、業界内で評価されつつあります。昨年は実際、顧客の協力を得て、EPAやDHAを含む藻類油や、昆虫種を原料とした高品質なタンパク質を使った飼料を開発し、販売しました。その他の飼料とともに今後も複数の市場で展開する予定です。

このような原料を市場に導入するにあたり、少なくとも原料の工場の新設や製造規模の拡大に要する長期の準備期間など困難はありますが、新たに作成されたニュートレコロードマップ2025では、2025年までにスクレッチングの飼料原料の5～10%は代替可能な新規原料にするという目標があります。

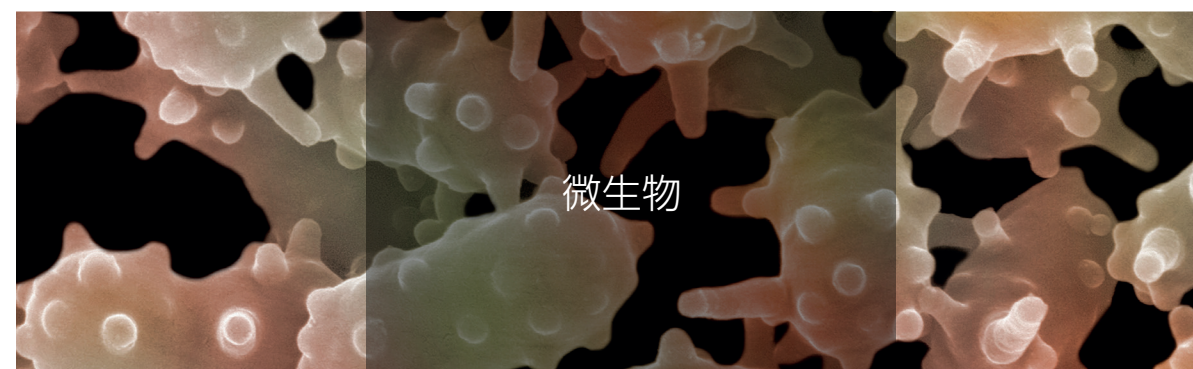
新たに作成されたニュートレコロードマップ2025によると、2025年までにスクレッチングの飼料原料の5～10%は代替可能な新規原料にするという目標があります。

新規原料への取り組みはロードマップの支柱である「気候と循環」に当てはまります。このため、スクレッチング（および親会社のニュートレコ）は、広範囲に及ぶ研究開発と生産量の拡大の後、商業ベースに乗る量の製造により従来の原料に置き換えられるこのような資源を「植物と動物、無機物由来の（飼料製造では従来使われてこなかった）非伝統的な飼料原料」と再定義しました。

ライフサイクルアセスメント（LCA）によってスクレッチングの実際の温室効果ガスや製品、購入する原料を数値化する評価作業を行うことで、私たちのもとに新たな知識やデータが集まって現在の新規原料の定義はさらに更新され、サプライチェーンと地球の利益をもたらすような、豊富な情報を踏まえたうえでの決断が可能になるでしょう。

私たちは引き続き新規原料の試験プログラムを頻繁に行いながら、私たちの厳しく責任ある購買手順を満たし、製品開発の一環となり得るような新たなサプライヤーや技術の世界規模で探し続けます。

新規原料の例



スクレッチングの目標に対し、新規原料にはコストの低さが求められ、私たちの飼料の中の置き換えたい物質に比べてはるかに低い環境負荷が要求されます。私たちはその条件に合致する可能性のある原料に限って、時間と費用を投資していくでしょう。全体として、新規原料を私たちの飼料の主流に置くことが困難な課題であるのに変わりはなく、それを実現するにはバリューチェーンが変わろうとする多大な努力が必要です。

「開発と商品化、飼料と食物連鎖でのさらなる新規原料の活用を続けることで、今後数年間はとても興味深い時期になるでしょう。」



Jenna Bowyer、スクレッチング
購買部門マネージャー 新規原料担当





責任あるブルーホワイティング漁業の提唱

ブルーホワイティングは、北東大西洋では最も豊富な魚種資源に数えられる魚です。ヨーロッパでは魚粉や魚油を製造する原料として、非常に重要な魚です。ヨーロッパ北西部で製造する魚粉のうち半分近くはブルーホワイティングが使われています。

これまで何年間も、ブルーホワイティングの漁獲は海洋管理協議会（MSC）の認証を受け、マリントラストのプログラム公認の漁業でした。2020年にはブルーホワイティングの漁獲量の割当て枠の問題が論争的となり、また毎年の漁獲高が科学的根拠に基づいて決められた量を大幅に超過していました。海洋管理協議会による北大西洋地域のブルーホワイティング漁獲に対する認証は、この論争と推奨限度を超えた漁獲高を理由に、2020年12月30日で停止されました。

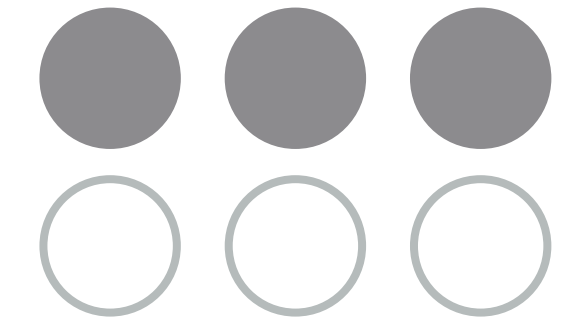
ブルーホワイティングの漁獲の問題はスクレッチングノルウェーの製造に関わります。スクレッチングノルウェーの購買方針では、ホールフィッシュを使った魚粉や魚油は、マリントラスト公認の漁場のものであることを条件に挙げています。論争により漁獲の認証が取り消されることは、スクレッチングとその顧客にとって、ただでさえ乏しい海洋資源へのアクセスの著しい損失です。

特にSDG14の「海の豊かさを守ろう」を含む国連SDGsの採択により、北東大西洋の漁業に関わるあらゆる経済水域では持続可能な漁業へのコミットメントが行われてきました。スクレッチングにはSDGsに即した責任ある海産物調達基準があり、認証は私たちが未来の世代に健康な地球を手渡すために貢献するという大きな目標に沿っている事実を示す、信頼すべき公平なツールとなるものです。認証を失うことで、SDG14が後退してしまう可能性があります。

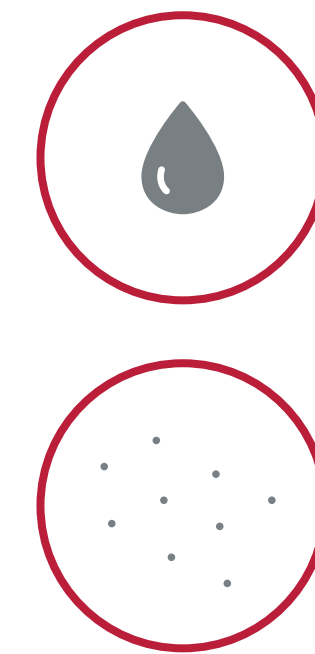
スクレッチングは2020年、ブルーホワイティング漁の責任ある管理を維持するため、関係者のステークホルダー各位の支援を求めました。その結果、北大西洋の遠洋漁業管理を改善するため市場先導型のアプローチを行うNorth Atlantic Pelagic Advocacy Group (NAPA)の創立メンバーとなりました。パートナーは、科学的根拠に基づく長期的管理の同意のため、科学的な助言に従いつつ、これらの漁業の正当な合計漁獲量についての合意を保障するという共通の目標のもとに働く小売業者や食品サービス会社、サプライヤーです。

2020年10月、北東大西洋の魚種資源の漁獲量の割当てを決めるため、スクレッチングは経済水域の代表団と正式に交渉しました。スクレッチングは合意を呼びかけ、協力体制をとることにより、ヨーロッパ海域の主な漁業管理の持続可能なアプローチ手段を見出すことができると強調しました。しかし、私たちは今すぐ行動を起こさなければなりません。

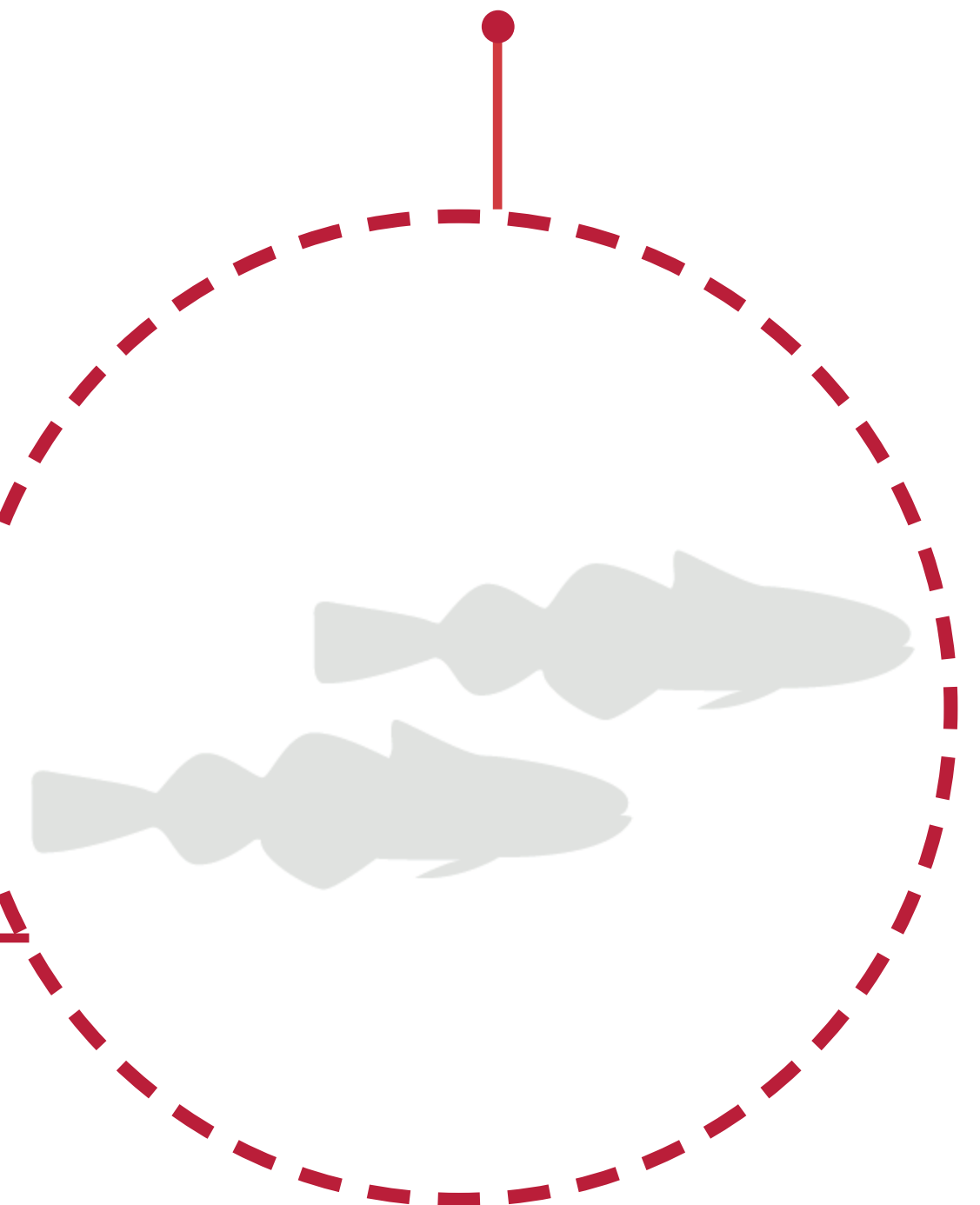
スクレッチングは2021年、NAPAと共同でブルーホワイティング漁における責任ある漁獲管理の認証回復に向けて働きかけます。



ヨーロッパ北西部の魚粉製造の50%近くがブルーホワイティングを使用



ブルーホワイティングは魚粉と魚油の原料としてヨーロッパではきわめて重要



良き市民として

献身的な人材育成と信頼ある企業であるために



ロードマップ 2025 の基本方針の一つは、スキルと情熱を持ったプロフェッショナルな人材を雇用することです。スクレッチングが求めているのは、養殖飼料の世界的リーダーであるスクレッチングで働くことを誇りとする社員です。スクレッチングの社員は、私たちのブランドと「Feeding the Future」というグローバルなパーパスを、全世界に伝えるという重要な役割を担っているからです。

2020年、私たちは、COVID-19 パンデミックの影響を大きく受けました。この危機的状況によって、当社が事業を展開する国々の地域社会、医療システム、経済への壊滅的な影響を目の当たりにしてきました。だからこそ、私たちの従業員が互いの身を案じ、同僚の社員とその家族が必要な支援を得られるよう、献身的にサポートし合っていたことを、私たちは誇りに思います。

飼料の先の新たなビジネスチャンスを見通し、ますます創造的で職域を超えたチーム（クロスファンクショナルチーム）を形成し、新たな人材と思考を取り入れながら、スクレッチングはさらに進化し続けます。優秀な人材を引きつけ、社員一人一人がビジネスにおいて自らの潜在的な能力を最大限に発揮できるように、スクレッチングは、多様性に富み包括的な職場環境の提供を約束します。

飼料の先の新たなビジネスチャンスを見通し、ますます創造的で職域を超えたチーム（クロスファンクショナルチーム）を形成し、新たな人材と思考を取り入れながら、スクレッチングはさらに進化し続けます。

これまでと同じように、そしてまた昨年はコロナ禍の影響があったからこそ、スクレッチングと親会社のニュートレコは、主に以下の重点分野において従業員と管理職への投資を継続的に行ってきました。



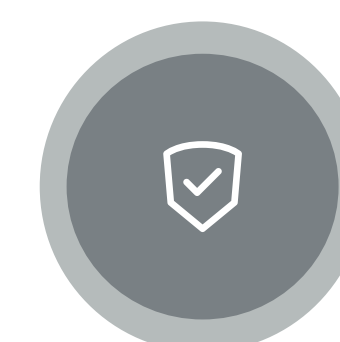
人材確保と人材への投資



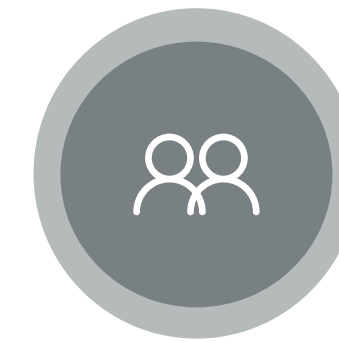
より多様な人材の育成



リーダーシップ行動の形成



健康と福祉の推進



顧客との関係強化とイノベーション



デジタル化と在宅勤務の推進



多様性と包括



責任あるグローバル企業として、スクレッチングは良き市民となり、社会に有益な影響をもたらすことを目指しています。そのために欠かせないのが、従業員が暖かく迎えられていると感じ、安心して働くことのできる職場、そして自らが選んだキャリアを伸ばすことのできる職場環境です。

今日の世界的な課題に対処するために、これまで以上に重要なのは、あらゆる角度から問題に取り組むことができるよう、多様な考え方、背景、視点を持った人材の確保です。私たちはそれを強く認識すると同時に、従業員が求めているのは、「自分はスクレッチングの一員として大切にされている」と感じられるような職場だと認識しています。

スクレッチングは、性別、文化、民族、国籍、考え方など、多様性に富む集団として活動し、またこうした多様性に富む集団と協力して業務を行っています。

私たちはこのことが従業員の多様性に反映させ、全従業員が尊敬され、業務に専念し、自己啓発や専門的能力の開発の機会を得られるよう、努めています。

近年では、職場の女性従業員のエンパワメントを推進するプログラム「Taking the Stage (テイキングザステージ)」など、私たちの多様性と包括 (D&I) を前面に押し出す重要な取り組みをいくつか導入しています。その中で、関連する D&I パラメータの状況を把握し、地域ごとに事業全体で不足し得る部分を特定する取り組みも進めています。その第 1 段階として、当社におけるジェンダーの実態を重点的に調査してきました。今後は国籍や考え方についても把握するための調査を実施していきます。

その調査結果をもとに、各地域のニーズと規則に合致した新たな行動計画を策定し、各地域の事業所がそれぞれのプログラムを遂行し、地域のニーズについての認識を深めることができるようにします。

私たちは、従業員が積極的に関わることで、前向きで生産的な職場環境が創出され、それが業績の向上につながると考えています。そのため、従業員のエンゲージメントを定期的に評価し、改善すべき点があれば対処していきます。人事部 (HR) がこれを主導します。こうした取り組みは、サステナブルな企業として社会的責任を果たしていく上での、中核的価値観を表すものです。

HR の主導によるこうした取り組みを、さらに拡大し、可能な限り広く普及させていきます。親会社であるニュートレコと協力して、多様な人材を確保し維持するための行動を開発し、継続的に実行していくとともに、意識を高め、より多様なリーダーシップチームの形成を促していきます。

「ロードマップ 2025 を通して、スクレッチングは非常に具体的な活動と目標を新たに定め、極めて重要な 5 年間の旅を始めています。近年において当社は大きな進歩を遂げましたが、4 年後に世界が目にするスクレッチングは、その人材、文化、考え方、発想において、現在よりもはるかに包括的で多様性に富む企業となっていることが期待されます。それはどれも私たちの組織、従業員、そして私たちが活動する地域社会に有益なことです。」

Solveig Holter、スクレッチング HR ディレクター



ロードマップ 2025 には D&I に関する主要なコミットメントが含まれています。



従業員の 3 分の 1 が女性

2025 年までに上級管理職の 30% を女性に



この移行を円滑に進めるため「Taking the Stage (テイキングザステージ)」プログラムを広範に実施

「SHV 傘下企業全体の女性の同僚と共に『Taking the Stage』プログラムに参加し、専門家から学び、自分の能力をさらに伸ばしていく機会を得ました。私はスクレッチングで働く中で、自分に自信を持ち、自分の信念を共有する力がついたと思います。同僚は私の話に耳を傾けてくれます。組織の中で自分の意見を取り入れられたとき、実際に本当の影響を与えることができます。これはとても力強いことです。」

Sophie Noonan、スクレッチング、グローバルコミュニケーション マネジャー





未曾有のこの年に、地域社会へのコミットメントをさらに強める

2020年のコロナ禍の状況下であっても、スクレッチングの各国のチームは、地域社会への支援活動を精力的に取り組みました。スクレッチングエクアドルのチームは、直接の顧客のサポートに加え、2020年度に1万世帯以上新型コロナ感染拡大の影響のみならず、エクアドルが直面している経済不況の打撃を被った家族を支援しました。スクレッチングエクアドルチームは、感染拡大防止のため、グアヤス州政府および他の民間企業と協力して、市場と病院と人口の最も多い地域に消毒施設を設置しました。

これに加えて、ドウラン産業会議所、ドウラン市、ディアコニアフードバンク（大司教区）、サプライチェーンに関わる食品会社 Tiendas Industriales Asociadas (TIA SA) などの団体と連携して、さらなる寄付を行いました。この寄付金は当社の事業所に近いドウランの貧困地域に届けられました。また、ドウラン消防団への感謝と支援の思いを込めて、7日間分の食料を届けました。

スクレッチングスペインは、多くの人々に数カ月分の食糧が行き渡るように、ブルゴスフードバンクに生鮮食料品の寄付を複数回行いました。これにはスクレッチングスペインの従業員からの個人的な寄付も含まれていました。

また、新型コロナが流行し始めた頃、FAE ブルゴス（ブルゴス商業組合連合）が主導するイニシアティブに参加し、ブルゴス大学病院医療スタッフのために個人用保護具（PPE）を購入し、保健当局がブルゴス大学病院の施設を使って地域のスクリーニング検査を実施できるようにしました。

イタリアでは、姉妹会社のトラウニュートリションと協力して、イタリア国民にとって最も困難な時期に、ピラフランカにある新型コロナ専用病院のためにCATスキャナーを購入しました。

スクレッチングは製造拠点を置く地域社会への支援を重視しています。

スクレッチングノースアメリカのチームは、地域社会で最も弱い立場にある人々にとって、地元のフードバンクは必要不可欠な支援システムだと認識し、2020年には重要性がさらに顕著になったことから、スクレッチングノースアメリカの従業員は率先して資金を集めました。その資金に会社から同額を追加し、バンクーバー、セントアンドリュース、トゥールのフードバンクに寄付しました。

スクレッチングは製造拠点を置く地域社会への支援を重視しています。私たちが先導し、取り組む数多くのイニシアティブと同様に、地域社会の支援も私たちのコミットメントの表れです。





エジプトにおける女性と若者の雇用訓練

スクレッシングでは、まだキャリアの浅い人材をサポートし、組織の中で活躍できる様々な機会を与えることの重要性を認識しています。新進気鋭の人材を発掘し育成する戦略の一環として、当社が事業を展開する全ての地域とコミュニティで能力を試す機会、および各自のキャリア形成を導く枠組みを提供することを約束します。

2020年、スクレッシング エジプトは、親会社であるSHVからLapwingアワードを授与されました。これはエジプトの女性と若者のための重要な職業訓練・雇用プログラムが評価されたものです。このプログラムでは、Sawiris Foundation for Social Development およびオランダ大使館と共同で、品質分析と実験調査、生産工程、購買、サステナビリティ、スクレッシングにおける価値観を学ぶなど行っています。またその中で、女性の権利推進にも重点的に取り組んでいます。

Lapwingアワードは、SHVグループ全体で行われており、素晴らしい活動を表彰し、そうした活動を促すために、SHVが導入した賞です。



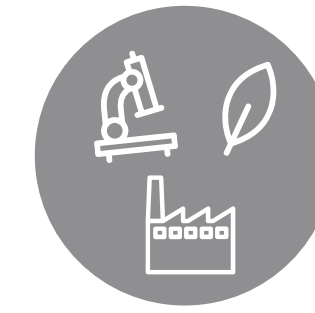
受賞

職業訓練&雇用プログラム



支援

女性と若者



分野

実験調査分析
生産工程
サステナビリティ
購買





ビジネスパートナーに対する行動規範

2020年、スクレッシングは新たに「ビジネスパートナーのための行動規範 (CoC BP)」を策定しました。農水産物のサプライヤーに対しては別途の補足項目を設けています。

これにより、ニュートレコとスクレッシングは、サステナビリティ、コンプライアンス、誠実さに関する問題にビジネスパートナーと共に取り組むことができます。当社はこの行動規範に定める基準を遵守している企業や個人とのみ取引を行います。ビジネスパートナーがこの規範に従わない場合、ニュートレコは取引関係を終了させるといった是正措置を取ることができます。CoC BPは当社の事業活動に関係する複数の主要言語に翻訳されています。

このCoCBPは、私たちのビジネスパートナーの活動が、「責任ある持続可能な方法で世界に食糧を供給する」というニュートレコとスクレッシングの目標に沿ったものであることを保証する、重要な文書です。この規範の下、全てのビジネスパートナーに私たちの期待を認識してもらい、それに沿って取り組むよう積極的に促していきます。またCoCBPを主要な契約に盛り込み、その内容を定期的に伝えていきます。その中で、ビジネスパートナーに対するニュートレコ行動規範の補足事項を含めた最新版を提供し、私たちがサプライヤーに期待していることを繰り返し伝えていきます。





ナイジェリアのナマズ養殖業者との連携による地域開発を続ける

2015年より、スクレッシングと親会社のニュートレコが掲げる「共通の価値観の創造」というコンセプトの下、当社はナイジェリアのイバダン地域で持続可能な水産養殖による雇用機会の創出を目指すプロジェクトを運営しています。

地元の NGO と連携して進めている、この「キャットフィッシュ サステナビリティ プロジェクト (CSP)」には、数百人の養殖業者が参加し、養殖事業の成功事例を共有するとともに、持続可能な方法による養殖に不可欠な技能を学ぶ訓練を受けています。ニュートレコとスクレッシング ナイジェリアがこのプロジェクトに出資し、イバダン地域の司法開発平和委員会 (Justice, Development and Peace Commission [JDPC]) が支援を行っています。

「キャットフィッシュ サステナビリティ プロジェクト (CSP)」には、数百人の養殖業者が参加し、養殖事業の成功事例を共有するとともに、持続可能な方法による養殖に不可欠な技能を学ぶ訓練を受けています。

参加する養殖業者数を前年度末の 467 名から 700 名に増やすことを目標に、2020 年 1 月より CSP の第 4 段階が開始されました。年末までに 175 名が新たに加わり、参加者数は合計 642 名となりました (35 のナマズ養殖業団体：男性 519 名、女性 123 名)。うち 264 名が 2020 年 1 ~ 12 月に継続的に提供された飼料援助を受け、247,275 ㎏の飼料を使用しました。

頻繁に行われる能力開発プログラムを通じて、プロジェクトに参加した養殖業者の売上と収入が明らかに上昇しています。コロナ禍の影響を受けたにもかかわらず、既存グループの 47.96%、新規グループの 22.8%の養殖業者が、ナマズの養殖と販売による収益を増大させました。

持続可能な水産養殖システムを促進するという目的の下、マネジメントの成功事例を共有するため、ナマズ養殖業者の研修を頻繁に実施し、その取り組みを持続的モニタリングと技術相談サービスにより支援しました。これらの養殖業者のうち約 69%が、養殖業の革新的な成功事例を取り入れています。また魚の平均生存率も 93.5%まで向上するなど、様々な成果が得られたことで、参加している生産者の 1 人当たり平均収入が、2020 年には 548,641 ナイラ (約 1,100 ユーロ) に達しました。

2021 年は、プロジェクトに参加する生産者の数をさらに増やし、850 人とすることを目標に据えています。これと同時に、既存グループおよび新規グループの養殖業者が、常に養殖管理の成功事例に沿って事業を進められるよう支援するプログラム、研修、能力開発を今後さらに導入していきます。CSP チームでは、ナマズ養殖業者に飼料を提供し、視察研修を通じて既存グループや機関と連携できるよう支援しています。



既存グループの
ナマズ養殖業者の
48%

生産量と取引額が35%上昇

35%

新規グループの
ナマズ養殖業者の
23%



このプロジェクトの詳細についてはこちらをご覧ください。
ニュートレコ サステナビリティ リポート 2020



健康と安全

2020年、ニュートレコに続きスクレッチングでも、部門全体で安全衛生の継続的改善を目指す取り組みを強化しました。2020年2月には、SHVによる「ヘルス セイフティ エンバイロメント (HSE)」ワークショップが開催され、SHVグループ傘下の全社が参加しました。その中で、HSE 関連の目標、ターゲット、KPIについて協議し、全体で合意しました。このようにSHVグループ全体でKPI報告を行うのは、ニュートレコとスクレッチングにとって変化を意味します。これまではニュートレコが休業災害(LTI)とHSE 監査成績を評価していましたが、KPI報告システムが更新され、遅延指標から先行指標へと変更になり、組織としての課題と事故管理に重点が置かれることになりました。同時に、従業員の安全確保に不可欠な是正措置の大幅な滞りにも対処していくこととなります。こうしたKPIの状況は毎月の経営検討会議で精査されます。

また、成功事例を見出し部門全体で広く共有していくため、スクレッチングのグローバルHSEネットワークが形成されました。2020年には、安全面をさらに強化していく上で、成功事例の共有は非常に重要であることが認識されました。成功事例を共有することで、何かを行うのに最適な方法を知り、得られた知識と経験を広く伝えていくことができます。

スクレッチングは、ニュートレコの「救命ルール」を部門全体で展開し続けました。この取り組みはeラーニングを基盤とし、特に重症&死亡(SIF)および潜在的SIF(PSIF)に焦点を当てています。この救命ルールの不履行はPSIFとみなされます。

社内全体に配布される「事故の教訓(LFI)」には、事故の詳細と原因、同様の業務を行う他施設におけるリスク対応策などが記載されています。また、スクレッチング セーフティ チャンピオンが主要なテーマに関連した活動を行うことになり、部門全体で約30の活動が行われました。

グローバルチームは、安全指導體制と救命ルールに関するウェビナーを開催しました。本部長、生産部長、HSE エンジニアの参加を得て、安全衛生に関するウェビナーを実施した地域チームもあります。

子どもたちに、「ママ、パパ、おばあちゃん、おじいちゃんが安全に働いている姿はどんなだろう?」というテーマで作品を募ったアートコンテストに参加することで、この取り組みに加わりました。

先行指標		ターゲット	2020	2019
タイトル	指標			
年間安全対応完成度評価	問題が起きてから対応 - 互いに依存し合っている	NA*	NA*	NA
年間訓練完成度評価	訓練済み&十分な能力 (%)	2025年までに能力100% 達成	NA*	NA
延滞/保留是正措置: 事故	措置延滞数/措置保留数	0/0	0/0	204/431
延滞/保留是正措置: 監査	措置延滞数/措置保留数	0/0	112/141	204/431
遅延指標				
重症&死亡(SIF)	SIF件数	NA**	0	NA
潜在的な重症&死亡(PSIF)	PSIF件数	NA**	29	NA
記録可能事例頻度合計(TRCF)	TRCF	NA**	1.17	NA

* プロジェクトが完了していないため、KPI 評価がまだ終わっていない

** 遅延指標の目標値なし

養魚とエビの生産に用いられる飼料原料

魚やエビも人間と同じように特定の栄養素を必要とします。また必要とされる栄養素は種や成長段階によって異なります。養魚飼料には植物・海産・陸上動物由来の様々な原料が含まれています。これらの原料はタンパク質・アミノ酸・エネルギー・脂肪酸・ビタミン・ミネラルなどを豊富に含むため、飼料から魚やエビは必要とするあらゆる栄養を摂ることができます。スクレッチングでは、農作物、漁業、食品加工の副産物から主な飼料原料を調達しています。

スクレッチングが現在世界中で使用している飼料原料には、副産物が多く使用されています。副産物とは食品加工過程で生じる成分であり、飼料業界で使用されなければ廃棄されるものです。例としては、魚や陸上動物の加工から生じる副産物や、ビール酵母などの原料が挙げられます。

水産養殖は、農作物・森林・魚・動物・微生物などの陸上や海の再生可能な生物資源を利用して食料を生産する、「バイオ経済」の一翼を担うものです。

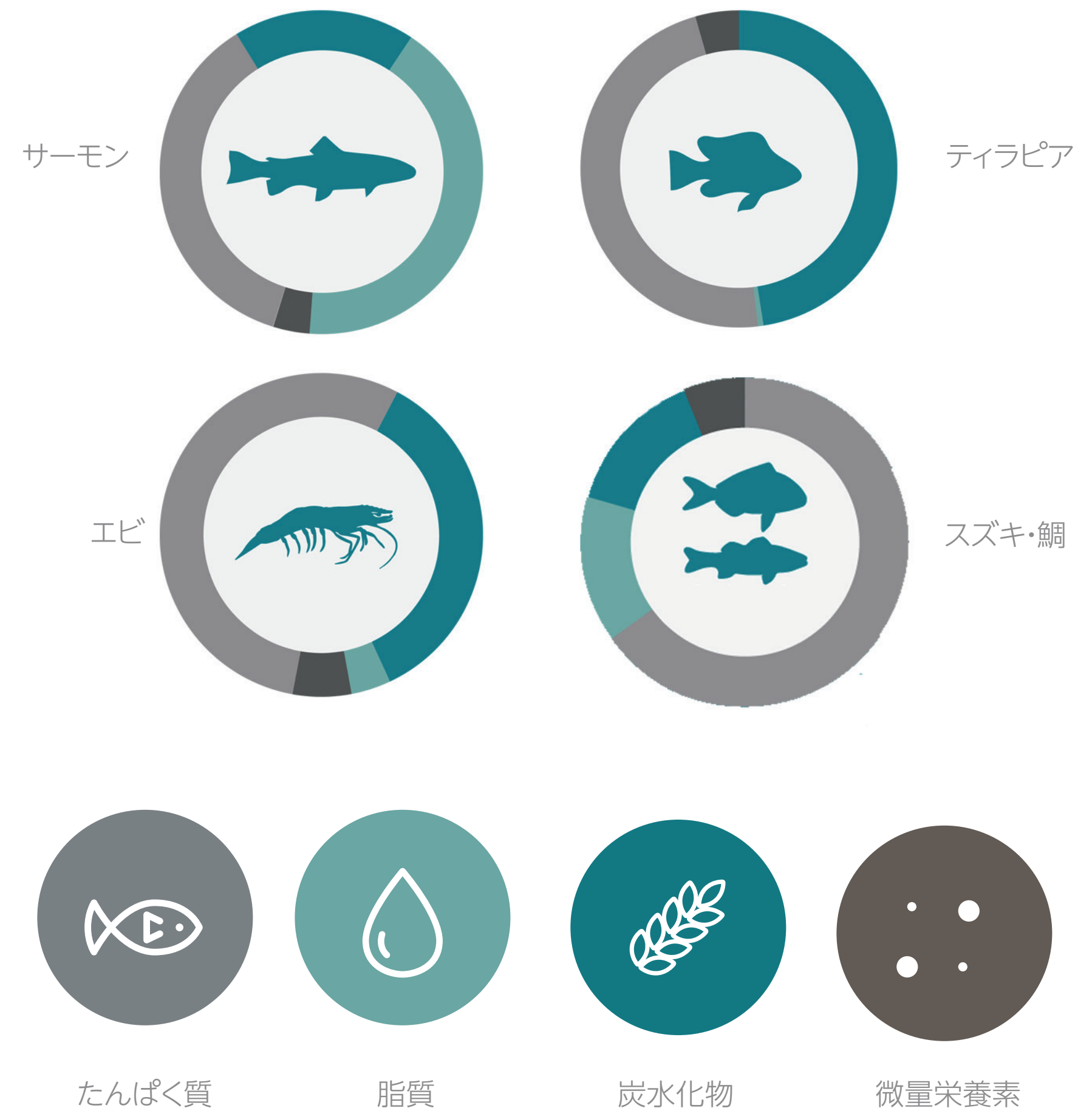
スクレッチングは、各種産業副産物の利用に関連した様々なプロジェクトに携わっています。例えば、SYLFEEDと呼ばれる国際的かつ学際的な4年間の研究プロジェクトがあり、これは、木材残渣をタンパク質に富む飼料原料に変換し、大規模生産する技術の開発を目指すものです。

私たちは、より革新的で炭素排出量の少ない養魚飼料とするための原料を積極的に探し続けています。炭素排出量の削減には、原料生産に使われる土地面積を縮小する、温室効果ガスを減らす、従来食品用とされていなかった原料を活用する、といった取り組みが有効です。

サーモン、エビ、ティラピアの飼料原料の大部分が農作物です。またサーモンやエビの飼料生産には海産原料も重要です。栄養についての理解を深めることで、元になる原料の種類に制約されることもなくなります。

私たちは、より革新的で炭素排出量の少ない養魚飼料とするための原料を積極的に探し続けています。

魚やエビの飼料に含まれる栄養素は？



スクレッチング飼料中の
様々な栄養素の含有量

本表は、スクレッチング飼料に含まれる成分の概
要と平均配合率を示すものです。

	主な原料	成分群	代表例	飼料中の平均配合率				スクレッチング 飼料平均値
				サーモン	スズキ・鯛	エビ ²	ティラピア	
タンパク質	天然および養殖の魚類・ 甲殻類	海洋タンパク質	魚粉 甲殻類ミール	9.5	19.9	13.3	0.8	12.4
	陸上動物由来の副産物	陸上生動物由来 タンパク質 ¹	ポードリーオイル	13.4	16.7	5.8	5.4	11.2
	農作物	植物性タンパク質	小麦グルテン コーングルテン 大豆粕 濃縮大豆タンパク 菜種粕 ひまわり粕 ルーピン そら豆	34.3	32.7	38.7	44.5	35.8
脂質	天然および養殖された魚類・ 甲殻類	魚油	魚油	9.8	10.0	3.2	0.3	7.5
	農作物	植物油	菜種油 大豆油 椿油	19.3	3.5	2.4	0.3	10.4
	陸上生動物由来の副産物	陸上動物由来の油 ¹	ポードリーオイル	1.4	0.3	0.1	-	0.9
炭水化物	農作物	でんぷん原料	小麦	10.1	15.1	30.4	44.6	18.3
微量栄養素	微量栄養素	ビタミン・ ミネラル・色素	ビタミン プレミックス ミネラル プレミックス 色素	2.2	1.8	6.2	4.2	3.3

1 陸上動物由来副産物の利用は、市場で受け入れられる度合いや法規制に左右されます
2 でんぷん原料の濃度は、EP飼料やDP飼料では異なります

大豆原料の供給源

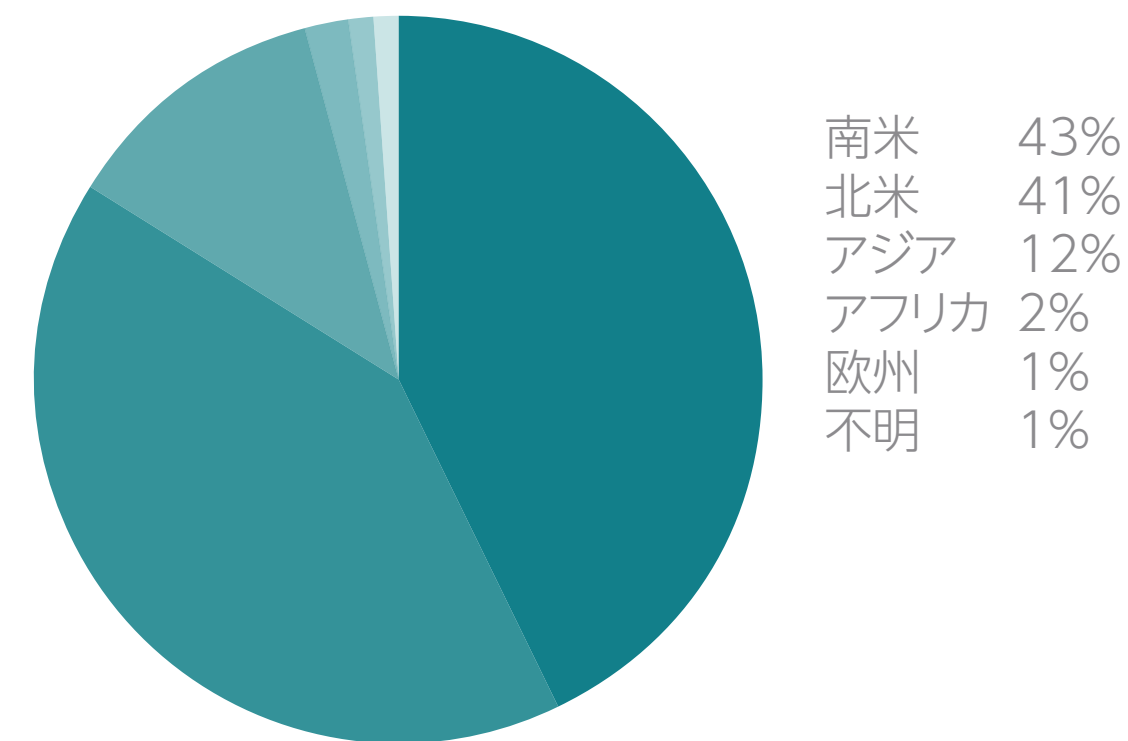
【新たな原料調達方針】の章で述べたように、2020年に大豆とパームオイル調達方針を立ち上げたことは、この業界のサステナビリティを達成する上で大きな課題となっている森林破壊に対処するための重要なマイルストーンとなりました。その一環として、原料の原産国まで遡って調査する取り組みを強化しました。これは、当社が現在行っている調達先メーカーの原産国トレーサビリティシステムに追加されるもので、それにより、当社の飼料原料調達の際に直面する課題を、より詳細に把握することが可能になります。

2020年にスクレッチングが調達した大豆原料の84%が北米と南米からの大豆であることが確認されており、残りはアジア、ヨーロッパ、アフリカからのものです。当社が全世界から調達している大豆の1%について、まだ原産国の完全なトレーサビリティを確保できていません。

2021年はシステムの改善やサプライヤーとの連携をさらに進め、トレーサビリティ100%達成を目指します。前回の報告と比較して特筆すべきことは、2020年に調達した大豆原料の79%が森林伐採のない地域からのもので、これは栽培国またはProTerraなどの第三者認証制度に基づき証明されています。この値は2019年の33%から大きく向上しました。

クラス	%	サステナビリティの根拠
A	79	スクレッチングは森林伐採ゼロの土地から大豆&パーム原料を調達している
B	10	スクレッチングは森林伐採ゼロの土地での大豆原料生産をサポートしている
C	0	FEFAC大豆調達ガイドラインを満たしている 例:大豆原料は違法な森林伐採が行われていない等
D	10	大豆原料は原産国まで追跡可能である
未分類	1	

スクレッチングは次の地域から大豆原料を調達しています:



前回の報告と比較して特筆すべきこととして、2020年に調達した大豆原料の79%が森林伐採のない地域からのものです。これは栽培国またはProTerraなどの第三者認証制度に基づき証明されています。



海産由来原料の供給源

海で捕獲され、魚粉や魚油に加工される天然魚は、多くの養殖用飼料の代表的な原料とされています。一般的に、魚粉・魚油の加工業では小規模遠洋漁業が利用されており、実際にスクレッチングが調達する魚粉や魚油のほとんどが、そうした漁業に由来します。しかし一部の地域では、これらの漁業資源は人間が直接消費するのにも重要とされています。スクレッチングは持続可能な供給源からの海洋飼料原料の確保に努めています。この目的のため、業界のインセンティブを統一し、適切な漁業管理につながるプロセスを支えています。

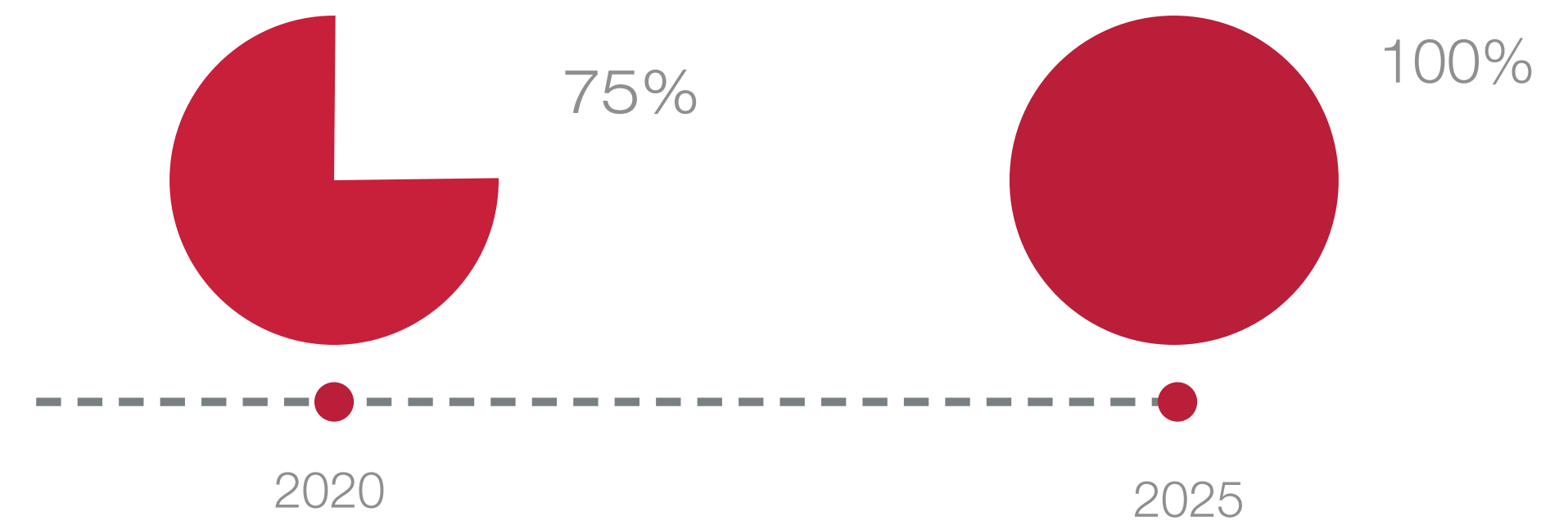
スクレッチングは持続可能な供給源からの海洋飼料原料の確保に努めています。

スクレッチングは、[国連食糧農業機関 \(FAO\) の責任ある漁業のための行動規範](#) に則って管理している漁場からのみ、魚粉と魚油を調達することを目指しています。

つまり、私たちのサプライヤーは、魚粉や魚油がマリントラスト規格（海洋管理協議会の認証を含む）に準拠しているとして認証されてことを証明するか、またはマリントラスト認証を取得するための改善プロジェクトに参加していなければなりません。

2020年にスクレッチングが購入した、ホールフィッシュを原料とする魚粉および魚油の75%が、マリントラストまたは海洋管理協議会（MSC）のプログラムに準拠しているとして認証された漁場、またはマリントラスト改善プログラム（FIP）に参加している漁場由来のものでした。スクレッチングのサステナビリティロードマップでは、2025年までに、魚粉と魚油の100%を、マリントラスト認証を受けた漁場、またはマリントラスト改善プログラムに参加している漁場から購入することを目指しています。

ホールフィッシュ由来の魚粉と魚油の割合 - 認証済み漁場



原魚	認証なし	マリントラスト FIP	マリントラスト	MSC	認証済み / マリントラストFIPに参加
ホールフィッシュ%	16	1	43	30	75
加工残渣%	27	8	44	8	60
合計%	21	4	43	21	69

1) 海産原料の原魚と認証に関するデータは、スクレッチングの世界の購買データに基づいています。このデータの10%において情報不備により認証状況が確認されていません。ザンビア、ナイジェリア、ホンジュラスの各国、および中国の一部地域のデータは含まれていません。





海産原料の供給源

多くの場合、養殖用飼料には天然魚を加工した魚粉や魚油が含まれています。これは「リダクションフィッシュアリー」と呼ばれ、すべての漁獲物が工場に運ばれ、魚粉や魚油に加工されます。

この目的で捕獲される小型遠海魚は、一般的に飼料用魚種として知られており、マイワシ、カタクチイワシ、ニシンのように海洋生態系の中で低位栄養レベル(LTL)を占める小型で短命な種であることがほとんどです。これらの魚種は、その個体群の生物学的特性と力学的特性から、漁獲量が適切に管理されていれば、漁獲圧力に強いことが多いのですが、管理が不適切だと乱獲を招きかねません。

一部の地域では、これらの魚は人間の食用としても重要です。スクレッチングは、サステナビリティプログラムを通じて、短期的にも長期的にもサステナブルな供給源から海洋飼料原料を確保するよう努めています。私たちは業界のインセンティブを積極的に統一し、適切な漁業管理につながるプロセスを支援していきます。

天然魚の活用に加え、食用水産物の加工処理から出る副産物も活用しています。加工後に発生する加工残渣は、魚粉や魚油の原料として貴重なものであり、魚粉の約3分の1は食用魚から生じた副産物で作られていると推定されます。このため、人間の栄養と直接競合しない飼料原料の使用が可能になっています。これはまた循環型経済の発展を支えるものです。



スクレッチングは業界のインセンティブを積極的に統一し、適切な漁業管理につながるプロセスを支援していきます。

2020年にスクレッチングが購入した、ホールフィッシュ由来の魚粉と魚油の原料とされた魚種

魚種	魚粉%	魚油%
カタクチイワシ類	19	17
イワシ類	16	18
ブルーホワイティング	14	-
イカナゴ	11	7
アトランティックサーモン(養殖)	-	7
スプラット	9	6
メンハーデン	5	5
ノルウェーパウト	4	2
ニシン	4	6
マアジ	3	5
サバ	2	3
ペルーカタクチイワシ	1	13
太平洋カタクチイワシ	-	3
ゴマサバ	1	-
ヨーロッパナマズ	1	-
その他*	9	9
合計	100	100

* 「その他」に分類した魚種は特定されていますが、多種多様な種が含まれるため、まとめて「その他」としています。

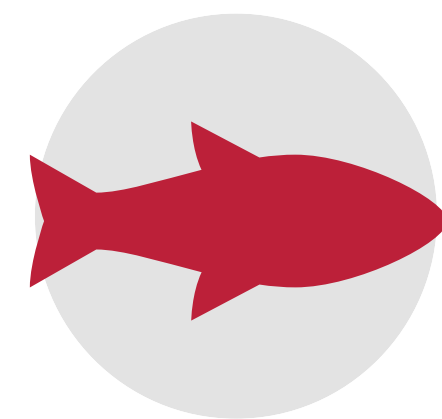
2020年にスクレッチングが購入した、加工残渣由来の魚粉と魚油の原料とされた魚種

2020年にスクレッチングが扱った魚粉と魚油の40%は、魚の加工残渣や加工副産物に由来するものでした（2019年は27%）。その大部分は天然魚由来の副産物でしたが、サーモン、ティラピア、エビといった養殖魚介種に由来する副産物が使われる機会も増えています。

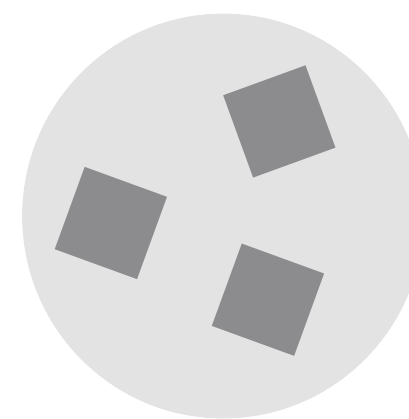
副産物は水産海産物を扱う企業や小売業者、養殖業者、漁船の船上加工などから収集されます。スクレッチングが目指すのは、加工残渣に由来する全ての魚粉と魚油を、その源である漁業と魚種まで追跡できるようにすることです。絶滅の恐れのあるIUCNのレッドリストに含まれている魚種を使用することは許されません。

2020年、スクレッチングの飼料に使用された魚粉と魚油のうち、加工残渣由来の原料のほとんどが、一般的に食用とされているマグロやその他の魚種（サバ、ブリなど）の加工から生じたものでした。また、ニシンやカタクチイワシなどの小型遠洋魚の加工に由来するものもあります。サーモンなどの養殖魚の加工残渣も、魚粉や魚油の重要な原料となっています。

海洋原料の由来



60%
ホールフィッシュ



40%
加工残渣

魚種	魚粉%	魚油%
アトランティックサーモン(養殖)	-	26
ブリ	19	-
カツオ	18	2
マグロ類	9	9
キハダ	8	2
マサバ	7	3
イワシ	6	4
ニシン	5	13
ヒラソウダ	5	2
サバ	4	6
カタクチイワシ類	-	4
タラ	-	3
メンヘーデン	-	2
マアジ	1	4
アラウカニアンニシン	1	1
ムロアジ	1	-
メルルーサ	1	-
マグロ加工残渣	1	-
パシフィックアンチョベータ	1	-
ペルー産アンチョビ	-	1
その他*	14	20
合計	100	100

* 「その他」に分類した魚種は特定されていますが、多種多様な種が含まれるため、まとめて「その他」としています。



本表は、当社が魚粉と魚油を購入している主な漁場を示しています。これらの漁場から購入した魚粉と魚油の正確な割合は国によって異なり、時と共に変化することがあります。日本語での魚種名が存在しない魚種については、その魚種が属する科名を表記しています。



下記の情報は、持続的漁業パートナーシップの報告書『還元漁業—SFP漁業の持続可能性 2020年概観』からの引用です。

系群・魚種 ¹	FIP情報 ³			認証				MBAqシーフードウォッチ (評価年) ⁷
	FIP名	FIP開始年	FIP進歩評価	マリントラスト	MSC ⁴	MSC認証初取得年	MSC漁業者 ⁵	
南極オキアミ - 大西洋南洋	-	-	-	-	認証、保留 ⁸	2010年6月	3	良い代替品(2017年)
タラ科の一種 - 北東大西洋	-	-	-	はい	認証	2016年6月	4	-
ニシン科の一種 - メキシコ	-	-	-	はい	審査完了	-	1	良い代替品(2015年)
ニシン科の一種 - バルト海	-	-	-	はい	認証、審査完了、取り下げ	2017年5月	3	-
ニシン科の一種 - 北海・スカゲラク海峡・カテガット海峡	-	-	-	はい	認証、取り下げ	2017年3月	3	-
イカナゴ科の一種 - 北海中東部	-	-	-	はい	認証	2017年3月	2	-
タラ科の一種 - 北海	-	-	-	はい	認証	2017年3月	2	-
ヨーロッパマイワシ - 北西アフリカ中央部	Morocco sardine - pelagic trawl and seine	2014	A	はい ²	-	-	-	-
ニシン科の一種 - チリ中南部	-	-	-	はい	-	-	-	-
アジ科の一種 - 南東太平洋	-	-	-	はい	認証、審査完了	2019年4月	2	-
タイセイヨウニシン - 北西大西洋	-	-	-	はい	認証	2019年9月	1	良い代替品(2015年)
カタクチイワシ - ペルー中北部	Peruvian anchovy - industrial purse-seine	2017	A	はい	-	-	-	-
カタクチイワシ - ペルー中北部	Peruvian anchovy - small scale purse-seine	2017	A	- ⁶	-	-	-	-
カタクチイワシ - ペルー南部 / チリ北部 (地域XV-I-II)	-	-	-	はい	-	-	-	-
カタクチイワシ - チリ中南部 (地域 V-X)	-	-	-	はい	-	-	-	-

持続的漁業パートナーシップ報告書の詳細についてはこちらをご確認ください。

<https://www.sustainablefish.org/News/SFP-2020-reduction-fisheries-report-Slippage-in-production-volumes-from-reasonably-well-managed-fisheries-urgent-need-for-improvements-in-key-regions>



注釈 (1) 本リストは、活動中の漁業改善プロジェクト (FIP) または検討されている認証・格付けプログラムに関連する還元漁業部門の漁業従事母体を対象としています。(2) マリントラストが「副産物」漁業として認定した漁業 (詳細については、マリントラストのウェブサイトを参照)。(3) 現在活動中の FIP の詳細については、FishSource の改善プロジェクトセクション、または Fishery Progress の各 FIP 公開レポート (FishChoice 2019) を参照。(4) MSC のステータス。Cert = 認証、FA = 審査完了、Sus = 保留、Wdrn = 取り下げ。(5) MSC プログラムに参加している漁業従事母体のうち、魚種と重複する漁業従事母体の数を指します (出典:SFP 2019; MSC 2019)。(6) ペルーでは、アンチョペータの漁師による漁業は人間の直接消費のためにのみ行うことになっているため、IFFO と本概要の範囲外です。(7) モンテレー湾水族館シーフードウォッチのカテゴリ (MBAq 2019)。Best Ch. = 最良の選択、Good Alt. = 良い代替品、Av = 避けるべき。評価年とは、それぞれの漁業従事母体に対して最新のシーフードウォッチ評価が実施された年を指します。(8) リムフロスト南極オキアミ MSC 漁業は 2017 年 6 月から認証が停止されています。(9) この漁業では改善活動が行われていますが、正式な FIP の要件を満たしているかどうかはまだ評価されていません。(9) 既存の FIP も近年近マリントラストの改善プログラムに受け入れられました。



系群・魚種 ¹	FIP情報 ³			認証				MBAqシーフードウォッチ (評価年) ⁷
	FIP名	FIP開始年	FIP進歩評価	マリントラスト	MSC ⁴	MSC認証 初取得年	MSC 漁業者 ⁵	
シシャモ - バレンツ海	-	-	-	はい	-	-	-	-
ヨーロッパマイワシ - 北西アフリカ南部 (モロッコ)	Morocco sardine - pelagic trawl and seine	2014	A	はい ²	-	-	-	-
イカナゴ科の一種 - ドッガーバンク	-	-	-	はい	認証	2017年3月	2	-
シシャモ - アイスランド	-	-	-	はい	認証	2017年4月	1	-
ニシン科の一種 - ゴア	Indian oil sardine	2018	C	-	-	-	-	-
マサバ - エクアドル	Ecuador small pelagics	-	-	はい ^{2,9}	-	-	-	-
ヒラソーダ - エクアドル	Ecuador small pelagics	-	-	- ⁹	-	-	-	-
ニシン科の一種 - マハーラーシュトラ州	Indian oil sardine	2018	評価なし	-	-	-	-	-
カワビシヤ科の一種 - 北東大西洋	-	-	-	はい	-	-	-	-
パシフィックアンチョベータ - 太平洋のパナマ	Panama small pelagics	2011	A	-	-	-	-	-
カリフォルニアマイワシ - カリフォルニア湾	-	-	-	はい	認証	2011年7月	1	-
ニシン科の一種 - パナマ	Panama small pelagics	2011	A	- ⁹	-	-	-	-
ニシン科の一種 - カリフォルニア湾	-	-	-	はい	認証、取り下げ	2011年7月	3	-



注釈 (1) 本リストは、活動中の漁業改善プロジェクト (FIP) または検討されている認証・格付けプログラムに関連する還元漁業部門の漁業従事母体を対象としています。(2) マリントラストが「副産物」漁業として認定した漁業 (詳細については、マリントラストのウェブサイトを参照)。(3) 現在活動中の FIP の詳細については、FishSource の改善プロジェクトセクション、または Fishery Progress の各 FIP 公開レポート (FishChoice 2019) を参照。(4) MSC のステータス。Cert = 認証、FA = 審査完了、Sus = 保留、Wdrn = 取り下げ。(5) MSC プログラムに参加している漁業従事母体のうち、魚種と重複する漁業従事母体の数を指します (出典:SFP 2019; MSC 2019)。(6) ペルーでは、アンチョベータの漁師による漁業は人間の直接消費のためにのみ行うことになっているため、IFFO と本概要の範囲外です。(7) モンテレー湾水族館シーフードウォッチのカテゴリ (MBAq 2019)。Best Ch. = 最良の選択、Good Alt. = 良い代替品、Av = 避けるべき。評価年とは、それぞれの漁業従事母体に対して最新のシーフードウォッチ評価が実施された年を指します。(8) リムフrost南極オキアミ MSC 漁業は 2017 年 6 月から認証が停止されています。(9) この漁業では改善活動が行われていますが、正式な FIP の要件を満たしているかどうかはまだ評価されていません。(9) 既存の FIP も近年近マリントラストの改善プログラムに受け入れられました。



系群・魚種 ¹	FIP情報 ³			認証				MBAqシーフードウォッチ(評価年) ⁷
	FIP名	FIP開始年	FIP進歩評価	マリントラスト	MSC ⁴	MSC認証初取得年	MSC漁業者 ⁵	
ニシン科の一種- メキシコ	-	-	-	はい	認証	2016年10月	1	-
ニシン科の一種 -カリフォルニア湾	-	-	-	はい	認証	2016年10月	1	-
ニシン科の一種 - 太平洋側メキシコ	-	-	-	はい	認証	2016年10月	1	-
イカナゴ科の一種 - 北海中南部	-	-	-	はい	認証	2017年3月	1	-
ニシン科の一種 - 太平洋 バハ カリフォルニア州	-	-	-	はい	-	-	-	-
ニシン科の一種 - 北西アフリカ	Mauritania small pelagics - purse seine	2017	C	- ⁹	-	-	-	-
ニシン科の一種 北西アフリカ	Mauritania small pelagics - purse seine	2017	C	- ⁹	-	-	-	-
ニシン科の一種- 北西アフリカ	Mauritania small pelagics - purse seine	2017	C	- ⁹	-	-	-	-
ヨーロッパアンチョビ ⁶ - 南アフリカ/南東大西洋	-	-	-	はい	-	-	-	-
ニシン科の一種 - チリ(地域X)	-	-	-	はい	-	-	-	-
カタクチイワシ - チリ中南部(地域IIIとIV)	-	-	-	はい	-	-	-	-
ニシン科の一種 - 南アフリカ/大西洋南西部	-	-	-	はい	-	-	-	-

注釈 (1) 本リストは、活動中の漁業改善プロジェクト (FIP) または検討されている認証・格付けプログラムに関連する還元漁業部門の漁業従事母体を対象としています。(2) マリントラストが「副産物」漁業として認定した漁業 (詳細については、マリントラストのウェブサイトを参照)。(3) 現在活動中の FIP の詳細については、FishSource の改善プロジェクトセクション、または Fishery Progress の各 FIP 公開レポート (FishChoice 2019) を参照。(4) MSC のステータス。Cert = 認証、FA = 審査完了、Sus = 保留、Wdrn = 取り下げ。(5) MSC プログラムに参加している漁業従事母体のうち、魚種と重複する漁業従事母体の数を指します (出典:SFP 2019; MSC 2019)。(6) ペルーでは、アンチョペータの漁師による漁業は人間の直接消費のためにのみ行うことになっているため、IFFO と本概要の範囲外です。(7) モンテレー湾水族館シーフードウォッチのカテゴリー (MBAq 2019)。Best Ch. = 最良の選択、Good Alt. = 良い代替品、Av = 避けるべき。評価年とは、それぞれの漁業従事母体に対して最新のシーフードウォッチ評価が実施された年を指します。(8) リムフロスト南極オキアミ MSC 漁業は 2017 年 6 月から認証が停止されています。(9) この漁業では改善活動が行われていますが、正式な FIP の要件を満たしているかどうかはまだ評価されていません。(9) 既存の FIP も近年近マリントラストの改善プログラムに受け入れられました。

飼料原料としての天然魚の使用

天然魚を原料とする魚粉と魚油は共に限りある資源ですが、食用から養殖、養豚、養鶏に至るまで、様々な用途における需要が増大しています。スクレッチングは、これらの資源の効率的な利用を推進しており、同量の魚粉と魚油から生産される養殖サーモンの生産量を増大させています。

私たちは定期的に「飼料1kgの生産に使用される天然魚の量（原料消費量の加重平均値）」のデータを確認しています。天然魚の使用量は一般的に天然魚依存率（FFDR）として表され、これは天然魚に由来する魚粉と魚油の使用量から算出されます。スクレッチング水産養殖研究センター（ARC）の30年近くに渡る研究開発により、育成期においては、海産原料を一切使わずに、サーモンを育成することが可能になりました。

スクレッチングのサステナビリティプログラムは、海洋資源の効率的な利用を促進するとともに、海産原料の含有率を低下させることを目指しています。

世界の水産物供給に海産原料がどの程度使用されているかを完全に理解するには、養殖業で用いられている海産原料の効率性を評価する必要があります。魚の給餌量に対する魚の生産量を表すFish in : Fish out (FIFO) 比率は、異論はあるものの、水産養殖が天然魚種資源に有害な影響を与えないことを保証するために用いられる、重要な指標となっています。

但し、FIFO 比率の算出方法は複数提唱されており、そのことが批判を招いています。様々な算出方法が用いられているために、海産原料への水産養殖の依存度が、過大評価または過小評価されている、と非難されているのです。

スクレッチングでは、海産原料を代替飼料原料に置き換えることを進めており、それによってほとんどの養殖魚種の水産飼料に用いる魚粉と魚油の使用量が大幅に減少し、結果として FIFO 比率は下がり続けています。スクレッチングのサステナビリティプログラム

は、海洋資源の効率的な利用を促進するとともに、海産原料の含有率を低下させることを目指しています。

FIFO は、養殖魚の生産に使用される魚粉と魚油の量を、天然魚当量に換算して表すもので、これ

に対し天然魚依存率（FFDR）は、天然魚に由来する魚粉と魚油の使用量から算出されます。

スクレッチングは FIFO と FFDR の違いを認識しており、状況に応じてステークホルダーごとに使い分けています。とはいえ、魚粉と魚油の供給量に限りがある以上、養殖飼料の生産量がさらに増大すれば、当然ながら飼料に含まれる海洋資源の量をさらに減らすことが必要になります。



「これは水産飼料に用いられるどの原料にも当てはまることですが、魚飼料の原料は、サステナブルな供給源から確保する必要があります。それをメディアや消費者に伝えていくのは非常に重要なことです。これらの原料については、海洋由来の原料に適用されるのと同様の精査が必要です。また、水産養殖部門における FIFO 低減の必要性も強調していく必要があります。」

Trygve Berg Lea、スクレッチング、サステナビリティ マネージャー

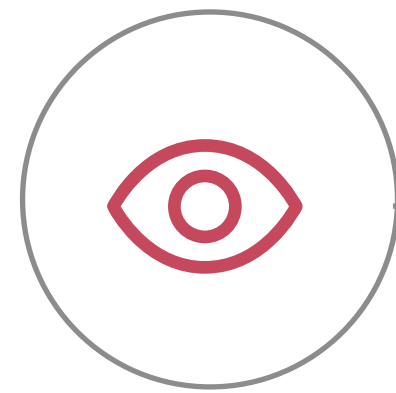
スクレッチングについて

スクレッチングは、水産養殖産業に革新的で持続可能な栄養ソリューションを提供するグローバルリーダーです。スクレッチングは 18 か国に製造施設を有し、60 を超える魚種の孵化から出荷サイズまでに必要な、高品質の飼料を製造し提供しています。本社はノルウェーのスタバンガーにあります。

スクレッチングは、オランダ アムスフォートに本社を置くニュートレコの水産養殖部門です。ニュートレコを所有するのは、世界最大級の商社の一つであるオランダの非上場企業 SHV ホールディングスです。SHV は交通、小売、石油、食品、金融など極めて多様な部門を扱う多角経営の総合商社で、現在世界 58 か国に約 60,000 名の従業員を有しています。



SHV
Supported by SHV Values
Integrity | Loyalty



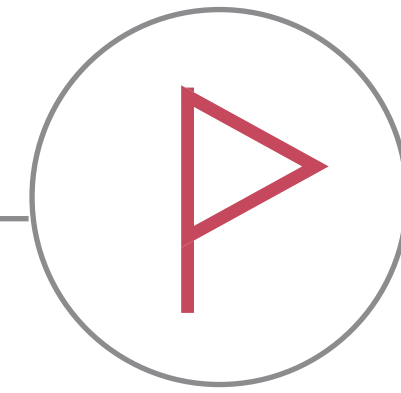
私たちの行動を促すビジョン

スクレッチングは、顧客、サプライヤー、パートナーと連携して、増加する世界の人口に、持続可能な方法で、より健全かつ安全な水産物を確実に届けるためのイノベーションを起こしていきます。



私たちが指針とする価値観

スクレッチングが指針としているのは、オープンで、誰もが自らの行動に十分配慮し、お互いを心から思いやり、職場環境に深い関心を持つグローバル文化です。私たちのパーパスである Feeding the Future を達成するため、「革新」、「思いやり」、「協働」、「実践力」という、明確に定義付けた 4 つの中核的価値観に忠実に従っていきます。私たちの価値観は SHV の最も重要な価値観である誠実さと忠実さによって支えられています。



私たちのパーパス : Feeding the Future

私たちのパーパスである Feeding the Future は、2050 年までに 95 億人に達すると予測される世界人口に食糧を供給するというチャレンジに基づいています。

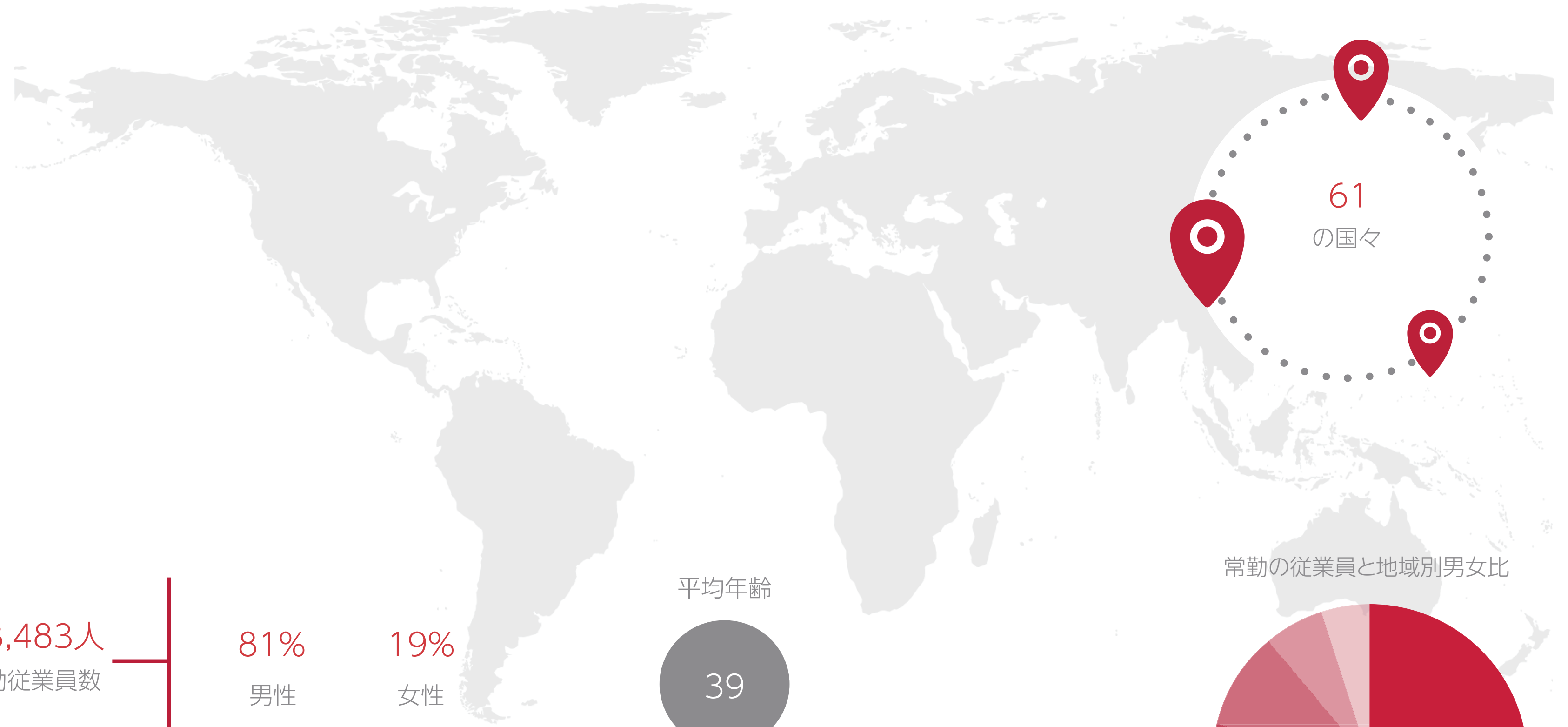
世界人口の急増、都市化の進行、中流階級の増加、そして食生活の変化により、特に新興市場ではタンパク質の需要が増大しています。スクレッチングは、持続可能な方法で、高まる食料ニーズに応じる取り組みに寄与していきます。この目標に向け、自社製品の効率性と栄養価を高め、社内および当社顧客の生産活動を推進し、スクレッチングのバリューチェーンの環境負荷を低減するための革新的な方法を、今後も模索し続けていきます。サステナビリティは理想ではなく私たちが取り組んでいることです。

OUR PURPOSE

*Feeding
the Future*

2020年、スクレッチングは230万トンの水産飼料を製造しました。もっとも売上が高かったのは南北アメリカとヨーロッパです。2020年のスクレッチング部門の売上高は25億ユーロでした。

スクレッチングには3,483人の常勤従業員がおり、その内の81%が男性で19%が女性です。従業員数は2019年より18名減っています。スクレッチングは61の国から従業員を雇用し平均年齢は39歳となっています。



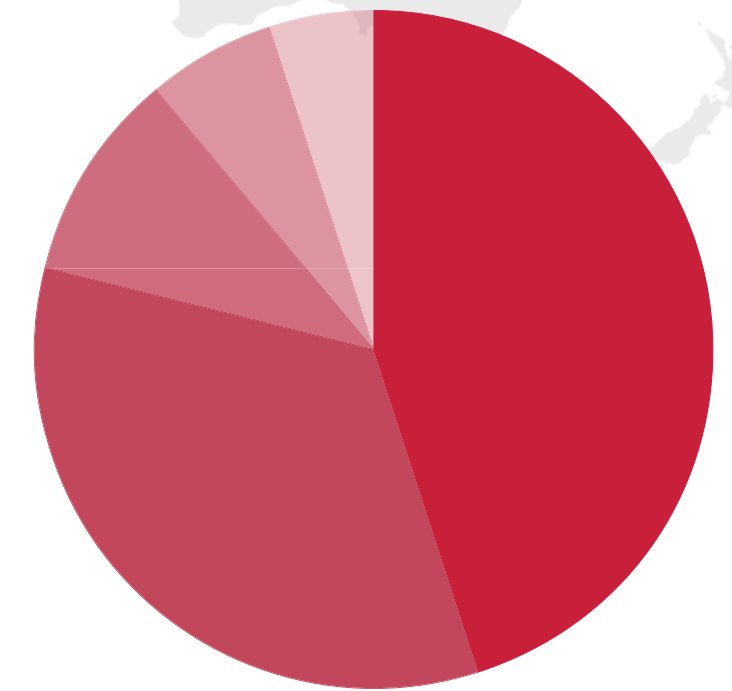
3,483人
常勤従業員数

81%
男性

19%
女性

平均年齢
39

常勤の従業員と地域別男女比



45% 南北アメリカ
34% ヨーロッパ
10% アジア
6% アフリカ
5% オセアニア

地域	女性	男性	女性 %	男性 %	常勤従業員総数
アフリカ	54	707	12	88	462
南北アメリカ	163	1,071	12	87	1,234
アジア	156	707	18	82	863
ヨーロッパ	256	576	31	69	832
オセアニア	17	75	18	82	92
合計	607	2,837	19	81	3,483

飼料から食糧までのプロセスにおけるスクレットティングの役割



製造拠点



1 スクレッチング HQ
 本社: スクレッチング グループ
 本社: スクレッチング水産養殖研究センター(ARC)

1 スクレッチング ノルウェー
 工場: ストックマルケス、アベロイ、スタバンガー
 製造飼料: アトランティックサーモン、シートラウト、タラ、オヒョウ、ナマズ、ペラ

2 スクレッチング フランス
 工場: ヴェルヴァン、サンテルヴェ
 製造飼料: 淡水トラウト、スズキ、ヘダイ、ターボット、サケ、ナマズ、ティラピア、チョウザメ、ウナギ、コイ、エビ

3 スクレッチング イタリア
 工場: モツツェカーネ
 製造飼料: 淡水トラウト、スズキ、ヘダイ、チョウザメ、ウナギ、ナマズ、コイ

4 スクレッチング チリ
 工場: オソルノ、パルグア
 製造飼料: アトランティックサーモン、ギンザケ、淡水トラウト、シートラウト、ティラピア、エビ、ヒラマサ

5 スクレッチング スペイン
 工場: コホバル
 製造飼料: 淡水トラウト、スズキ、ヘダイ、ターボット、シタビラメ、コルビナ、ウナギ、コイ、ナマズ、カンパチ、チョウザメ

6 スクレッチング カナダ
 工場: バンクーバー、セント アンドリュース
 製造飼料: アトランティックサーモン、アルプスイワナ、ギンザケ、ギンダラ、チョウザメ、オヒョウ、ティラピア

7 スクレッチング ジャパン
 工場: 伊万里
 製造飼料: ブリ、マダイ、マグロ、カンパチ、シマアジ、スズキ、淡水トラウト、シートラウト

8 スクレッチング オーストラリア
 工場: ホバート
 製造飼料: アトランティックサーモン、マスノスケ、バラマンディ、ヒラマサ、アワビ、淡水トラウト、シートラウト

9 スクレッチング エジプト
 工場: ビルベイス
 製造飼料: ティラピア、ナマズ、ボラ、コイ、スズキ

10 スクレッチング USA
 工場: ソルトレークシティ
 製造飼料: バラマンディ、イワナ、ナマズ、サンシャインバス、コイ、オオクチバス、アトランティックサーモン、チョウザメ、スチールヘッド、ティラピア、マス

11 スクレッチング トルコ
 工場: ギュリュク
 製造飼料: 淡水トラウト、コイ、スズキ、ヘダイ

12 スクレッチング ベトナム
 工場: ホー チ ミン、ロンアンプロビン
 製造飼料: ブラックタイガーエビ、バナメイエビ、オニテナガエビ、レッドティラピア、ライギョ、キノボリウオ、パンガシウス、チョウザメ、アジアシールバス、ハタ、スギ、クラウンナイフフィッシュ、スネークスキングラミー、コバンアジ

13 スクレッチング チャイナ
 工場: 珠海
 製造飼料: バナメイエビ、ブラックタイガーエビ、マス、スズキ、ライギョ、コガネマルコバン、ナマズ、チョウザメ

14 スクレッチング ナイジェリア
 工場: イバダン
 製造飼料: アフリカナマズ、ティラピア

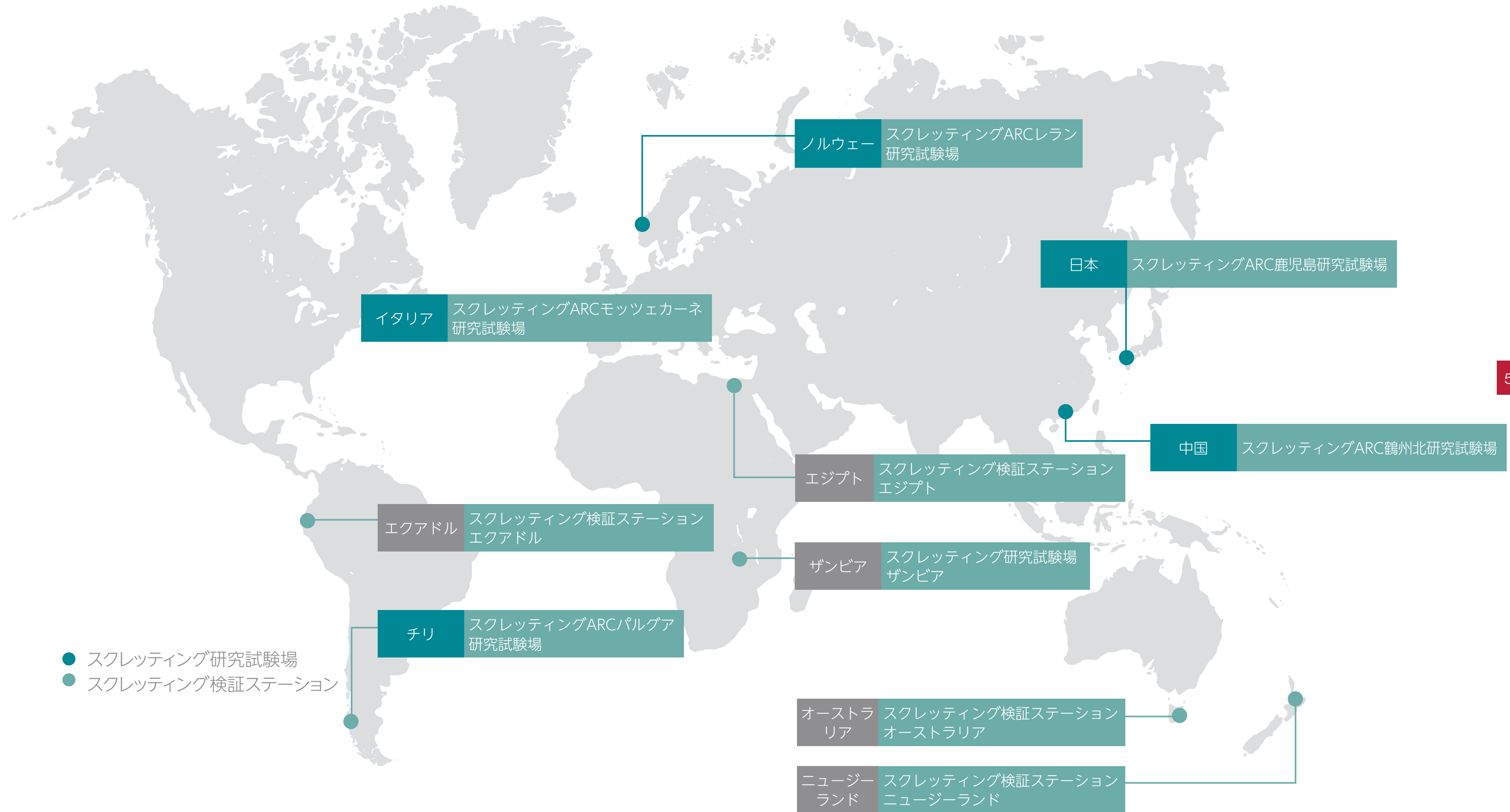
15 スクレッチング エクアドル
 工場: グアヤキル(3箇所)
 製造飼料: エビ、ティラピア、マス

16 スクレッチング ザンビア
 工場: シアボンガ
 製造飼料: ティラピア

17 スクレッチング ホンジュラス
 工場: サン フランシスコ デ ヨホア
 製造飼料: エビ、ティラピア

18 スクレッチング インド
 工場: 建設中
 製造飼料: バナメイエビ、スズキ、ティラピア

研究試験場と検証ステーション



認証

2020年、当社の各事業所は独立の第三者機関、顧客、現地当局との密接な連携を継続し、内部基準、規則、認証のコンプライアンスを確保し、水産養殖のための質の高い栄養ソリューションの配合と製造に一貫して取り組んでいます。

スクレッチングの各事業所は数々のISO標準の認証を受けており、スクレッチングが一貫した品質システムを有し、それを改善し続けています。当社はまた顧客が市場に参入する上で重要とされる民間の認証も取得しています。右記は各事業所における認証とコンプライアンスの一覧です。



ニュートレースは、原料から飼料までの品質と安全を会社全体で管理するスクレッチング独自のプログラムです。すべての社内オペレーションは監査を受け、すべてのサプライヤーは総合的な評価と承認プロセスを経て高い品質、再生可能で責任ある調達を行っていることを確認します。私たちは承認された原料のすべてについて、受け入れ時、配合プロセス全体、飼料配送時に至るまで、ロバスト解析を実施しています。

	ISO 9001	ISO 14001	ISO 22000	HACCP	グローバルGAP	BAP	ASC準拠	オーガニック	その他
ARC									ISO 17025
オーストラリア									FeedSafe
カナダ									
チリ									OHSAS 18001
中国									
エクアドル									GMP Punto Verde
ホンジュラス									GMP
エジプト									ISO 45001
フランス									RCNA, FQC Label Rouge
イタリア									
日本									
ナイジェリア									
ノルウェー									Global G.A.P NON-GM
スペイン									ISO 45001 ハラール, CIPA
トルコ									ハラール
USA									
ベトナム									
ザンビア									

準拠 (= 認証されていないが、要件を満たしている)

主要なステークホルダー

ステークホルダーとの関与は重要な起点と考えています。当社のサステナビリティに関する報告上必要であるというだけではありません。ビジネス戦略とつながる手段でもあり、かつ主要なステークホルダーの正当なニーズと懸念に対応しているかを示す手段でもあります。ステークホルダーとの関与は、スクレッチングでのサステナビリティを加速させる重要な部分です。

範囲	ステークホルダー	説明 & 根拠
個人	顧客	顧客は食糧生産システムのサステナビリティについてしばしば重要なインプットをします。フードチェーンにおける行動変化の重要な推進力となります。またサステナビリティ問題になると、小売りや私たちの顧客に非常に大きな影響を与える存在となります。
	従業員	スクレッチングにとって従業員は重要な存在です。多くのプログラムを通じて、従業員一人一人が成長する機会が得られるようにし、安全で健全な職場環境の確保に努めています。定期的なビジネス状況のアップデートを行い、社内イントラネットの「ニュートラネット」から出来事の共有や情報を提供しています。
社会	地域コミュニティ	地域のコミュニティをサポートすることは、スクレッチングの長期的な繁栄につながるでしょう。私たちの方針と取り組みは経済的な価値を生み出し、地元のニーズとチャレンジに応じていくことで社会に対しても価値を生み出すことにつながります。
経済	SHV	SHVはニュートレコとスクレッチングのオーナーです。サステナビリティ分野に大きな熱意を注ぎ、傘下企業にサステナビリティ活動の明確な要求を出しています。
バリューチェーン	小売り	多くの場合、小売業者は消費者の要求と希望を伝えます。彼らは私たちに様々な影響を及ぼします。私たちの顧客に要求を課し、しばしば広範囲に及ぶサステナビリティ活動の証拠、例えば認証や民間基準や監査などを求めます。
	生産者	私たちの顧客は、主に人が食物として摂取する養殖魚種を生産している企業です。私たちはサービスチームや顧客向けイベントの開催を通じて技術支援を行っています。その情報を当社のウェブサイトや顧客向け雑誌に掲載しています。スクレッチングはまた顧客の関与を促すためグローバルフォーラムや会議を主催し、現場視察なども実施しています。
	サプライヤー	当社の調達部門は原料サプライヤーと日々活発に連絡を取り合っています。サプライチェーン上の新たな機会や改善点を把握するため、潜在的サプライヤーを含めたサプライヤーと戦略的に関わりワークショップを行っています。またアクアビジョン会議への参加をサプライヤーに呼びかけています。
環境	政府機関	政府は新しい環境規制の改正や制定に積極的に動いています。私たちは主要な業界機関との関係を通して政府と連携しています。当社の従業員も、水産飼料関連法規、食の安全に関する問題について行政機関に助言を行っています。
	NGOs	非政府組織は、環境や社会におけるサステナブルな問題に注力しています。私たちはNGOsから学び彼らと協力すると同時に私たちの活動への批判も受けています。このサステナビリティにおける私たちの取り組みの捉え方に影響を与えているものです。
技術	研究機関	サステナビリティにおいて多くの研究機関と協力をしています。長年に渡り、海産由来原料への依存軽減に取り組んできました。最近では温室効果ガス排出や森林伐採の削減に向けて力を注いでいます。研究機関はこの分野における新たな知見や方法を開発し私たちの事業に活用することができます。

グローバルステークホルダープラットフォーム

マリントラスト MarinTrust

マリントラストは、以前は責任ある供給のためのグローバルスタンダード (IFFO RS) として知られていましたが、海産原料の製造に関する独立の企業間認証プログラムです。スクレッチングはマリントラスト理事会のメンバーです。この基準の主な目的は次のとおりです。

- 使用するホールフィッシュが、国連食糧農業機関 (FAO) の責任ある漁業のための行動規範に準じて管理されている漁場由来であることを保証する。
- 違法・無報告・無規制 (IUU) 漁業由来の原料が使用されていないことを保証する。
- 認定された品質管理システムの下で安全な純製品が製造されていることを保証し、潜在的に危険な違法原料が一切使われていないことを実証する。
- 製造とサプライチェーン全体の完全なトレーサビリティを保証する。



持続的漁業パートナーシップ Sustainable Fisheries Partnership (SFP)

スクレッチングは持続的漁業パートナーシップ (SFP) のスポンサーです。この非営利機関は、業界と海洋保全団体との間のギャップをなくし、民間部門の力を活用して、管理の行き届かない漁場を主要市場の環境要件を満たす漁場とする取り組みを支援します。これは次の二つの原則に沿って組織化されています。すなわち主要なバイヤーその他の漁業ステークホルダーが漁業に関する最新情報を入手できるようにすること、そしてこの情報を用いてサプライチェーンの全てのステークホルダーが漁業の振興に携わり、サステナビリティを推進していくことです。

SFPはこの「情報」と「改善」という2つの主要な原則を通して機能しています。



グローバル サーモン イニシアティブ Global Salmon Initiative (GSI)

スクレッチングがサーモン養殖の発展をサポートする上で重要な方法として、グローバル サーモン イニシアティブ (GSI) のメンバーとして貢献することがあります。協働作業において、GSI サーモン生産者と飼料会社は、養殖サーモン産業の持続可能性の基準をますます高めるための進歩を進め、飼料分野のイノベーションを加速するよう、お互いの利害を超えたところで共に取り組んでいます。

スクレッチングは GSI の準会員であることを誇りに思います。この組織は、サーモン養殖業界の継続的発展と繁栄に対する共通の関心を持ち、また業界の持続可能性の改善も共通の責任と考えています。

準会員は特定のプロジェクトにおいて GSI 会員と密接に協力し、知識を共有し助け合うことで、さらなる前進を加速させていきます。



プロテラ財団 The ProTerra Foundation

スクレッチングは、飼料と食品の生産システムのあるあらゆるレベルでサステナビリティを前進させ推進することを目的とした非営利機関プロテラ財団のメンバーです。サプライチェーン全体で完全な透明性とトレーサビリティの確保に対するコミットメント、企業の社会的責任に関する懸念、除草剤抵抗性作物や遺伝子組み換え作物が生態系に及ぼす潜在的な悪影響が全ての取り組みの中核となっています。

独立した第三者機関による認証がプロテラ財団の中核となる役割です。

プロテラ認証は、高品質の作物、食料、飼料の供給を独自に認証し、サステナブルに改善された方法で生産されていることを保証するものです。



国連グローバル コンパクト
UN Global Compact (UNGC)

ニュートレコは国連グローバル コンパクトに参加しています。国連グローバル コンパクトは法的拘束力のない国連の条約で、世界中のビジネスがサステナブルで社会的に責任ある方針を採択しその取り組みを報告していくことを推奨するものです。

国連グローバル コンパクトはビジネスにおける理念をベースにした枠組みで、人権、労働、環境、腐敗防止における10の原則を提唱するものです。国連グローバル コンパクトの元で、参加企業は国連機関、労働団体、民間団体が集まりました。ニュートレコは2015年より参加メンバーとなっています。

海洋管理のための水産事業
SeaBOS

2019年よりスクレッチングは海洋管理のための水産事業 (SeaBOS) イニシアティブの主要メンバーとして貢献しています。世界最大の水産企業 10 社の代表が根本的な変化をもたらすために集結しました。

次の5つの分野において活動を行っています。
(1) 違法、無報告、無規制 (IUU) 漁業および現代の奴隷労働 (2) 透明性とトレーサビリティ (3) 規制改善 (4) ガバナンス (5) イノベーション

責任ある大豆に関する円卓会議
Round Table on Responsible Soy (RTRS)

ニュートレコは、世界規模での責任ある大豆の製造・加工・取引を促進する民間機関である RTRS のメンバーです。

RTRS では、社会的・環境的影響を軽減しながら、グローバル基準の策定、導入、検証を通して生産者の経済的地位を維持し高めていくため、現在も未来も責任ある方法で大豆が生産されるよう取り組んでいます。

持続可能なパーム油のための円卓会議
Roundtable on Sustainable Palm Oil (RSPO)

ニュートレコは持続可能なパーム油のための円卓会議 (RSPO) の設立当初からのメンバーであり、良好な関係を構築し続けています。私たちはマルチステークホルダー プラットフォームに全力で取り組んでおり、当社の購入する核油を除く全てのパーム油製品はグリーンパーム認証原料です。



森林に関するニューヨーク宣言
New York Declaration on Forests (NYDF)

スクレットティングが調印した森林に関するニューヨーク宣言 (NYDF) は、世界の森林破壊撲滅に向け行動する国際宣言です。この自発的な努力目標の宣言は、2014年9月の国連気候サミットで初めて承認されました。2017年10月までにその支持者は増え続け、現在では40か国の政府、20の地方自治体、57の多国籍企業、16の先住民族団体、58のNGOなど、191以上の機関・団体が参加しています。その各々が自らの立場でNYDFの10大目標の達成とそれに付随する行動指針の遵守に向けた取り組みを行っています。

水産養殖管理協議会
Aquaculture Stewardship Council (ASC)

2010年に導入された水産養殖管理協議会 (ASC) 認証は、養殖水産物部門の強力が信頼されている環境的・社会的基準認証です。現在は160万トンを超える養殖水産物がこの基準への準拠について独自の認証を受けています。ニュートレコのサステナビリティディレクターがこのASC監査委員会の委員を務めています。現在スクレットティングはASC飼料基準策定の作業を監督する運営委員会の一員です。

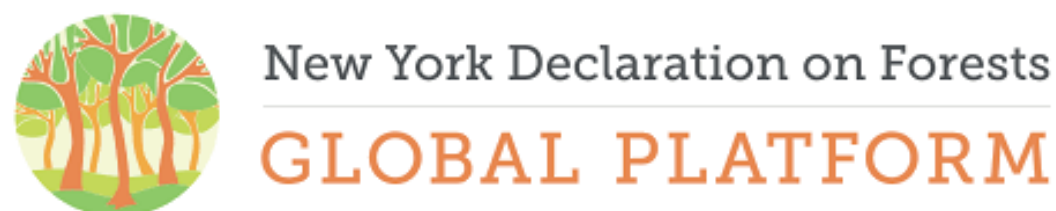
サステナブル シュリンプ パートナーシップ
Sustainable Shrimp Partnership (SSP)

スクレットティングはサステナブル シュリンプ パートナーシップ (SSP) の創設メンバーです。SSPは世界中の人々のためにエビ養殖をグリーンで安定した事業にするというミッションを共有する、リーディングカンパニーのグループです。この目標の達成に向け、主導者らは部門全体を次の段階に成長させるための、明確で熱意溢れる計画を定めています。ポストンシーフード万国博覧会におけるこの計画の立ち上げイベントでは、Therese Log Bergjord が基調講演を行い、またWWF、ハーバード大学伝染病研究所、エクアドル National Chamber of Aquaculture の代表者など業界の専門家も参加しました。

世界水産養殖同盟
Global Aquaculture Alliance (GAA)

スクレットティングは国際的非営利機関世界水産養殖同盟 (GAA) のメンバーです。GAAは教育、権利の擁護、実際の行動を通じて責任ある水産養殖の実践を振興しています。

20年以上の間、GAAは責任あるサステナブルな養殖によって世界中の人々に食糧を供給するという責任を果たしてきました。その手段として、水産養殖と水産食品に関わる世界中の企業や個人に資金を提供し、各国政府、地域社会および企業と連携し、同時にオンライン学習や世界各国に熱心な読者を有するジャーナリズムを通じて、より良い生産活動の実現に努めています。



GLOBALG.A.P.
GlobalGAP

GLOBALG.A.P. は、食の安全、持続可能な製造方法、労働者と動物の福祉、水、複合飼料および植物の繁殖原料を責任ある方法で使用するための基準を策定する機関で、スクレッチングはそのメンバーです。スクレッチングはまた GLOBALG.A.P. の水産養殖基準を監督する技術委員会のメンバーでもあります。

欧州配合飼料工業連盟
European Feed Manufacturers' Federation (FEFAC)

ニュートレコは欧州配合飼料工業連盟 (FEFAC) サステナビリティ委員会のメンバーです。

この委員会はベルギーのブリュッセルで年に数回会合を持ち、欧州飼料業界に関係するサステナビリティイニシアティブについて協議しています。その前向きな成果の1つとして、FEFAC大豆調達ガイドラインが完成しました。このガイドラインでは、飼料工場が大豆、大豆油粕、濃縮大豆タンパクを購入する際に適用できる最低条件を定めています。

セラード マニフェスト ステイトメント オブ サポートグループ
Cerrado Manifesto Statement of Support Group (SoS)

セラード マニフェスト ステイトメント オブ サポートグループ (SoS) は 2017 年に創設され、ニュートレコはその創立会員である 23 団体の 1 つです。SoS は世界最大のビジネス主導集団として機能しており、これを支援している地域および世界のステークホルダーに、セラード保護のために即時に行動を起こすよう呼びかけています。

現在は農工業、養殖、食品加工、金融、加工消費財、小売、食品サービス業に携わる企業、その他の支援団体を含め 132 の企業が SoS に参加しています。2019 - 2020 年度の重要課題は、ブラジルの Grupo de Trabalho do Cerrado (GTC) の支援のため、森林破壊と熱帯雨林から農地への転換を伴わない大豆生産を推進し、主要な中国企業およびステークホルダーと知識を共有し、行動計画を進めていくことです。

ノース アトランティック ペラジック アドボカシー グループ
The North Atlantic Pelagic Advocacy Group (NAPA)

ノース アトランティック ペラジック アドボカシー グループ (NAPA) は、北東大西洋遠洋漁業におけるサステナビリティ関連の複雑な問題に対して、全世界で共有することのできる非競合的な解決策を構築することを目指し、部門全体のマルチステークホルダー主導団体として設立されました。

NAPA は、EU 諸国と EU 以外の国々の小売業者、外食企業、サプライヤーの代表組織であり、環境安全ラベル表示付き水産物の需要が高まる中、認証を受けたサステナブルな水産物を調達するという共通目標を掲げています。この目標達成に向け、NAPA は科学的助言に沿った北東大西洋遠洋漁業の漁獲可能性に関する合意形成と、科学的根拠に基づく長期的な管理協定の締結に取り組んでいます。



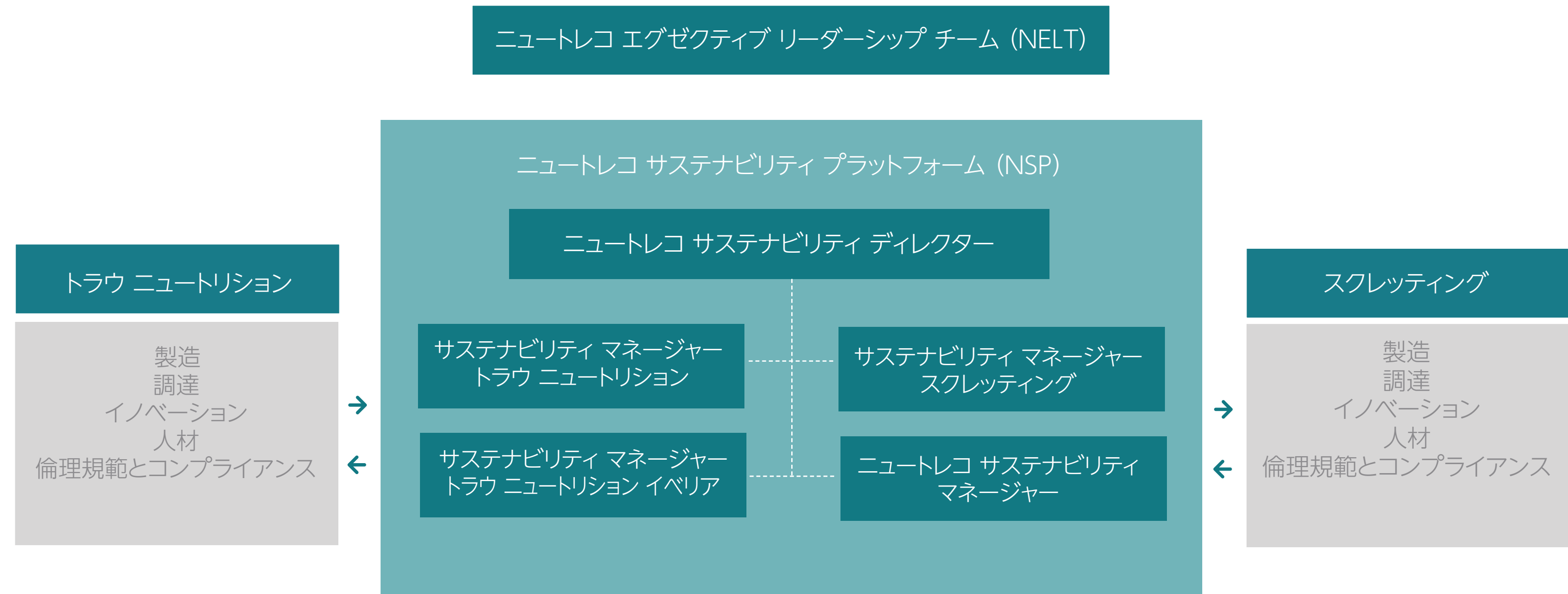
ガバナンス

スクレッシングの親会社であるニュートレコは、トラウ ニュートリション部門を通じて畜産動物栄養に携わり、スクレッシング部門を通じて水産飼料を供給するグローバルリーダーです。これらの部門に加えて、バリューチェーン全体の画期的な次世代イノベーションを見極め、開発し投資する部門としてニューフロンティアを置いています。

スクレッシングの最高経営責任者（CEO）は、ニュートレコCEOが率いるニュートレコ エグゼクティブ リーダーシップ チーム（NELT）のメンバーです。NELTは 2020年9月、ロードマップ 2025の遂行を支える、新たなサステナビリティ ガバナンスを承認しました。これに基づき、以下の取り組みを通じて、サステナビリティをより深くビジネスに組み込んでいきます。

- トップのコミットメント：ニュートレコのサステナビリティ ディレクターからCEOに直接報告します
- NELTが説明責任を負う：経営陣の賞与と長期特別賞与制度に、サステナビリティの目標を反映させます
- 戦略的リーダーシップ：ニュートレコが戦略について助言し、これを部門レベルで実行していきます
- ニュートレコ全体での調整：ロードマップ2025の様々なテーマに対して、部門間の協力により明確で整合性のある実行計画を策定します
- 変更管理：ニュートレコは主として「実務を担う人員」を通してロードマップ2025をサポートします

ニュートレコ コーポレート サステナビリティ ガバナンス



ニュートレコ サステナビリティ プラットフォーム (NSP) は各部門のサステナビリティ マネージャーで構成され、ニュートレコのサステナビリティ ディレクターがリーダーを務めます。

サステナビリティ マネージャーは、それぞれの部門内の部署（調達、マーケティング、人事、倫理規範とコンプライアンスなど）と連携し、スクレッシングとトラウ ニュートリションが世界各地に有する事業所とともにサステナビリティ目標を実行していきます。

これによりNSPは、サステナビリティ戦略の実行に関し事業者から直接フィードバックを受けることができます。

道徳規範とコンプライアンス

スクレッチングは2019年後半、過去3年間に採用した全ての倫理&コンプライアンス (E&C) 方針を網羅した新たな行動規範を導入しました (詳細については[「サステナビリティレポート 2019」](#)をご覧ください)。これに続き、2020年はこの新たな規範を事業運営に完全に組み込むことに焦点を当てました。

新型コロナウイルスの影響で、養殖に携わるすべての事業所 (OpCos) との物理的な接触が大幅に妨げられましたが、E&C チームは、事業運営に E&C 方針を反映させるためのイニシアティブを始動させました。そしてニュートレコのコンプライアンス・リスク管理フレームワーク (Nutreco Compliance Risk Management Framework) を、すべての OpCos に展開しました。この枠組みの下、E&C 方針と各国の内部統制を揃え、その結果を E&C チームに報告していきます。

これにより、統制の中で E&C 方針が日常的に実践されることになり、E&C チームはどこで支援を必要としているのかを確認することができます。このフレームワークの下で半年ごとに報告書が作成され、必要に応じて各国の行動計画が策定されます。

新型コロナウイルスの影響で、養殖に携わるすべての事業所 (OpCos) との物理的な接触が大幅に妨げられましたが、E&C チームは、事業運営に E&C 方針を反映させるためのイニシアティブを始動させました。

2020年には、多部門の協力を得て、新たに「ビジネスパートナーに対する行動規範」を策定し、導入しました。これは従来の「サプライヤー行動規範」に代わるもので、原料サプライヤーのみならず、より広範な第三者との関係にも適用していきます。この新たな規範の導入により、サステナビリティ、コンプライアンス、誠実さの問題にビジネスパートナーと共に取り組むことが可能になります。当社はこの行動規範に定める基準を遵守している企業や個人とのみ取引を行っていきます。

これと同時に、私たちは当社の要求事項に関する対話に積極的に応じていきます。スクレッチングでは、すべてのビジネスパートナーが規範の不順守に積極的に対処し、これを抑制していくことを期待しています。こうした取り組みは、世界人権宣言、ILO および OECD のガイドラインに

厳密に従い、サプライチェーンにおける労働者の権利保護に関する当社の姿勢をさらに強化するものです。上記ガイドラインに対応するための施策は、[ニュートレコのサステナビリティロードマップ 2025](#) にも記載されています。

その他の E&C の取り組みの例としては、利益相反開示ツールの開発、特定の OpCos に対する徹底した「ソフトコントロール」調査の実施、「Speak Up」内部告発ツールおよびその他の経路から報告された様々な「Speak Up」事例の処理などがあります。



重要課題

私たちはマテリアリティ（重要課題）アセスメントをニュートレコとともに行いました。アセスメントは、700のステークホルダーにアンケート調査の協力を募り、そのうち返信のあった293の回答に基づいています。（回答率42%）回答者のうち、35%は社内ステークホルダーで65%が社外のステークホルダーとなっており、そのうちの40%がニュートレコの顧客です。またNGO、学識者、サプライヤー、経営責任者も回答者となっています。ステークホルダーの内訳は右側の図のとおりです。

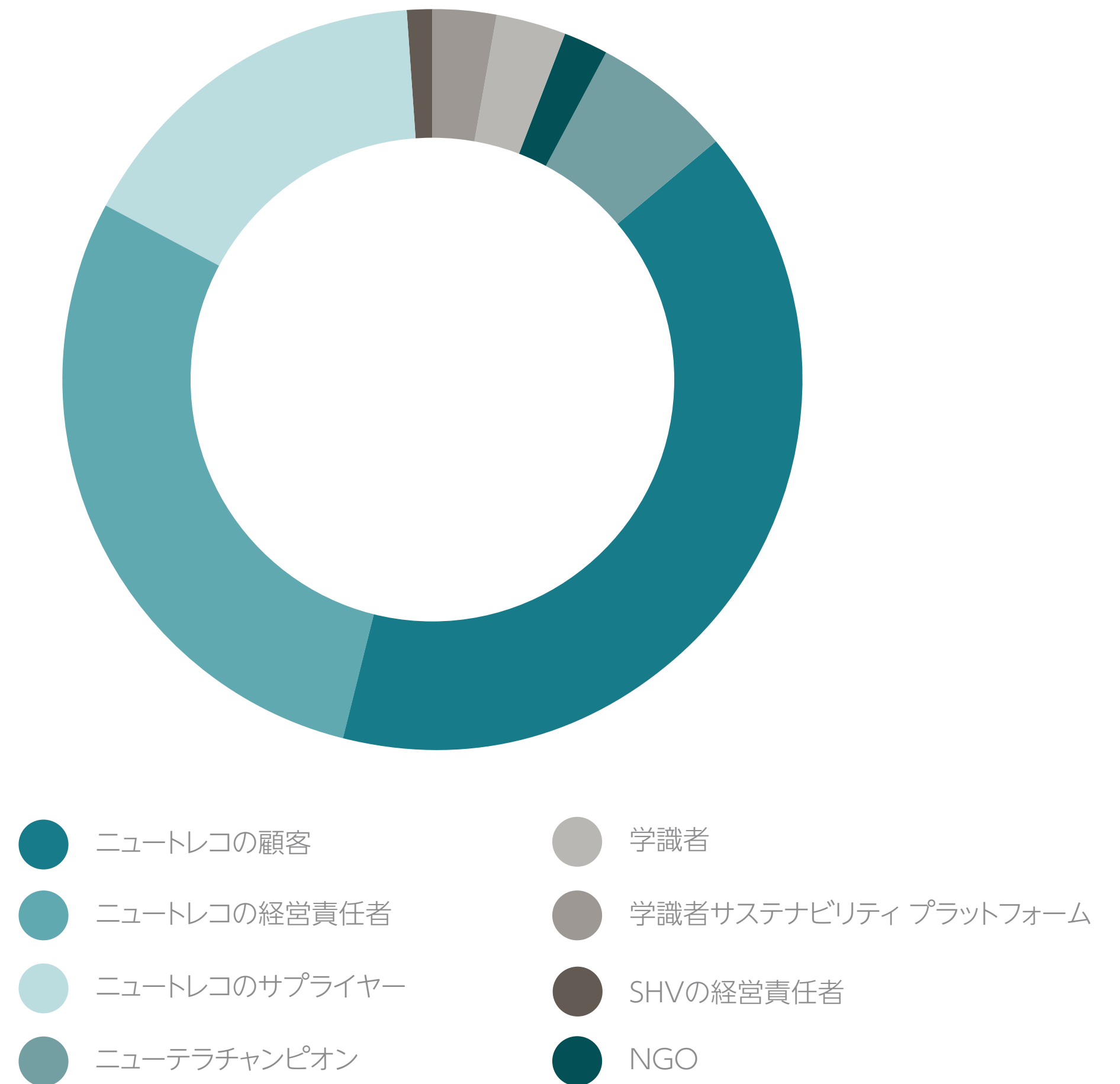
私たちのロードマップ2025は、このマテリアリティアセスメントに基づいて策定されます。このロードマップでは、ステークホルダーが、重要な問題であるとみなすもの、または私たちが食のバリューチェーンを担う立場として影響を及ぼしえる問題と考えられるものに取り組んでいきます。

このマテリアリティアセスメントは問題が重要か否か、社会のためか否かということは反映されていません。言い換えると、例えば水の利用、廃棄物の発生またはエネルギーといった重要度スコアの低いものが地球にとって重要ではないという意味ではなく、ステークホルダーにとって、スクレッチングやニュートレコが地球環境問題を軽減するゲームチェンジャーの役割を担えると考えていないということです。例えば、地球環境問題に多大な影響を及ぼすほどのエネルギーや水を使っていません。

気候変動が底辺のスコアとなった理由として、この問題の範囲について誤解があったためです。回答者はニュートレコがサプライヤー側の気候変動の影響に影響を及ぼす役割は考慮しておらず、ニュートレコにおける製造の比較的低い環境負荷のみを考えたことが要因です。にもかかわらず、ニュートレコでは、私たちの役割は優良な企業市民として重要度が低い問題についても責任をもって取り組んでいきます。

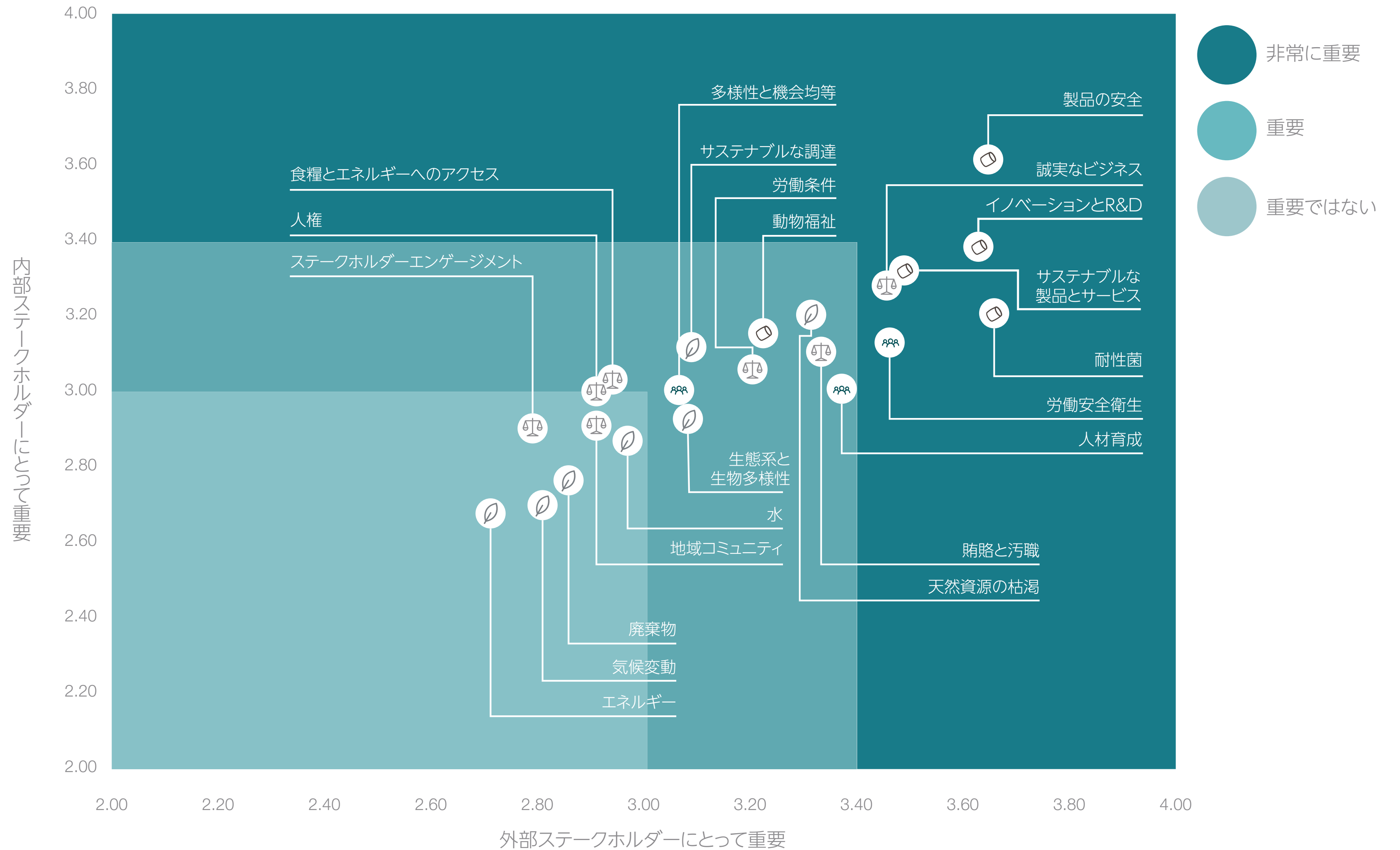
私たちのロードマップ2025は、このマテリアリティアセスメントに基づいて策定されます。このロードマップでは、ステークホルダーが重要とみなす問題、または、食のバリューチェーンを担う企業として、私たちが影響を及ぼし得るとステークホルダーが考える問題に取り組んでいきます。

ステークホルダーの回答者



マテリアリティアセスメントの結果を記します。1.0から4.0までのスコアを設定しています。ある問題のスコアが3.0以下であれば、ここにおけるニュートレコの役割は重要ではない（他の産業における重要度と比較して）と任意に判断します。スコア3.0から3.4の間にある場合、その問題はニュートレコにとって重要とみなします。3.4以上のスコアを付けた問題は、かなり重要でニュートレコにとって優先度の高い対応を必要とする問題とみなします。

マテリアリティアセスメントで取り上げられたすべての問題について、私たちは取り組んでいきますが、転機をもたらす影響を与えられる非常に重要な問題に集中して資源を投下していきます。



- 環境保護
- ビジネスの倫理と誠実性
- 従業員
- 製品の責任

サステナビリティレポート 2021 に寄せて

スクレジットサステナビリティレポート 2020 の日本語版を発行することができ、嬉しく思います。昨年は新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックにより、ビジネスを始め様々な活動を制限されましたが、当社においてサステナビリティへの取り組みはとどまることはありませんでした。自信をもってこのレポートを皆様にお送りしたいと思います。

日本においても、「SDGs」や「サステナビリティ」という言葉が浸透してきました。最近では、「ESG」という新たな言葉を耳にするようになりました。環境 (Environment)、社会 (Society)、企業統治 (Governance) の頭文字をとったものですが、気候変動や人権の問題、そして企業の透明性などが世界的な課題として顕在化する中、これらの観点から事業機会やリスクを把握できない会社は、経営基盤が弱い弱で長期的な成長ができないと考えられるようになりました。

スクレジットにおいても Roadmap2025 というサステナビリティ戦略を開始しました。「健康と動物福祉」、「循環経済」、「良き市民」という3本の柱で、様々な分野で数値目標を設定しています。例えばその一つに、海産由来原料のみならず、植物原料への認証原料の調達があります。また、ダイバーシティ&インクルージョンといった社内における組織の改善など積極的に進めています。

世界が直面する様々な問題は、多様なステークホルダーが関与していかなければ、一企業で解決できるものではありません。私たちが長年培ってきたサステナビリティへの取り組みは、理想を語っているのではなく、日々のビジネスに組み込まれています。その在り方、ノウハウは、日本の養殖産業においても貢献できるものと自負しており、ぜひ多くのステークホルダーとの協働を展開していきたいと考えています。

引き続き皆さまのご理解、暖かいご支援を頂ければ幸いです。



スクレジット株式会社
代表取締役
伊藤 良仁



SKRETTING
a Nutreco company


nuterra™

nutreco

www.skretting.com/sustainability

